

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウソウアイ ヲクダクエン 学校法人 相愛学園									
フリガナ大学の名称	ソウアイダク 相愛大学 (Soai University)									
大学本部の位置	大阪府大阪市住之江区南港中4丁目4番1									
大学の目的	本学は大乗仏教特に浄土真宗の精神に基づき、宗教的情操を涵養し広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。									
新設学部等の目的	音楽全般の知識と教養の履修をベースに楽器演奏、作曲・編曲、合奏技術などの実技、音楽企画の理論と実践、コンピュータやインターネットの知識とプログラミングのIT能力などを修得し、また、事業計画の作成、プロジェクト管理などの経営管理の能力を身に付け、自身でキャリア・デザインして自立できる能力を養うことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	音楽学部 [Faculty of Music]	年	人	年次人	人	学士 (音楽マネジメント)	年 月 第 年次	大阪府大阪市中央区 本町4丁目1番23号		
	音楽マネジメント学科 [Department of Music Management]	4	50	—	200		平成23年4月 第1年次			
計		50	—	200						
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	人文学部 日本文化学科 [定員減] (△20) 英米文化学科 (廃止) (△70) ※平成21年4月学生募集停止 人間心理学科 (廃止) (△80) ※平成23年4月学生募集停止 社会デザイン学科 (廃止) (△60) ※平成23年4月学生募集停止 仏教文化学科 (60) 設置予定 (平成22年5月提出済み) 文化交流学科 (60) 設置予定 (平成22年5月提出済み) ※文化交流学科 [3年次編入学定員 (10)]									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	音楽マネジメント学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	音楽学部	音楽マネジメント学科	6人 (5)	2人 (2)	1人 (1)	0人 (0)	9人 (8)	0人 (0)	104人 (63)
			計	6 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	104 (63)
			音楽学部	音楽学科	11 (15)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	16 (20)	0 (0)
	既設分	人文学部	日本文化学科	7 (8)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	76 (72)
			仏教文化学科	3 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (6)	0 (0)	76 (47)
			文化交流学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	67 (44)
			人間発達学部	子ども発達学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)
	共通教育センター	発達栄養学科	7 (7)	3 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (13)	7 (7)	113 (110)	
		計	5 (4)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (6)	0 (0)	26 (26)	
		計	46 (49)	22 (22)	5 (5)	0 (0)	73 (76)	7 (7)	388 (366)	
	合計	52 (54)	24 (24)	6 (6)	0 (0)	82 (84)	7 (7)	408 (370)		

※平成22年5月届出

※平成22年5月届出

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		60 人 (57)	13 人 (12)	73 人 (69)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	3 (3)	6 (6)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計		63 (60)	16 (15)	79 (75)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	53,868 m <sup>2</sup>	1,263 m <sup>2</sup>	5,814 m <sup>2</sup>	60,945 m <sup>2</sup>	相愛高校 (収容定員:1,200名) 相愛中学校 (収容定員:450人) と共用 届出面積 7,077m <sup>2</sup>			
	運 動 場 用 地	13,028 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	13,028 m <sup>2</sup>				
	小 計	66,896 m <sup>2</sup>	1,263 m <sup>2</sup>	5,814 m <sup>2</sup>	73,973 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	3,086 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	3,086 m <sup>2</sup>				
合 計	69,982 m <sup>2</sup>	1,263 m <sup>2</sup>	5,814 m <sup>2</sup>	77,059 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		35,331 m <sup>2</sup> ( 31,450 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	35,331 m <sup>2</sup> ( 31,450 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	47 室	13 室	129 室	7 室 (補助職員 1人)	1 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 音楽マネジメント学科		室 数 9 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	音楽マネジメント学科	12,501 [2,010] (11,511 [1,920])	46 [32] (46 [32])	21 [21] (21 [21])	927 (927)	5,729 (3,983)	1 (1)		
	計	12,501 [2,010] (11,511 [1,920])	46 [32] (46 [32])	21 [21] (21 [21])	927 (927)	5,729 (3,983)	1 (1)		
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4, 1 1 0 m <sup>2</sup>	339	244,000					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3, 0 2 4 m <sup>2</sup>	テニスコート6面、ゴルフ練習場						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		360千円	360千円	360千円	360千円	－千円	－千円
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	－千円	－千円
		図 書 購 入 費	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－千円	－千円
	設 備 購 入 費	50,000千円	80,000千円	5,000千円	3,000千円	3,000千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	相愛大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	音楽学部 音楽学科	4	120	—	480	学士 (音楽)	0.85	平成 12年度	大阪府大阪市 住之江区南港中 4丁目4番1	
	人文学部 日本文化学科	4	80	—	320	学士 (人文学)	0.47	昭和 59年度		※平成21年4月より 学生募集停止
	英米文化学科	4	70	—	140	学士 (人文学)	—	昭和 59年度		
	人間心理学科	4	80	—	320	学士 (人間心理)	0.67	平成 12年度		※平成23年4月より 学生募集停止
	社会デザイン学科	4	60	—	240	学士 (現代社会)	0.33	平成 12年度		※平成23年4月より 学生募集停止
	人間発達学部 子ども発達学科	4	100	—	400	学士 (子ども発達学)	0.94	平成 18年度		
	発達栄養学科	4	100	—	400	学士 (発達栄養学)	0.79	平成 18年度		
	附属施設の概要	該当なし								

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(音楽学部 音楽マネジメント学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基礎科目	I 群	建学の精神	1前・後	2			○									兼5
	仏教思想と現代	2前・後	2				○									兼5
基礎科目	II 群	科学と人間	2前		2		○									兼1
	環境と人間	2前		2			○									兼1
		生命と人間	2後		2		○									兼1
		大学生のための日本語入門	1前・後		2		○									兼2
		日本語表現法	2前・後		2		○									兼1
		小計 (7科目)		4	10	0		—		0	0	0	0	0	0	兼12
基礎科目・ 共通科目 (大学共通)	人文系	文学と人生	1前		2		○									兼1
		音楽の楽しみ	2前		2		○									兼1
	人文系	西洋美術史	2後		2		○									兼1
		西洋文化史	1前		2		○									兼1
	人文系	美学	1後		2		○									兼1
		日本歴史入門	1後		2		○									兼1
	人文系	世界歴史入門	2前		2		○									兼1
		地理学入門 (地誌を含む)	1前		2		○									兼1
	人文系	倫理学入門	1前		2		○									兼1
		心理学入門	1後		2		○									兼1
	社会科学系	社会学概説	1前		2		○									兼1
		社会と芸術	1後		2		○									兼1
	社会科学系	経済学入門	1前		2		○									兼1
		経営学入門	2前		2		○									兼1
	社会科学系	マーケティング入門	2後		2		○									兼1
		観光学入門	2前		2		○									兼1
	社会科学系	政治学入門	1後		2		○									兼1
		法学入門	1前		2		○									兼1
	社会科学系	日本国憲法	1前		2		○									兼1
		教育原論	1前・後		2		○									兼1
	共通科目	数学入門	2後		2		○									兼1
		地球と宇宙	1前		2		○									兼1
	自然科学系	物理学入門	1前		2		○									兼1
		科学史入門	1前		2		○									兼1
	自然科学系	化学入門	1後		2		○									兼1
		生物学入門	1後		2		○									兼1
	自然科学系	現代と医学	2前		2		○									兼1
		看護介護入門	1後		2		○									兼1
	その他	健康科学	2後		2		○									兼3
		健康とスポーツ実習	1前・後		1				○							兼6
	その他	生涯健康とスポーツ実習	2前・後		1				○							兼6
		キャリアデザイン論	1後		2		○									兼1
	その他	キャリアデザイン演習	2後		2			○								兼1
		インターンシップ	3前・後		1				○							兼1
	その他	情報処理演習	1前・後		2			○								兼6
		情報と社会	1前		2		○									兼1
	その他	生涯学習概論	1後		2		○									兼1
		図書及び図書館史	1前		2		○									兼1
	その他	ボランティア論	2前		2		○									兼1
		ボランティア体験	2後		1				○							兼1
	その他	学校と教師	2前・後		2		○									兼1
		人権教育	2前・後		2		○									兼1
	その他	異文化間教育論	2後		2		○									兼1
		宗門法規	2前		2		○									兼1
	その他	布教法	2後		2		○									兼1

		勤式作法	2後		2			○												兼1	
共通科目 ②	語学関係Ⅰ	英会話Ⅰ	1前		2			○												兼3	
		英会話Ⅱ	1後		2			○												兼3	
		英会話Ⅲ	2前		2			○												兼1	
		英会話Ⅳ	2後		2			○												兼1	
		英語Ⅰ	1前		2			○												兼6	
		英語Ⅱ	1後		2			○												兼6	
		英語Ⅲ	2前		2			○												兼1	
		英語Ⅳ	2後		2			○												兼1	
		ドイツ語Ⅰ	1前		2			○												兼2	
		ドイツ語Ⅱ	1後		2			○												兼2	
	イタリア語Ⅰ	1前		2			○												兼2		
	イタリア語Ⅱ	1後		2			○												兼2		
	フランス語Ⅰ	1前		2			○												兼1		
	フランス語Ⅱ	1後		2			○												兼1		
	中国語Ⅰ	1前		2			○												兼1		
	中国語Ⅱ	1後		2			○												兼1		
	語学関係Ⅱ	資格英語ⅠA	1前		2				○												兼1
		資格英語ⅠB	1後		2				○												兼1
		資格英語ⅡA	1前		2				○												兼1
		資格英語ⅡB	1後		2				○												兼1
資格英語ⅢA		2前		2				○												兼1	
資格英語ⅢB		2後		2				○												兼1	
		小計(68科目)	—	0	132	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼60	
I 群	音楽基礎演習A	1前	2					○												兼1	
	音楽基礎演習B	1後	2					○												兼1	
	ソルフェージュA	1前	2					○		1										兼2	
	ソルフェージュB	1後	2					○		1										兼2	
	合唱	1後	2					○												兼1	
	諸民族の音楽	2前	2				○													兼1	
	音楽の歴史A	1前	2				○													兼1	
	音楽の歴史B	1後	2				○													兼1	
	ポピュラー音楽概論	2前	2				○			1											
	コード・プログレッション	2前	2				○			1											
	和声学	2後	2				○			1										兼1	
	キーボード・ハーモニー	2後	2				○													兼2	
	作・編曲法基礎	3前	2					○		1										兼1	
	作・編曲法応用	3後	2					○		1										兼1	
	楽器学	3前	2				○													兼1	
	楽曲分析	4前	2				○													兼1	
	音楽演習ⅠA	1前	2					○		1										兼15	
	音楽演習ⅠB	1後	2					○		1										兼15	
	音楽演習ⅡA	2前	2					○		1										兼15	
	音楽演習ⅡB	2後	2					○		1										兼15	
	音楽演習ⅢA	3前	2					○												兼16	
	音楽演習ⅢB	3後	2					○												兼16	
	音楽演習ⅣA	4前	2					○												兼16	
	音楽演習ⅣB	4後	2					○												兼16	
	合奏ⅠA	1前	2					○		1										兼4	
	合奏ⅠB	1後	2					○		1										兼4	
	合奏ⅡA	2前	2					○		1										兼4	
	合奏ⅡB	2後	2					○		1										兼4	
	合奏ⅢA	3前	2					○												兼5	
	合奏ⅢB	3後	2					○												兼5	
	合奏ⅣA	4前	2					○												兼5	
	合奏ⅣB	4後	2					○												兼5	
	歌唱法	2後	2					○												兼1	
コンピュータミュージック基礎	3前	2					○												兼1		
コンピュータミュージック制作	3後	2					○												兼1		
		小計(35科目)	—	32	38	0		—		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼36	
専	音楽マネジメント入門	1前	2				○			2	2	1								兼1	
	音楽マネジメント・リーダーシップ論	1前	2				○													兼1	

門 科 目	II 群	キャリアデザイン	1 後	2	○								兼1
		コミュニケーションと交渉術	1 後	2	○								兼1
		音楽とコンピュータ	1 後	2	○			1					
		プログラミング基礎 I	1 後	2	○			1					
		プログラミング演習 I	1 後	2	○	○		1					
		プログラミング基礎 II	2 前	2	○			1					
		プログラミング演習 II	2 前	2	○	○		1					
		アーティストのソフトウェア A	1 後	2	○	○				1			
		アーティストのソフトウェア B	2 前	2	○	○				1			
		ビジネス英語 A	2 前	2	○	○							兼1
		ビジネス英語 B	2 後	2	○	○							兼1
		音楽企画概論	2 後	2	○			1					
		音楽企画演習	2 後	2	○	○		2	1				
		音楽コンテンツ配信の基礎	2 前	2	○			1					
		デジタル音楽機器演習 A	2 前	2	○	○		1					
		デジタル音楽機器演習 B	2 後	2	○	○		1					
		プレゼンテーション	2 後	2	○								兼1
		インターンシップ研究	3 前	2	○	○		1	2	1			
		インターンシップ実習	3 後	1			○	2	2	1			集中
		ビジネス中国語 A	3 前	2	○	○							兼1
		ビジネス中国語 B	3 後	2	○	○							兼1
		音楽著作権	3 前	2	○								兼2 オムニバス
		音楽ビジネス起業論	3 前	2	○			1					
		音楽事業管理論	3 後	2	○			1					
音楽事業経営論	3 後	2	○			1							
国際文化関係論	3 前	2	○								兼1		
アーティスト論	3 後	2	○			1							
音響学 A	3 前	2	○								兼1		
音響学 B	3 後	2	○								兼1		
音楽出版と広告メディア論	4 前	2	○								兼1		
マンガ・アニメ音楽文化論	4 後	2	○								兼1		
ゲーム・ミュージック文化論	4 前	2	○								兼1		
小計 (34 科目)	—	17	50	0	—	2	2	1	0	0	兼13	—	
音楽 ビジ ネス コー ス 専 門 科 目	芸術経営論	2 後	2		○			1					
	デジタル音楽基礎概論	2 前	2		○							兼1	
	I T 音楽産業概論	2 前	2		○		1						
	音楽企画実習	3 前	1			○	2	1					
	音楽産業と文化政策	3 前	2		○		1						
	録音の技術と表現	2 後	2		○							兼1	
	アートマネジメント研究	3 後	2		○		1						
	サウンド・リインフォースメント	3 後	2		○							兼1	
	舞台組織機構概論	3 前	2		○							兼1	
	映像と音楽と放送	4 後	2		○							兼1	
	音楽ビジネス演習	4 前	2		○		1	2					
音楽ビジネス卒業研究	4 後	2		○		1	2						
小計 (12 科目)	—	7	16	0	—	1	2	1	0	0	兼3	—	
I T 音 楽 産 業 コ ー ス 専 門 科 目	デジタル音楽基礎特論	2 前	2		○							兼1	
	I T 音楽産業特論	2 前	2		○		1						
	音楽産業ネットワーク論	2 後	2		○		1						
	音楽とライブラリ構築	3 前	2		○							兼1	
	コンサート企画実習	3 前	1			○	1	1					
	音楽マーケティング論	3 後	2		○							兼1	
	Webデザイン	3 後	2		○							兼1	
	音楽と情報科学	4 前	2		○			1					
	CGプログラミング	4 前	2		○							兼1	
	I T 音楽産業演習	4 前	2		○		1	1					
I T 音楽産業卒業研究	4 後	2		○		1	1						
小計 (11 科目)	—	8	13	0	—	2	1	1	0	0	兼4	—	
合計 (167 科目)	—	68	259	0	—	6	2	1	0	0	兼124	—	

学位又は称号	学士（音楽マネジメント）	学位又は学科の分野	音楽関係、経済学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>&lt;音楽ビジネスコース&gt;</p> <p>○基礎科目・共通科目 22 単位以上  基礎科目から 8 単位以上（I 群から必修 4 単位を含み 6 単位以上、II 群から 2 単位以上）、  共通科目①から 8 単位以上（人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から 1 科目 2 単位以上）、  共通科目②から 4 単位以上（語学関係 I から 4 単位以上を含む）</p> <p>○専門科目 8 2 単位以上（I T 音楽産業コース専門科目を除く）  I 群から必修 3 2 単位を含み 3 4 単位以上、  II 群から必修 1 7 単位を含み 3 6 単位以上、  音楽ビジネスコース専門科目から必修 7 単位を含み 1 2 単位以上</p> <p>○自由選択科目（他学部、他学科開設科目を含めて） 2 0 単位以上</p> <p>合計 1 2 4 単位以上修得すること。</p> <p>&lt; I T 音楽産業コース &gt;</p> <p>○基礎科目・共通科目 22 単位以上  基礎科目から 8 単位以上（I 群から必修 4 単位を含み 6 単位以上、II 群から 2 単位以上）、  共通科目①から 8 単位以上（人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から 1 科目 2 単位以上）、  共通科目②から 4 単位以上（語学関係 I から 4 単位以上を含む）</p> <p>○専門科目 8 2 単位以上（音楽ビジネスコース専門科目を除く）  I 群から必修 3 2 単位を含み 3 4 単位以上、  II 群から必修 1 7 単位を含み 3 6 単位以上、  I T 音楽産業コース専門科目から必修 8 単位を含み 1 2 単位以上</p> <p>○自由選択科目（他学部、他学科開設科目を含めて） 2 0 単位以上</p> <p>合計 1 2 4 単位以上修得すること。</p> <p>（履修科目の登録の上限： 4 4 単位（年間））</p>		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要

(音楽学部 音楽マネジメント学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目 ①	I群 基礎科目	建学の精神	1前・後	2			○									兼5	
		仏教思想と現代	2前・後	2			○									兼5	
		科学と人間	2前		2		○									兼1	
		環境と人間	2前		2		○									兼1	
		生命と人間	2後		2		○									兼1	
	II群	大学生のための日本語入門	1前・後		2		○									兼2	
		日本語表現法	2前・後		2		○									兼1	
	小計(7科目)			4	10	0	-			0	0	0	0	0	兼12	-	
	基礎科目・ 共通科目(大学共通)	人文系	文学と人生	1前		2		○									兼1
			音楽の楽しみ	2前		2		○									兼1
			西洋美術史	2後		2		○									兼1
			西洋文化史	1前		2		○									兼1
			美学	1後		2		○									兼1
			日本歴史入門	1後		2		○									兼1
			世界歴史入門	2前		2		○									兼1
			地理学入門(地誌を含む)	1前		2		○									兼1
			倫理学入門	1前		2		○									兼1
			心理学入門	1後		2		○									兼1
		社会科学系	社会学概説	1前		2		○									兼1
社会と芸術			1後		2		○									兼1	
経済学入門			1前		2		○									兼1	
経営学入門			2前		2		○									兼1	
マーケティング入門			2後		2		○									兼1	
観光学入門			2前		2		○									兼1	
政治学入門			1後		2		○									兼1	
法学入門			1前		2		○									兼1	
日本国憲法			1前		2		○									兼1	
教育原論			1前・後		2		○									兼1	
共通科目 自然科学系		数学入門	2後		2		○									兼1	
		地球と宇宙	1前		2		○									兼1	
		物理学入門	1前		2		○									兼1	
		科学史入門	1前		2		○									兼1	
		化学入門	1後		2		○									兼1	
		生物学入門	1後		2		○									兼1	
		現代と医学	2前		2		○									兼1	
		看護介護入門	1後		2		○									兼1	
		健康科学	2後		2		○									兼3	
		その他	健康とスポーツ実習	1前・後		1				○							兼6
生涯健康とスポーツ実習			2前・後		1				○							兼6	
キャリアデザイン論			1後		2		○									兼1	
キャリアデザイン演習	2後			2				○							兼1		
情報処理演習	1前・後			2				○							兼6		
情報と社会	1前			2		○									兼1		
生涯学習概論	1後			2		○									兼1		
図書及び図書館史	1前			2		○									兼1		
ボランティア論	2前			2		○									兼1		
ボランティア体験	2後			1				○							兼1		
学校と教師	2前・後			2		○									兼1		
人権教育	2前・後			2		○									兼1		
異文化間教育論	2後		2		○									兼1			



		宗門法規	2 前	2		○										兼1	
		布教法	2 後	2		○										兼1	
		勤式作法	2 後	2			○									兼1	
共通科目 ②	語学関係 I	英会話 I	1 前	2			○									兼3	
		英会話 II	1 後	2			○									兼3	
		英会話 III	2 前	2				○								兼1	
		英会話 IV	2 後	2				○								兼1	
		英語 I	1 前	2				○								兼6	
		英語 II	1 後	2				○								兼6	
		英語 III	2 前	2				○								兼1	
		英語 IV	2 後	2				○								兼1	
		ドイツ語 I	1 前	2				○								兼2	
		ドイツ語 II	1 後	2				○								兼2	
		イタリア語 I	1 前	2				○								兼2	
		イタリア語 II	1 後	2				○								兼2	
	フランス語 I	1 前	2				○								兼1		
	フランス語 II	1 後	2				○								兼1		
	中国語 I	1 前	2				○								兼1		
	中国語 II	1 後	2				○								兼1		
	語学関係 II	資格英語 I A	1 前	2				○								兼1	
		資格英語 I B	1 後	2				○								兼1	
		資格英語 II A	1 前	2				○								兼1	
資格英語 II B		1 後	2				○								兼1		
資格英語 III A		2 前	2				○								兼1		
資格英語 III B		2 後	2				○								兼1		
		小計 (67科目)	—	0	131	0	—		0	0	0	0	0	0	兼59	—	
専門科目	I 群	音楽基礎演習 A	1 前	2			○									兼1	
		音楽基礎演習 B	1 後	2			○									兼1	
		ソルフェージュ A	1 前	2				○		1						兼2	
		ソルフェージュ B	1 後	2				○		1						兼2	
		合唱	1 後	2				○								兼1	
		諸民族の音楽	2 前	2			○									兼1	
		音楽の歴史 A	1 前	2			○									兼1	
		音楽の歴史 B	1 後	2			○									兼1	
		コード・プログレッション	2 前	2			○			1							
		キーボード・ハーモニー	2 後	2			○										兼1
		音楽演習 I A	1 前	2				○		1						兼15	
		音楽演習 I B	1 後	2				○		1						兼15	
	音楽演習 II A	2 前	2				○		1						兼15		
	音楽演習 II B	2 後	2				○		1						兼15		
	合奏 I A	1 前	2				○		1						兼4		
	合奏 I B	1 後	2				○		1						兼4		
	合奏 II A	2 前	2				○		1						兼4		
	合奏 II B	2 後	2				○		1						兼4		
	歌唱法	2 後	2				○								兼1		
		小計 (19科目)	—	18	20	0	—		4	0	0	0	0	0	兼24	—	
II 群	音楽マネジメント入門	1 前	2			○			2	2	1						
	音楽マネジメント・リーダーシップ論	1 前	2			○										兼1	
	キャリアデザイン	1 後	2			○										兼1	
	コミュニケーションと交渉術	1 後	2			○										兼1	
	音楽とコンピュータ	1 後	2			○			1								
	プログラミング基礎 I	1 後	2			○			1								
	プログラミング演習 I	1 後	2				○		1								
	アーティストのソフトウェア A	1 後	2				○				1						
	ビジネス英語 A	2 前	2				○									兼1	
	ビジネス英語 B	2 後	2				○									兼1	
		小計 (10科目)	—	12	8	0	—		2	2	1	0	0	0	兼4	—	
合計 (103科目)			—	34	169	0	—		6	2	1	0	0	0	兼98	—	

学位又は称号	学士（音楽マネジメント）	学位又は学科の分野	音楽関係、経済学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>&lt;音楽ビジネスコース&gt;</p> <p>○基礎科目・共通科目 22 単位以上  基礎科目から 8 単位以上（I 群から必修 4 単位を含み 6 単位以上、II 群から 2 単位以上）、  共通科目①から 8 単位以上（人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から 1 科目 2 単位以上）、  共通科目②から 4 単位以上（語学関係 I から 4 単位以上を含む）</p> <p>○専門科目 8 2 単位以上（I T 音楽産業コース専門科目を除く）  I 群から必修 3 2 単位を含み 3 4 単位以上、  II 群から必修 1 7 単位を含み 3 6 単位以上、  音楽ビジネスコース専門科目から必修 7 単位を含み 1 2 単位以上</p> <p>○自由選択科目（他学部、他学科開設科目を含めて） 2 0 単位以上</p> <p>合計 1 2 4 単位以上修得すること。</p> <p>&lt; I T 音楽産業コース &gt;</p> <p>○基礎科目・共通科目 22 単位以上  基礎科目から 8 単位以上（I 群から必修 4 単位を含み 6 単位以上、II 群から 2 単位以上）、  共通科目①から 8 単位以上（人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から 1 科目 2 単位以上）、  共通科目②から 4 単位以上（語学関係 I から 4 単位以上を含む）</p> <p>○専門科目 8 2 単位以上（音楽ビジネスコース専門科目を除く）  I 群から必修 3 2 単位を含み 3 4 単位以上、  II 群から必修 1 7 単位を含み 3 6 単位以上、  I T 音楽産業コース専門科目から必修 8 単位を含み 1 2 単位以上</p> <p>○自由選択科目（他学部、他学科開設科目を含めて） 2 0 単位以上</p> <p>合計 1 2 4 単位以上修得すること。</p> <p>（履修科目の登録の上限： 4 4 単位（年間））</p>		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	1 5 週
		1 時限の授業時間	9 0 分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(音楽学部 音楽マネジメント学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎・共通	その他	インターンシップ	3前・後	1										兼1	集中
	共通科目①	小計(1科目)	—	1				0	0	0	0	0	0	兼1	
I 群	ポピュラー音楽概論	2前	2			○		1							
	コード・プログレッション	2前	2			○		1							
	和声学	2後	2			○		1						兼1	
	キーボード・ハーモニー	2後	2	2		○								兼1	
	作・編曲法基礎	3前	2				○	1						兼1	
	作・編曲法応用	3後	2				○	1						兼1	
	楽器学	3前	2	2		○								兼1	
	楽曲分析	4前	2			○								兼1	
	音楽演習ⅢA	3前	2	2			○							兼16	
	音楽演習ⅢB	3後	2	2			○							兼16	
	音楽演習ⅣA	4前	2	2			○							兼16	
	音楽演習ⅣB	4後	2	2			○							兼16	
	合奏ⅢA	3前	2	2			○							兼5	
	合奏ⅢB	3後	2	2			○							兼5	
	合奏ⅣA	4前	2	2			○							兼5	
	合奏ⅣB	4後	2	2			○							兼5	
	コンピュータミュージック基礎	3前	2				○							兼1	
	コンピュータミュージック制作	3後	2				○							兼1	
	小計(18科目)	—	16	20	0			2	0	0	0	0	0	兼21	—
専 門 科 目	II	プログラミング基礎Ⅱ	2前	2		○		1							
	プログラミング演習Ⅱ	2前	2				○	1							
	アーティストのソフトウェアB	2前	2				○			1					
	音楽企画概論	2後	2			○			1						
	音楽企画演習	2後	2	2			○		2	1					
	音楽コンテンツ配信の基礎	2前	2			○			1						
	デジタル音楽機器演習A	2前	2				○		1						
	デジタル音楽機器演習B	2後	2				○		1						
	プレゼンテーション	2後	2			○								兼1	
	インターンシップ研究	3前	2				○		1	2	1				
	インターンシップ実習	3後	1					○	2	2	1				集中
	ビジネス中国語A	3前	2				○							兼1	
	ビジネス中国語B	3後	2				○							兼1	
	音楽著作権	3前	2			○								兼2	オムニバス
	音楽ビジネス起業論	3前	2			○				1					
	音楽事業管理論	3後	2			○				1					
	音楽事業経営論	3後	2			○				1					
	国際文化関係論	3前	2			○								兼1	
	アーティスト論	3後	2			○				1					
	音響学A	3前	2			○								兼1	
音響学B	3後	2			○								兼1		
音楽出版と広告メディア論	4前	2			○								兼1		
マンガ・アニメ音楽文化論	4後	2			○								兼1		
ゲーム・ミュージック文化論	4前	2			○								兼1		
	小計(24科目)	—	5	42	0			2	2	1	0	0	0	兼9	—
	芸術経営論	2後	2			○			1						

音楽 ビジネス コース 専 門 科 目	デジタル音楽基礎概論	2前		2		○								兼1
	IT音楽産業概論	2前		2		○		1						
	音楽企画実習	3前	1						2	1				
	音楽産業と文化政策	3前		2		○			1					
	録音の技術と表現	2後		2			○							兼1
	アートマネジメント研究	3後		2		○		1						
	サウンド・リインフォースメント	3後		2			○							兼1
	舞台組織機構概論	3前		2		○								兼1
	映像と音楽と放送	4後		2		○								兼1
	音楽ビジネス演習	4前	2				○		1	2				
音楽ビジネス卒業研究	4後	2				○		1	2					
小計(12科目)	—	7	16	0	—	—	—	1	2	1	0	0	兼3	—
IT 音 楽 産 業 コ ー ス 専 門 科 目	デジタル音楽基礎特論	2前		2		○								兼1
	IT音楽産業特論	2前	2			○		1						
	音楽産業ネットワーク論	2後		2		○		1						
	音楽とライブラリ構築	3前		2		○								兼1
	コンサート企画実習	3前		1			○		1	1				
	音楽マーケティング論	3後		2		○								兼1
	Webデザイン	3後		2			○							兼1
	音楽と情報科学	4前		2		○				1				
	CGプログラミング	4前		2			○							兼1
	IT音楽産業演習	4前	2				○		1	1				
IT音楽産業卒業研究	4後	2				○		1	1					
小計(11科目)	—	8	13	0	—	—	—	2	1	1	0	0	兼4	—
合計(66科目)		—	36	92	0	—	—	4	2	1	0	0	兼36	—
学位又は称号		学士(音楽マネジメント)			学位又は学科の分野			音楽関係、経済学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>&lt;音楽ビジネスコース&gt;</p> <p>○基礎科目・共通科目22単位以上 基礎科目から8単位以上(I群から必修4単位を含み6単位以上、II群から2単位以上)、 共通科目①から8単位以上(人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から1科目2単位以上)、 共通科目②から4単位以上(語学関係Iから4単位以上を含む)</p> <p>○専門科目82単位以上(IT音楽産業コース専門科目を除く) I群から必修32単位を含み34単位以上、 II群から必修17単位を含み36単位以上、 音楽ビジネスコース専門科目から必修7単位を含み12単位以上</p> <p>○自由選択科目(他学部、他学科開設科目を含めて)20単位以上</p> <p>合計124単位以上修得すること。</p> <p>&lt;IT音楽産業コース&gt;</p> <p>○基礎科目・共通科目22単位以上 基礎科目から8単位以上(I群から必修4単位を含み6単位以上、II群から2単位以上)、 共通科目①から8単位以上(人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から1科目2単位以上)、 共通科目②から4単位以上(語学関係Iから4単位以上を含む)</p> <p>○専門科目82単位以上(音楽ビジネスコース専門科目を除く) I群から必修32単位を含み34単位以上、 II群から必修17単位を含み36単位以上、 IT音楽産業コース専門科目から必修8単位を含み12単位以上</p> <p>○自由選択科目(他学部、他学科開設科目を含めて)20単位以上</p> <p>合計124単位以上修得すること。</p> <p>(履修科目の登録の上限:44単位(年間))</p>							1学年の学期区分		2学期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要					
(音楽学部音楽マネジメント学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基礎科目・共通科目(大学共通)	I群	建学の精神	本学は1888年に相愛女学校として設立されてから121年の歩みを続けてきた。本願寺第21代の門主であった明如上人は、建学の精神を「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と定め、大都会大阪の中心である船場の子弟教育にこころを注いできた。1958年には山田耕筈氏らによって、関西における最初の女子音楽大学が開設された。その相愛女子大学、学則の第一条にあつては、「本学は大乗仏教とくに浄土真宗の精神に基づき、宗教的情操を涵養し、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と定めている。相愛大学は1984年には人文学部を、2006年には人間発達学部を加え総合大学としての歩みをたどっている。相愛教育121年の歴史にながれる建学の理念と、その理想的人間像実現への方途を教授する。		
		仏教思想と現代	人間はみな自分の人生に、生きる意味を何らかの形で見出したいという願望をもつ。それこそ宗教発生の起源である。宗教はわれわれの生命体の生存の意味の発見に不可欠なものであることを明示したのはゴータマ・ブッダである。混沌とした現代に身を置くわれわれである。人間が抱え直面する環境、平和、民族、性差などのさまざまな問題、ブッダの智慧と慈悲の教えは、どのような理解と実践のありかたを示しつつ人類共通のこの危機を救済するのかを考えて行く。		
		科学と人間	科学は現代社会になくしてはならないものである。科学の成果は、技術と結びつくことで計り知れない恩恵を人間にもたらす一方で、人間生活にマイナスの影響も与えている。科学とは何か、人間はいかに科学を創りあげてきたのか、科学と技術とはどのような関係にあるのか、科学はどのような功罪をもたらしてきたのか、今後の科学はどうあるべきか、など、さまざまな切り口から科学と人間について考える。		
		環境と人間	まず生命科学の基礎的知識を学ぶ。分子生物学の基礎、細胞レベルの生物学、集団レベルの生態学的生物学などを中心に、現代生物学の常識的知見を紹介する。つぎに、生態学的考察から地球環境について学ぶ。環境問題を、自然科学的観点から外観する。最後に地球生態系と今日の環境問題の展望を述べる。		
		生命と人間	今日の科学技術の進展は、個人の選択肢の範囲を拡大し、人類の未来に明るい展望を開くと同時に、人間が自由に操作・コントロールしてもよい範囲と操作してはならない範囲との境界を、私たちにあらためて問うている。本講義では、とくに身体を改善し改造する技術に即して、臓器移植、代理出産、安楽死、能力増強などの具体的な問題に、哲学的・倫理的にアプローチすることを通して、現状を分析し、未来を展望する。そのさい、ただのデータ分析で終わらないように、どの問題にもその根源にまで立ちかえって、その思想的背景をえぐり出すことによって、より深い洞察を得ることを目標とする。		
	II群	大学生のための日本語入門	近年日本の大学生の国語力低下がとりざたされている。外国語の学習も大切だが、すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、発展させるのが本クラスの目的である。日本語の組み立てを理解するとともに、さまざまなタイプの日本語の文章を読み、読解能力の開発に努める。たくさん文章を読むことに慣れるのもこのクラスの方法のひとつである。新聞記事なども使用して、あわせて時事問題についての理解を深め、就職対策の一助ともしたい。		
		日本語表現法	自分の考えを文章や音声の形で上手に表現することは、生活の様々な局面で必須である。書くべき文章の性格を理解し、その文章の読者を想定した上で、事実や意見を分かりやすく表現し、読み手を納得させる文章を書くこと、口頭表現が正確に、上手にできるようになること、これらを目標にする。なお、受講者の作成した文章を素材として使用することがある。		
	共通科目①	人文系	文学と人生	高等学校を卒業した三四郎は、東京の大学に入学する。「人生という丈夫そうな命の根が、知らぬ間に、ゆるんで、いつでも暗闇へ浮き出していきそうに思われる」とは、三四郎の東京での感想である。大学を舞台とした夏目漱石の青春小説『三四郎』に、「青春」と「人生」の意味を考える。	
			音楽の楽しみ	オペラでは、恋愛、政治、陰謀など多種多様な題材が取り扱われ、そこに繰り広げられる世界は多岐に渡っている。そのオペラを材料とし、作品に描き出される登場人物の生き様や人生の諸相について検討したい。そのとき手助けになるのが音楽であり、音楽の表現によって登場人物の内面を推測できる。その推測は聴衆自身の心理の反映でもある。オペラを通して、音楽と人生を考えたい。	

基礎科目・共通科目(大学共通)	人文系	西洋美術史	古代からルネサンスに至る西洋美術の歴史について述べる。絵画、彫刻、建築などの美術作品は、それぞればらばらなものとして存在するのではなく、実は表現においてつながりあうスタイルや精神性を持っている。本講座では、西洋文化の粋といえる古代ギリシャ、中世、ルネサンスにおける美術を取り上げ、その作品を通して、西洋文化の深い精神性にふれる。	
		西洋文化史	フランス革命前夜の18世紀中葉から20世紀までの西洋文化を概観する。貴族からブルジョワへの文化の担い手の変化、工業化や都市化がもたらした生産と需要の変化に着目しながら、西洋における絵画、音楽、文学、映画などの表象文化の変遷を追う。「芸術」や「大衆文化」といった枠にあまりとらわれないこと、西洋文化の奥深さと魅力を探りたい。	
		美学	芸術のモダンティ(現代性)について、映画作品を通して考察する。映画を美術、音楽、文学、ダンスなどの複合的な芸術として読み解くだけでなく、スタジオ・システムと作家性との関係、ハイアートと大衆文化との関係など、近代産業社会における芸術の有り様をめぐる様々な論点について検証していく。	
		日本歴史入門	近現代を中心とした日本の歴史を学ぶことを通して、私たちにあって「日本歴史とは何か」、ということを考える。さまざまな歴史資料を読み解きながら具体的に学ぶ中で、現在そして未来を生きる私たちにあって、歴史を学ぶとはどういうことか、その大切さと楽しさを会得してもらいたい。	
		世界歴史入門	ヨーロッパやアメリカや、日本を含むアジア・アフリカの諸国も、すべてが世界の一部であり、それらの相互関連の中から、「世界史」が生まれてくる。従来のように西洋史・東洋史・日本史というように、個別に取り上げるだけでは、一国の歴史さえ理解できない。おのおのの文化圏の相互の影響を統一的に考えて、世界の歴史または人類の歴史を考えたい。	
		地理学入門(地誌を含む)	地理学は人間が生活する地表のさまざまな現象を解明する科学で、近代に科学に位置づけられた。自然環境を検討する自然地理学、人間の活動が地域に与える影響を検討する人文地理学、地域を総合的に検討する地誌(地域地理学)、地理学的表現方法としての地図についての概要を確認する。	
		倫理学入門	倫理学は、「人間はいかに生きるべきか」という倫理規範に関する問題を、様々な角度から考える学問である。共同体で育まれた自然な義務感情が倫理規範を支えているが、それは国家権力を背景とした法的規範や絶対者の命令に基づく宗教的規範とも、緊張をはらみながらも、密接に関連しつつ人間の生き方を基礎づけている。先哲の種々の倫理学説を紹介しながら、この複雑な問題系にアプローチする手掛かりを考えてみたい。	
		心理学入門	心理学には様々な方法論的立場があるが、本講義では、人間の行動や心の働きに関して、経験科学的な心理学がもたらした知見を紹介する。入門の講義なので、知覚、学習、記憶、思考、知能と創造性、動機、性格、社会心理など、心の働きの広範な側面について最も基礎的な事柄を取り上げ、心に関する全般的な理解を図る。また、心という非実体的な対象を扱う上での、経験科学的心理学独特の観点や研究方法についての理解を目指す。	
	社会科学系	社会学概説	社会学の「社会」とは何をさすのであろうか?「実社会に入る」というときの社会なのか、「社会科」という科目の社会なのか?高校で学ぶ「現社」「政経」とはどう違うのか?テレビでよく見られる「現代社会」という言葉にしても、実は具体的なイメージは描きづらい。こうした社会学にまつわる根本的な問いに答えつつ、社会学の基礎を、環境や恋愛問題など身近なところから解説する。	
		社会と芸術	芸術のない、感情の失われた社会は想像することはできない。産業革命に始まる機械の出現は人間に代わって物を作り出す新しい時代を告げることになるが、機械自体に感情はない。産業革命に始まる近代社会と芸術のかかわりについて、絵画、工芸、建築を通して考える。	
		経済学入門	経済は不思議なことではいっぱいである。市場経済では、なぜ価格が上がったり下がったりするのか、なぜ経済成長にもかかわらず失業がなくならないのか、なぜ好況と不況が繰り返してやってくるのか、なぜ貧富の格差は広がるのか。こうした経済の不思議をテーマに、経済学の基本を講義する。現実の経済現象を把握するため、ビデオを使用しできる限りビジュアルな講義とする。	
		経営学入門	世界的金融危機の中で、企業経営は大きな曲がり角に来ている。物を作り、それを売れば済むような時代ではなく、時代の需要を先取りし、先端に行くことが求められている。この講義では、経営学の基本、人材育成、生産管理、販売計画などを押さえた上で、これからの経営に求められる、情報化(ICT)戦略、財務戦略、国際化戦略などを論じたい。	

基礎科目・共通科目（大学共通）	共通科目①	社会科学系	マーケティング入門	マーケティングとはただモノやサービスを売ることではない。必要な人に必要なものを適時に提供するという基本がなければ、マーケティングは成り立たないのである。このようなマーケティングの基本を、身近な例、たとえば、コンビニエンス・ストアーはどのような営業をしているのかなどを例に、論じたい。	
			観光学入門	初めて観光を学問として学ぼうとする学生に対し、その基礎となる概念や知識を提供する。前半ではまず「観光とは何か」についてその基本的な理解の仕方を説明した上で、観光の歴史や諸制度、観光の社会とのかかわりを学ぶ。後半では、観光を支える社会システムとして、観光に関連した諸事業について概観する。	
			政治学入門	この講義では、近代民主主義国家の主権者としての国民、「選挙に際して平等に一票を有する国民」が、政治に関して知っておくべきさまざまな点について講義する。政治学の基本知識の理解と政治学的思考方法の習得を目指す。抽象的な概念だけでなく、現代日本の政治的現実のさまざまな側面にも触れていく。	
			法学入門	人によって作られるあらゆる社会に人の存在を保障し、社会を維持する「ルール」が存在する。このような「ルール」の中で「法」は最も基本となる。法がどのように生まれ、どのような役割を果たしているかを、人の権利の概念の成立と発展をたどりながら、明らかにする。その上で、現代の日本及び国際社会における法の役割の拡大と発展を論ずる。	
			日本国憲法	誰でも知っているはずの憲法が実際には、あまりにも守られていないのではないかという疑問から出発します。そもそも、今の憲法は、なぜこんな形になっているのかを歴史的に明らかにし、日本という国の形を考えることから、今日重要なものも課題について、新聞記事などを多用しながら、論じます。さらに、現代の人権保障が国際的つながりを持つことも明らかにします。	
			教育原論	この科目は、教育の基礎理論に関する科目であり、教育思想の歴史を振り返り、教育の理念、目的に関してこれまで蓄積されてきた知見に関して思想史的な考察を行うこと、及び、現在の学校教育が抱える様々な問題について、教育改革の歴史や諸外国との比較も視野に入れつつ、その背景にある社会状況の現代の変容を検討すること、の2点を通じて、子どもの発達、成長を促す営みとしての教育の意義と課題について原理的な理解を深めることを目指す。	
		自然科学系	数学入門	数学は自然科学の基礎として、古い歴史を持っている。本講義では、自然科学の歴史的変遷において数学が果たした役割を概観する。古代ギリシャの幾何学から近代科学誕生以降の高等数学の発展まで、具体例をあげつつ、その意義を簡明に紹介し、こうした数学の発展が、人間社会においてどのような意味を持つのかを考える。また、現在の情報化社会において必要とされる情報数学についても、初歩的な解説を加えていく。	
			地球と宇宙	地球を含む惑星系について、最新の知識を概観しつつ、この地球が、宇宙全体から眺めて、どこに位置し、どのような歴史を経て現在に至ったかを解説する。惑星系の未だ解かれていない謎を紹介し、太陽系以外に続々と発見されている系外惑星系について、第二の地球が発見される意義をお話する。更に、現在の地球が抱える様々な環境問題を解説し、今われわれがやらねばならない事柄について、共に考えていきたい。	
			物理学入門	現代の最先端の物理学も、その源流をたどれば、古代ギリシャの自由で想像力豊かな自然哲学から発展したものである。本講義では、そのような物理学の長い歴史を、人間理性が自然をどのように理解していったのかという観点から概観する。また、ニュートン力学に代表される近代科学の成立から、相対論と量子論という20世紀の新しい物理学の登場までを、工業化社会の成立という歴史的視点をふまえて、できるだけ平易に解説する。	
			科学史入門	「科学」というと比較的新しい学問であると思いがちであるが、実は古くから続いてきた人間の知的活動である。世界のさまざまな地域で、さまざまな科学が生まれ、発展し、衰退していった。そのような科学の歴史を、いろいろな実例をたどりつつ概観する。特に、私たちに親しい西洋近代科学についてはその特徴をじっくり調べ、なぜこの科学が成功を取めたのか、またどのような弊害をもたらしたのかを考える。	
			化学入門	化学は分子や原子のレベルで物事や現象を認識する学問である。自然の中で「化学」は広く存在しており、化学なしに自然現象の認識は不可能である。また、化学は科学技術にとっても欠かせぬ重要な分野である。本講義では、原子と原子が結びつき形成される分子、原子と原子との結合である化学結合、物質の状態である気体、液体、固体にどんな性質があるか、さらに我々の生活にもっとも関係しており、また生命現象の解明にも密接に関連した有機化学、有機化合物について概説する。	

基礎科目・共通科目（大学共通）	自然科学系	生物学入門	生物学や生命科学のめざましい進歩は日常生活にも様々な影響を及ぼすようになってきている。また、生物界を含めた自然環境の激変も人間にとっての重大な問題となっている。したがって、現代社会を生きる上で生物学的知識の養育はますます重要になっているにもかかわらず、大学入学までに十分な教育を受けていない学生が多い。そこで、高校の科目「生物」の水準を念頭に、生物学に関する最も基本的な内容を解説する。具体的には、生物の進化の道筋、遺伝・生殖・発生の仕組み、種々の細胞や器官の構造と機能、人間も含めた生物同士あるいは生物と環境との相互作用などのテーマを取り上げる。	
		現代と医学	科学としての医学の成立過程、生命の成り立ち、病気の成り立ちなど、現代医学の基礎について分かりやすく説明するとともに、生命倫理や医療過誤、医療経済、ターミナルケアなど、具体的なトピック、エピソードを交えて紹介し、現代医療と我々の社会が直面する課題を共に考えることを目的とする。また、公衆衛生学の概念・理論に基づき、環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。	
		看護介護入門	人間が生きていくためには心身ともに健康であることが、第一条件である。健康を害した場合、回復の働きかけを担うことが看護であり、心身の機能低下によって起こる生活障害を改善し、人生を支える働きを担うことが介護である。様々な年齢における健康問題にも焦点を当て、そこでの看護介護の役割を考える。	
	その他	健康科学	健康的な生活はわれわれの幸福の源であり、生活の質を高める基本的な条件である。健康的な生活を維持するためには積極的な取り組みが必要である。この授業は健康を維持・増進するための方法を生理的・身体的・精神的な側面から明らかにする。具体的には、乳・幼児期のみならず青少年期、青年期、高齢期にわたる発達と運動、運動の生理と心理、運動の練習法、社会生活と体育・スポーツとの関係について論理的・科学的な検討を加え、生涯にわたり健康で豊かな生活を送るため、健康を自己管理していく際に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。	
		健康とスポーツ実習	これまでの体育科の授業を基礎にして体力・運動能力の向上を目指す。楽しいスポーツの在り方を学び、実習を通して、理解を深め、健康的で充実した学生生活を送るための健康とスポーツ実施の意義を学ぶことをねらいとする。種目としては、「テニス」、「バドミントン」、「卓球」、「ゴルフ」を予定している。前記の種目のうち、指定された2種目あるいは3種目の中から1種目を選択することになる。	
		生涯健康とスポーツ実習	「健康とスポーツ実習」を基礎に、体力・運動能力のいっそうの向上を目指す。生涯スポーツを視野に入れたスポーツの在り方を学び、健康的で充実した生活がおくれるよう、実習を通して理解を深める。種目としては、「テニス」、「バドミントン」、「卓球」、「ゴルフ」を予定している。前記の種目のうち、指定された2種目あるいは3種目の中から1種目を選択することになる。	
		キャリアデザイン論	単なる就職対策的なハウツーではなく、進路選択に必要な情報の提供とビジネストレーニングの手法を取り入れた参加型学習なども取り入れながら、将来のキャリアへの意識づけを行う。「学生生活をどう過ごすか」を軸に「学問の目的」「人生と仕事」「将来ビジョン」を考える。また社会人基礎力としての「ビジネスマナー」「コミュニケーション力」などについて、ワークショップなども適宜行う。具体的内容は、①自己研究(自己理解)、②外部研究(業界・職業理解)、③キャリア研究(社会人基礎力)の3つの分野から構成される。	
		キャリアデザイン演習	本演習では、「生きること」「働くこと」の意味、社会の最近の変化と社会が求めている「人材」への理解、「自分を発見すること」の重要性などを考えてもらうことにする。学生が卒業後の進路・キャリアを考えるうえで、基本的な知識、視点、技術を獲得することを目的とする。社会の様々な分野で活躍しておられる方を講師として招き、①日本の経営の変化、②企業の求める人材、③自己分析・自己理解、④女性が働く社会(ワークアンドバランス)⑤ビジネスマナーの実践、⑥ビジネスの場におけるコミュニケーション力などについて、事例研究や討論、ワークショップなど参加型授業方式を中心に進める。	
		インターンシップ	企業、官公庁、諸団体等において2週間程度の就業体験を行う。管理、総務、営業、企画、製造、研究開発など様々な業務内容を体験することで、①会社の仕組みについての知識や職業適性などについての理解を進め、②自分の適性を見極めることを目的とする。今後の就職活動を考え、将来のキャリアを考える機会とする。具体的な流れは、事前に、①インターンシップの目標設定のレポート作成、②企業関係者等によるビジネス・マナー・トレーニング、③受け入れ先担当者の指導による事例研究を行った後、⑤夏季休暇期間を利用して2週間程度のインターンシップを行う。終了後、⑥自己評価、まとめをしレポートを作成する。	
		情報処理演習	大学生が授業を受けたり研究をしたりする上で必要な、パソコン使用のための基本技能を習得することを目指す。具体的には、コンピュータOSの基本操作、検索ソフトを使つてのインターネット上の情報収集、ワープロソフトによるレポートなどの文書作成、表計算ソフトによるデータの分析、プレゼンテーションソフトを使つた資料の作成と発表などに関して講義を受け、実習を行う。また、タッチタイピングの訓練も行う。	



基礎科目・共通科目（大学共通）	共通科目①	その他	情報と社会	「情報化社会」と呼ばれる現代社会で生きていく上で必要な知識や技能の理解を目指す。そのために、情報や情報処理などの基本的概念、社会の情報化の歴史的経緯と現状、情報化が生み出す様々な利便性や弊害などを解説する。そして、そのような社会の中で、情報を取捨選択したり、利用したり、弊害を避けたりする上で必要な態度や技能を理解する。また、将来に向けての望ましい情報化の方向についても考えていく。	
			生涯学習概論	今日の急激な社会の変化を背景として、生涯学習が多くの人たちの関心を集め、さまざまな場で多様な学習活動が展開されている。この講義では、地域において行われている生涯学習活動の実践事例について具体的に紹介するとともに、成人期の発達段階と発達課題、生涯学習及び社会教育の本質と意義、図書館・公民館等社会教育施設の概要、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育それぞれの役割と相互の連携、学習者への支援方策について概説し、国や自治体の関連施策をふまえ、今後の生涯学習の振興方策について考えていく。	
			図書及び図書館史	日本及び外国の図書及び図書館史を通して図書館の成立基盤の相違を説明しながら、日本の図書館のおかれている位置や諸問題について学習する。内容は、①日本の図書及び図書館史（古代・中世・近世・近代・現代）と②西洋の図書及び図書館史（古代・中世・近世・近代・現代）より構成する。	
			ボランティア論	ボランティアは、障害者、高齢者、児童といった社会福祉の分野を中心に、地域の教育支援、防犯から、さらには国際協力に至るまで、さまざまな分野への広がりを見せている。ボランティアの担い手も、一部の有志者から、企業人にまで及んでいる。ここでは、授業計画に沿って、基礎的なボランティアに関する知見を得ることによって、学生自身による自発的、主体的なボランティア活動につながるように授業を進めてゆきたい。内容は、「ボランティア活動とは」、「ボランティアと障害者」、「バリアフリー」、「ボランティアと高齢者」、「ボランティアと児童」、「ボランティアとNPO」、「企業フィランソロピー」などから成る。	
			ボランティア体験	ボランティア活動の研修を通じて、社会人としてのエチケットを身につけ、人格の涵養に努めて、ボランティア活動や社会貢献・地域貢献の重要性を理解し、社会人としての心構えを学ぶ。事前指導として①ボランティア活動の研修先（候補・期間）の説明、②ボランティア活動計画をたてる、③実習先の紹介、実習にあたっての心構えの指導、④実習に先立っての必要な研修事項等の指導。最低1週間のボランティア活動を経て事後指導。その内容は、①ボランティア活動の報告、経験交流、②自己のボランティア活動に対する評価を行う。	
			学校と教師	本科目は、教育職員免許法の教職科目「教職の意義等に関する科目」に該当し、この授業では、様々な教育実践、授業方法の実例を題材として、実践者の子ども理解、実践意図、実践までの構想や準備を含めて総合的に検討することを通じて、現在の子どもたちと学校がかかえている課題を的確に把握し、それに対応する方法を創り出す力を形成することを目的とする。子どもたちの自己実現を助ける営みとして教育をとらえ、受講生がどのような持ち味と力量をもった教師になろうとするのかを自ら設計していくための契機としたい。	
			人権教育	社会には自分自身を含めさまざまな人々が生きている。人々がお互いに幸せに生活していくためのキーワードの1つが「人権」である。なぜ現代社会で「人権」が重要な意味を持つのか。人権を尊重する社会とはどのような社会なのか。人権を尊重する社会の実現のためには何が必要なのか。そして、人権を尊重する人間を育てるにはどのようにすればいいのか。日常生活の中での素朴で素直な疑問や視点から「人権」「人権教育」に対する理解を深めていきたい。	
			異文化間教育論	異文化間教育とは二つ以上の文化にまたがって展開される教育を指します。私達が暮らす21世紀では、環境、情報、資源、食物等、世界の国々との相互依存が益々重要視されています。人々の移動に伴って異文化摩擦が生じます。教育もその例外ではありません。このクラスでは異文化コミュニケーション論の視点から、文化とコミュニケーションへの理解を深め、在日外国籍市民の数が200万人（うち2万人が日本語指導の必要な子ども達）を超えるという現実を踏まえて、主に日本における異文化間教育を考察し、異文化感受性を養うことを目的とします。	
			宗門法規	本講義は、浄土真宗本願寺派僧侶に開かれた基礎資格免除課程の講座であるが、近年は必ずしも僧侶志願者に限定することなく、幅広くこの講座が受講されている。そこで浄土真宗本願寺派が、どのような組織機構をもち、どのような目的で活動しているのか学んでいく。	
			布教法	聞法と布教は、浄土真宗では最重要であって、その布教理論や方法論は詳細に考究されなければならない。海外をふくめた布教現場の実体験から得た、具体的な課題や問題点を考えていく。	
勤式作法	浄土真宗本願寺派のおつとめに関する基礎知識を中心に、唱法・作法・経意などについて講義する。また、定められた音程でおつとめのできる練習。また定められた動きで作法ができる練習。経典の内容と理解が広がっていく読誦の練習を行う。				

基礎科目・共通科目（大学共通）	共通科目②	語学関係Ⅰ	英会話Ⅰ	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上することである。主に英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。	
			英会話Ⅱ	Following English Conversation I, this course will help students develop communicative skills in English. Since classes will be smaller than in the first semester, students are encouraged to participate in the class activities more actively than in the first semester. 英会話Ⅱに続いて、この授業では英語コミュニケーション能力の育成を測る。前期よりも受講生が少ないことが予想されるので、受講生はますます活発に授業に参加することが期待される。	
			英会話Ⅲ	「英会話Ⅰ,Ⅱ」において養った英会話の基礎力の応用として、より高度な会話力の涵養に努める。あいさつやきまり文句に留まらず、意見のやりとりができる程度の会話力を身につけることを目標とする。	
			英会話Ⅳ	「英会話Ⅲ」の続きとして、英会話力を更に発展させる。意見のやりとりができるような高度な会話力をつけることを目的とする。	
			英語Ⅰ	基本的な文法を復習しながら、英語の理解力と運用力を総合的に向上させることを目指す。そのために音読を重視し、語彙力を増加させることに努める。さらに英語を学ぶことを通じて、国際感覚を育成することも授業の目標とする。文法を復習し、重要な文法規則の活用練習をする。語彙力を向上させる。正しい発音とイントネーションで英語を読む練習をする。「聞く」「読む」「書く」の三技能を重点的に学び、簡単な会話練習もする。	
			英語Ⅱ	「英語Ⅰ」に引き続き、基本的な文法を復習しながら、英語の総合的な理解力と活用能力を向上させることを目指す。英語になれるために音読を重視し、各種英語検定試験を受験するために語彙を増加させることに努める。教科書の各Unitが終わるごとに小テストを行う。文法を復習し、重要な文法規則の活用練習をする。語彙力を強化する。音読を重視する。「聞く」「読む」「書く」の三技能を重点的に学び、簡単な会話練習も導入する。	
			英語Ⅲ	英語Ⅰ,Ⅱにおいて養った英語の基礎力の応用として、なるべく幅広いトピックで書かれた英文を読み、読解力の涵養に努める。可能であれば速読、多読にも挑戦し、英語の文を読む力を実用の域にまで高める。	
			英語Ⅳ	英語Ⅲの続きとして、英語の読解力を更に発展させるためにコンテンツも重視して英文を読み進める。	
			ドイツ語Ⅰ	全体で8課のスケッチから初学者に向けたドイツ語のことばのきまり（文法）を学ぶ。そのつど学習する文法内容に沿いながら、簡単な文章の聴解・読解によって理解力を高め、発音練習・役割練習・作文練習によって能動的な表現力を養っていききたい。また折に触れ、ドイツ語圏（ドイツ・スイス・オーストリア）各地の文化（芸術、食文化等）や日本におけるドイツ文化受容の具体例を紹介する。文法説明にあたっては、基本的に教科書に沿って進めるが、反復・定着練習のためにプリントを併用したり、ドイツ語の特性理解のために兄弟語である英語との対比を行ったりする。文化紹介にあたっては、担当者が持参したプリント、拙論・拙著のコピー、映像・音響ソフトを使用する。	
			ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」の単位取得者を対象に、教科書後半部のスケッチからドイツ語基礎文法を完結する。学習した文法内容に沿いながら、聴解・読解によって理解力を高め、発音・役割・作文練習によって能動的な表現力を養っていく。応用・発展学習として、ドイツ語圏共通の、また地方固有の文化（芸術、クリスマス等）を紹介する。学習内容は基本的に教科書に沿って進めるが、文法の反復・定着のための練習はプリントで補う。文化紹介にあたっては、担当者が持参したプリント、コピー、映像・音響ソフトを使用する。	
イタリア語Ⅰ	簡単な文章の読み書きができるようになること、日常生活における短い会話文を身につけることを目標とします。文の基礎となる文法を学びながら、読む、書く、覚えるを繰り返し、イタリア語を身近な言葉にしていきます。教科書はイタリアに語学留学した学生がイタリア語とイタリア文化を学んでいくという設定になっています。イタリア語だけでなく、イタリア文化にも触れていきます。				

基礎科目・共通科目（大学共通）	共通科目②	語学関係 I	イタリア語 II	動詞の過去時制を中心に学びます。過去形は近過去と半過去と呼ばれるものがあり、それぞれの項目を学んだあと、ふたつの過去形の使い分けについても踏み込みます。ついで目的語の代名詞（直接目的格の代名詞・間接目的格の代名詞）、再帰代名詞へと進みます。基本単語・熟語の習得はもちろん、会話表現も覚えることにします。おりにふれてイタリアの社会や文化を紹介します。		
			フランス語 I	会話文を題材とした教科書を用いて、フランス語のことばのしくみを学びます。発音練習も重視しますので、授業中は積極的に声を出して練習に取り組んでください。また映像資料を使用し、様々なフランス文化にふれることも目的として講義を行います。		
			フランス語 II	「フランス語 I」の内容を引き継ぎ、会話文を題材とした教科書を用いて、フランス語のことばのしくみを学びます。発音練習も重視しますので、授業中は積極的に声を出して練習に取り組んでください。また映像資料を使用し、様々なフランス文化にふれることも目的として講義を行います。		
			中国語 I	中国語学習における最初の難関ともいえる発音の学習を重視しながら、基本的な文法が身につくように学習を進めていく。また言葉の学習と共に、中国の文化や習慣、中国に関連するニュース等も随時紹介し、中国に対する関心及び理解を深められる授業にしていきたい。		
			中国語 II	前期に引き続き、発音、基礎文法を復習しながら、新たな文法解説を中心に授業を行います。教科書に従い授業を進めますが、文章の読む力や書く力を高めて定着するため、プリントで補い、簡単な作文の練習も行います。又、中国の社会事情や今の中国人の暮らしなどもビデオで紹介しながら中国語を学びます。言語の知識と文化の関心を実感できるような授業を目指して行きます。		
			資格英語 I A	基礎的な英語力の涵養に努めます。英検準 2 級合格を視野に入れて、語彙力・読解力・聴解力を鍛えます。プリントまたはテキストを使用して演習を重ねていきます。		
		資格英語 I B	更に英語の基礎力涵養に努めます。近年就職に役立つ TOEIC 対策を視野に入れてまず 400 点を越えられるように毎回プリントまたはテキストを使用して演習を重ねていきます。			
		資格英語 II A	英語の応用力を養います。受講生は英語の語彙や文法、また読む力、聴く力、話す力に関する様々なタイプの問題に取り組み、まずは英検 2 級が合格できる力を養います。			
		資格英語 II B	英語の応用力を養い、制限時間内に問題を解く、答え合わせ、解説、単語/熟語テストなどにより、語彙力の定着をはかります。留学に必要なとされる TOEFL の得点 40 点がクリアーできるだけの英語力をつけることを目指します。			
		資格英語 III A	英語の更なる応用力を養うことを目的とし、いろいろな形式の問題演習を行います。問題練習を積み重ね、TOEIC 試験で 500 点以上を取れる力をつけることを視野に入れて英語学習を進めます。			
		資格英語 III B	やや難しい問題に取り組み、さらに英語力を伸ばすことを目指します。リスニングやリーディングの問題を繰り返し、とりわけ留学に必要な TOEFL の得点向上を目指します。			
		専門科目	I 群	音楽基礎演習 A	音と音楽の違いとは何か、また楽譜の知識や音楽の原理など楽典を中心とした音楽通論全般を扱います。また、簡単な音楽史、邦楽の簡単な知識。世界の民族音楽の紹介。音楽を専門的に学ぶ上で必要な基礎的な事柄を総合的に扱います。	
				音楽基礎演習 B	「音楽基礎演習 A」の続きで音楽通論全般と音楽史、邦楽の知識をより深く学びます。音楽理論を学ぶ基礎になる科目です。またそれに加えてポピュラー系のコード・ネームやリズム、ジャンル毎の特徴を学びます。目標は「音検 3 級」の取得。	
				ソルフェージュ A	視唱や聴音を通して楽譜の読み方、書き方を学びます。主に旋律によって行いますが、平易な和音なども取り上げます。また、様々なリズム打ちを通して拍子感、拍節感の育成を行います。	
ソルフェージュ B	旋律のみならず多声や和音も取り上げ、様々な楽器音による聴音を行ないます。また、和音の種類判別なども行います。そして楽曲の和声進行、形式や構造なども聴き取ることができるようになります。最終的には著名な楽曲を題材にコード進行も含めたレコード・コピーができるようにします。					

専 門 科 目	I 群	合唱	様々な合唱曲に取り組み、声による合奏の面白さを体験します。また、発声法なども学びます。様々な合唱曲を学ぶと和声的な響きを体験でき、その経験を通して音楽理論の学習がより深く身につくこととなります。そして、授業を受ける側だけでなく歌唱指導や指揮などを体験する時間も作ります。	
		諸民族の音楽	さまざまな地域・民族における音楽のあり方について論じながら、それぞれの音楽（音現象）を当該文化の担い手および文化外の者の目がどうとらえているのかについて考察する。諸民族の音楽に関する普遍的な研究方法の諸例を紹介しつつ、ある一つの地域そしてそこに居住する民族の歴史的・文化的背景をふまえた音楽慣習の事例として、東南アジアの音楽芸術を取り上げる。	
		音楽の歴史A	音楽の起源から今日の音楽まで音楽全般の歴史を学びます。前期はクラシック音楽を中心にバロック・古典・前期ロマン派・後期ロマン派まで。また日本音楽史も同時に比較し、江戸・明治時代の音楽を研究します。そして、それらの時代の世界の歴史と社会的背景の関連、作曲技法の変遷、演奏の歴史などを学びます。	
		音楽の歴史B	音楽の起源から今日の音楽まで音楽全般の歴史を学びます。クラシック音楽は近代・現代を取り上げます。また、日本音楽史は昭和と現代邦楽を取り上げます。そして、ポピュラーやジャズの歴史、また日本の商業音楽についても学び、それが音楽ビジネスとどのような関連があるのかを探ります。	
		ポピュラー音楽概論	ポピュラー音楽について様々なジャンルやスタイルの分類と分析を行います。そしてその代表的なリズムの起源と著名な楽曲の分析、またスタンダード・ナンバーと言われ長い間多くの人々に愛されてきた理由と楽曲の時代背景を学びます。	
		コード・プログレッション	コード進行法。様々な種類の和音についてその構造を学び、コード・ネームで表すことができるようにします。そしてそれらの和音の組み合わせ方を学び代表的な和声進行をその調の度数との関連も考えながら組み立てます。	
		和声学	4声体による和音の書式を学びます。簡単な和声進行のバス・ソプラノ課題から学び、徐々に様々な種類の和音による組み合わせに発展させます。そして、非和声音を含む旋律に和声付けができるようにします。	
		キーボード・ハーモニー	コードネーム付きメロディ譜への和声付け及びメロディへのハーモナイズを、実際に鍵盤で弾きながら学んでいきます。そして、カデンツや和声進行を音で確認しながら学びます。	
		作・編曲法基礎	簡単な旋律の作り方、そして旋律への伴奏の作り方、簡単な楽式論も学びます。最初は2小節の「動機（モティーフ）」をどう発展させて4小節（小楽節）、8小節（大楽節）にするか、様々な事例の分析を通して学びます。そして2部形式、3部形式へと発展させます。基礎では歌曲の提出が義務付けられます。	
		作・編曲法応用	複合三部形式やソナタ形式について事例を研究しながら、実際に作ってみます。そして、混声合唱曲や器楽アンサンブルの作曲・編曲を目指します。器楽曲の場合、楽器論も学び、それぞれも楽器の音域や特性を学びます。混声四部合唱曲又は木管五重奏曲の提出が義務付けられます。	
		楽器学	オーケストラの主な楽器（木管・金管・弦・打楽器）、鍵盤楽器、そして電気・電子楽器などをその音域や特性も含めて実際の楽曲を聴きながら学びます。また、楽器と音場の関係、音響学や録音技術との関係も学びます。	
		楽曲分析	クラシックからポピュラー音楽までの数々の名曲を取り上げその構造や形式、和声、楽器法などを分析します。ピアノのためのソナチネのような単純な構造の楽曲から始めて、交響曲のような大きなアンサンブル曲まで取り上げます。そして、代表的なゲーム音楽や映画音楽も分析します。	
		音楽演習 I A	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器）以上の楽器（声楽）の中から選択しグループでレッスンをを行います。楽器の未経験者でも最初からその楽器の演奏法を学ぶことができます。	
音楽演習 I B	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器）「音楽演習 I A」に引き続き演奏技術を学びます。この頃から自主練習をいかに行うかが大切になります。			

専 門 科 目	I 群	音楽演習ⅡA	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器） 「音楽演習ⅠA・B」で選択した楽器（声楽）を引き続き学びます。音楽実技の場合、途中で変更せずある程度の期間集中して学ばないと技術が身につかないからです。	
		音楽演習ⅡB	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器） 必修の最後の授業です。2年間のまとめとして楽曲演奏を披露する機会を設けます。	
		音楽演習ⅢA	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器） 3年目からは選択になりますが、引き続き履修することで更に演奏技術が身につけてきます。届出と承認により楽器（声楽）の変更も可能ですが、なるべくⅠ・Ⅱと同じものにすることが望ましい。	
		音楽演習ⅢB	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器） 3年目の後期になります。ここでも同じ楽器（声楽）を履修することで技術の向上を目指します。	
		音楽演習ⅣA	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器） この段階まで履修を続けると楽器（声楽）が自分のものになってきます。生涯、自分の専攻として音楽活動の中心になります。	
		音楽演習ⅣB	グループ演習（ピアノ・声楽・フルート・クラリネット・サクソフォン・トランペット・ホルン・トロンボーン・チューバ・ギター・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・打楽器） 4年目の後期になります。大学時代に身に付けた実技の能力は、その体験が卒業後の仕事に役に立ちます。	
		合奏ⅠA	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 以上の編成の中から選択し合奏の授業を行います。最初は演奏能力のバランスを見ながら平易な楽曲で行います。	
		合奏ⅠB	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 「合奏ⅠA」に引き続き平易な楽曲を中心に学びます。編成によっては他のグループとの合同授業も行います。	
		合奏ⅡA	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 各グループのアンサンブルのほか学年を超えた全体アンサンブルも行います。	
		合奏ⅡB	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 「合奏ⅡA」に引き続き全体のアンサンブルも行います。楽器の選択状況によりですが、プラスバンドやオーケストラ体験も行います。	
		合奏ⅢA	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 3年目になるとアンサンブルのレパートリーも増えてきます。また全体での合同練習では先輩の指導も行いながら自分のアンサンブル技術を高めていきます。	
		合奏ⅢB	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 「合奏ⅢA」に引き続き様々なレパートリーがこなせるようになります。また、グループごとの自主練習の機会も大切です。	
		合奏ⅣA	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 年間の練習計画を作成しリーダーとなって全体をまとめる方法を学びます。演奏会の企画では自らが出演する実践の場となります。	
		合奏ⅣB	器楽アンサンブル（木管アンサンブル・金管アンサンブル・弦楽アンサンブル・打楽器アンサンブル・軽音楽バンド） 将来の職業に向けて演奏する側の体験が生きてきます。また、演奏会の企画を行い、先輩の指導も行います。	

専 門 科 目	I 群	歌唱法	様々な歌曲を原語で正しい発音、発声法で歌えるようにします。またミュージカル、映画音楽などの挿入歌なども取り上げます。自らの声で音楽を表現する声楽は音楽を最も身近なものとして捉えることができます。	
		コンピュータ ミュージック基礎	コンピュータによる楽譜制作、及び音楽編集。楽譜制作ソフト「Finale」の使い方を学びます。また、簡単な音楽制作ソフト「Singer Song Writer」を用いて既存曲をコンピュータで演奏できるようにします。	
		コンピュータ ミュージック制作	コンピュータによる音楽制作。音楽制作ソフト「Logic」の使い方を学びます。そして、オリジナル楽曲の制作を行います。WAVEについても学び、デジタル・オーディオ・ワークステーション「Pro-tools」への橋渡しも行います。	
	II 群	音楽マネジメント入門	本学科「音楽マネジメント」で学ぶ内容はユニークで日本でも類がない。「音楽」「IT」「経営管理学」といった学術分野を基礎とし、応用・実践としての「アートマネジメント」や「IT音楽産業への展開」まで実に広範囲な領域となる。小規模のグループ化の編成で各専任教員がそれぞれの分野を全般的に概説し履修指導、専攻コース、ならびに将来の進路選定などについても説明を行う。併せて学生の入学時のパソコンやITの知識、音楽の知識のレベルの調整も行う。	
		音楽マネジメント・ リーダーシップ論	まずリーダーシップとは何かを学ぶ。そしてどういうリーダーシップスタイルがあるのかを例と共に学ぶ。リーダーとフォロワーの関係やリーダーシップのある、なしがもたらす問題を学んで何故必要かを知る。そしてどうすれば自身にスタイルがつくれるかを学ぶ。音楽分野でのリーダーと言われる人たちの例も学ぶ。	
		キャリアデザイン	社会人としての人生設計と自立の基本を学ぶ。単にどうすれば自分が目指す仕事、就きたい職業で生活していけるのかといったことでなく、自分に適した人生の目標をどう設定するのか、その設定した目標にどうアプローチをするのか、又、何のスキルを身につけて自分自身の納得のいく人生を築き上げるのか、など本質的な内容と人生におけるお金のもつ意味、生きていくのに最低限必要な金銭など現実面についても生活設計の尺度として学ぶ。	
		コミュニケーションと交渉術	人間社会で生きていく為にコミュニケーションは欠かせないものであるが、単なる会話術だけでなく人と人とのコミュニケーションとは何か、伝えるということは何かという本質を学びつつ、どうすればコミュニケーションのスキルが上達するのか、個人と個人の会話、企業や集団組織の中での話し方から交際マナーまで含めて学ぶ。そして交渉術についてはビジネス上の関心、利益の相反する者が感情的にならずどうアプローチで解決点を見つけていくかなど論ずる。	
		音楽とコンピュータ	コンピュータの誕生から発展の歴史とその社会経済に与えてきた影響について述べる。次にインターネットの出現が「いつでも、どこでも、誰とでも結ぶ」という世界を築きつつあるが、こうした「ネットワーク社会」が社会や経済に与えてきている影響について学ぶ。そしてコンピュータやインターネットが音楽の世界に及ぼしてきたことについて述べる。電子オルガンの誕生、CDやDVDの録音、録画に使われるエレクトロニクス技術、着メロに始まるインターネット音楽配信、携帯電話や携帯音楽再生装置、YouTube動画などの応用分野について学ぶ。	
		プログラミング基礎 I	パソコンのプログラミングの基本について判り易く、親しみ易く教える。応用のソフトウェアとして広く使われ必須のマイクロソフト社のワード（文書作成）、エクセル（表計算）、パワーポイント（プレゼンテーション）を学ぶが、日本語の言語を使ってキーボード入力の操作方法なども日本人向けに平易に教える。この講義は「プログラミング演習 I」と併せて受講することを条件にする。	
		プログラミング演習 I	この演習は「プログラミング基礎 I」と共に受講され、その講義内容をマイクロソフトのウィンドウOSのパソコンを使用して習得する。ワード（文章作成）、エクセル（表計算）、パワーポイント（プレゼンテーション）などのソフトを学ぶ。	
プログラミング基礎 II	「プログラミング基礎 I」の次の段階として多くのインターネット応用ソフトとしてパソコンや携帯電話で使われているJAVA言語を学ぶ。JAVAはプログラミング言語としてコンピュータソフトウェアでその優れた基本構造を持ちオブジェクト指向言語として定着している。その言語構造は人間の論理思考と構造的に似ていて評価も高いが本講義ではそのインターネット用のアプリケーションやゲームのソフトを作ることを目標にしている。「プログラミング演習 II」を併せて受講することを条件としている。			
プログラミング演習 II	「プログラミング基礎 II」の講義内容である「JAVA言語」の習得を目的にしている。			

専 門 科 目	II 群	アーティストの ソフトウェアA	アーティスト、特に音楽関係者に重要なアップル社のMacソフトウェアについて学ぶ。ここではパソコンを使ったことのない者を前提に、使い易さで定評のあるMacソフトウェアの基本操作から応用として音楽コンサートのチラシやプログラムにも使われるPhotoshop, Illustratorなどのソフトウェアを使えるようにする。	
		アーティストの ソフトウェアB	「アーティストのソフトウェアA」の履修ののち、次の応用としてhtml言語やDreamweaverを使ってホームページを作成できることを目指す。	
		ビジネス英語A	英語を単なる日常会話だけでなく、各種ビジネスでの実践面での応用まで含め学ぶ。アメリカ・イギリスの文化や慣習の背景を理解しつつ相手にどう表現すればよりよく伝わるのか、また文書の読み書きはどのような基本があるのかなど学ぶ。「ビジネス英語B」に続く。	
		ビジネス英語B	「ビジネス英語A」に続いて対人、対グループの討議や交渉のための自己表現、内容表現の例題やビジネス・コミュニケーション、事務文章作成や簡単な契約書づくりなどの事例など「ビジネス英語A」で履修したものの応用編である。	
		音楽企画概論	コンサートや舞台芸術の企画制作に必要な各要素の知識の習得を行う。音楽会やそのビジネス環境、企画制作のテーマや考え方、アートマネジメントがめざすもの、ホールなどの文化施設運営、文化政策や推進・助成の状況、広告・宣伝、マーケティング、CD/DVDなどの作成、アーティストマネジメント、コンサートの費用計算、ITの活用、そして音楽祭のいくつかの事例などを含めた内容になる。	
		音楽企画演習	音楽企画の実践応用として学内外の施設でのコンサート企画をいくつかのグループにわけ実際に行う。曲目設定、メンバー選定、チラシ作り、録音、録画作業、集客などを体験する。こうしたモデル化によりコンサート企画などでの課題を理解し検討する。	
		音楽コンテンツ配信の基礎	「音楽」と「IT」との接点になる応用分野は実に多彩で、成長を続けているが、どのようにして音楽のコンテンツ配信が出来ているのか、その仕組みを学ぶ。パソコン、通信、インターネット配信、音響学、デジタル機器、電子オルガン、コンピュータミュージックなどの基礎分野である電子工学、情報処理通信などの観点から平易に解説する。	
		デジタル音楽機器演習A	電子ブロックを使った実験で電気回路の基礎を学びながら、オームの法則など電圧・電流についても学ぶ。ゴールはラジオの組立、又は簡単なアンプの組立まで行い、ラジオが放送を受信する原理、アンプで音が再生できる迄の原理を学ぶ。理科を専攻してこなかった文系の学生にもいわゆる再生による音の出る仕組みなどが学べる基本の講義である。「音楽コンテンツ配信の基礎」と併せて受講する。	
		デジタル音楽機器演習B	パソコンを組み立てることで中身の構造等ハードウェアの構成、OSの機能、種類、発展の歴史などを平易に学ぶ。また、LAN接続、Wi-Fi接続、さらにはインターネットの世界へどのようにつながり、通信ができるのかを学ぶ。	
		プレゼンテーション	相手が個人であれ企業・事業団体の組織集団であれ「相手に何を伝えるか」は大切な要素である。特に異なる背景・経験分野の人達に限られた時間内で簡潔に効率よく伝えることはその「表現の構造・シナリオ」を自身で作ることであり「資料の纏め方」も大切である。効率的な、例えばパワーポイントなどのソフトウェアを利用しつつその「スキル」や「纏め方」を学ぶ。	
		インターンシップ研究	「音楽マネジメント学科」の2つのコース「音楽ビジネスコース」「IT音楽産業コース」の専攻分野に分かれて各々テーマを選んで指導教官の指導のもと調査・研究報告を行う。下に例を挙げてみるが勿論この限りではない。音楽市場の変遷、コンサート他の音楽事業の経営や収益構造、文化助成のあり方、音楽教室や事務所の現状、インターネット音楽配信、コンテンツビジネスの成長変遷、デジタル機器ビジネスやネットワークビジネスの今後。アウトリーチのあり方の海外比較、著作権の問題、オーケストラや合唱団の経営組織や経営状況などが考えられる。	
		インターンシップ実習	現場での実践体験を通して大学での講義内容をより深め、かつ将来の職業把握などに役立てることを目的にしている。コンサートホールなどの文化施設、演奏団体運営事務局、文化事業推進助成団体、音楽教室や音楽事務所、さらに音楽雑誌出版社、放送局、新聞社など。又、IT音楽産業コースの学生にはインターネット配信やコンテンツ配信の起業など計画する。	
ビジネス中国語A	中国語を単なる日常会話だけでなく、各種ビジネスでの実践面での応用まで含め学ぶ。中国の文化や慣習の背景を理解しつつ相手にどう表現すればよりよく伝わるのか、また文書の読み書きはどのような基本があるのかなど学ぶ。「ビジネス中国語B」に続く。			

専 門 科 目	II 群	ビジネス中国語B	「ビジネス中国語A」に続いて対人、対グループの討議や交渉のための自己表現、内容表現の例題やビジネス・コミュニケーション、事務文章作成や簡単な契約書づくりなどの事例など「ビジネス中国語A」で履修したものの応用編である。	
		音楽著作権	(概要) 著作権とは何か? 何故必要なのか? その保護する対象や適用されている現状と問題についてその歴史的発展と共に学ぶ。 CD, DVDなどのコピーの問題、音楽界や各種イベントでの使用権、放送事業への俳優などの出演についても言及する。音楽のみならず文学他の分野にも言及し最近の電子図書館システムについての問題も論じる。 (オムニバス方式/全15回) (66岡岡 浩/12回) 一般的な内容の講義を行う。 (67中井秀範/3回) 舞台や音楽事務所の企画制作現場業務の実務経験者が、放送番組などの制作で実際にどのような問題がおこっているのか、その解決が何かなど講義する。	オムニバス方式
		音楽ビジネス起業論	情報のデジタル化は音楽の分野でも電子楽器からデジタル機器、音響学、CD/DVD、さらに携帯電話や再生装置、iPod/iPad/iPhoneの商品などでインターネット配信や通信を生み出したが、近年情報処理科学を利用して音楽そのものの分析、演奏の表現や分析を行う研究分野も発展している。ここでは主に音楽表現が情報科学とどう結びついているのかいくつかを含め学ぶ。	
		音楽事業管理論	コンサートや舞台芸術さらにはリサイタル、ライブハウスでのパフォーマンスなどその規模に拘わらず事業企画はプロジェクトと考えられ、そのマネジメントはプロジェクトマネジメントとみなされる。ここでは事業企画に基づく事業計画の作成の仕方、プロジェクトマネジメントの手法、コスト計算をベースにしたそれぞれの分析、評価など演習を含め学ぶ。又、企業、事業団体、ホール、音楽事務所などの組織としての事業体の分析にも言及する。	
		音楽事業経営論	コンサートや舞台芸術さらにはリサイタル、ライブハウスでのパフォーマンスなどその規模に拘わらず事業には必ず事業企画・計画が根本である。本講では音楽に限らず事業経営の基本となる財務諸表の基本三表(損益計算、貸借対照表、キャッシュフロー)をいろいろなビジネス例で学びつつビジネスの分析の演習も学ぶ。そして簿記や会計簿の簡単な実用例も学ぶ。	
		国際文化関係論	地球上におけるいろいろな地域には各々の歴史、言語、人種、文化、宗教が存在するがいくつかの例を取り上げ学び理解する。異なる背景を持つ人たちと本当のコミュニケーションが出来る重要性を学ぶ。生徒がグローバルに活躍したりコミュニケーションができる為には単に一つの外国語が出来るだけでは一方的なメッセージの発信にしかない。真の国際人として活躍できる基本を学ぶ。	
		アーティスト論	音楽企画のベースはアーティストである。彼らの望むもの、その「価値」をコンサートなどで最大にすることは重要であり、どう企画を作っていくか、反映させるかは企画の成否にかかわる。アーティストの生きがい、目指し求めるものなどを知ることでアーティスト・マネジメントとは何かを学ぶ。	
		音響学A	音響学の基礎を高低、音色、音量などを科学的に波形、周波数、位相などとの位置づけで学ぶ。音の響きの源泉としての各種の楽器や人の声、さらにいろいろな音楽ホールの音響的な評価・分析を学ぶ。	
		音響学B	「音響学A」をベースにこの講座ではより高度な科学測定など通じ楽器の音響分析やホールの音響分析を行う。ホールのデザインなどについても設計手法や評価方法を学ぶ。	
		音楽出版と広告メディア論	音楽出版業界の一般的状況から音楽雑誌出版の目的、制作されるプロセス、また「コンサート評論」や「レコード評論」が書かれる仕組み、コンサート案内番組や特集記事の作られる仕組みなどを学ぶ。又、楽譜そのものの出版や外国出版社との関係を理解する。広告についてもラジオ、テレビ、新聞他最近ではインターネットなどの新しいメディアを使つての広告メディアについてどのようなメディアがありどのような使われ方をするのが効果的かなど学ぶ。	
		マンガ・アニメ音楽文化論	コンテンツ産業は世界に誇る日本が創出したものであるが中でもマンガやアニメについてはその作品で音楽の果たす役割も大きい。マンガやアニメの生れてきた歴史やいくつかの重要な作品を取り上げて特色を学びシーンに応じたあるべき音楽の選択、作曲なども学ぶ。そして今後のマンガやアニメの発展の方向についても学ぶ。	
		ゲーム・ミュージック文化論	ゲームの誕生からその発展を学び、高度化する歴史をゲームソフトウェアの制作の概要と共に学ぶ。またゲームに効果的な音楽の特色の分析を学ぶ。今後のゲームやビジネスの発展の方向についても学ぶ。	



専 門 科 目	音 楽 ビ ジ ネ ス コ ー ス 専 門 科 目	芸術経営論	アーティスト自身が自立するためにコンサートやリサイタル、アウトリーチなどを企画し実践していることはSelf-producing,あるいはSelf-managementといわれおり今後益々重要になる。そのためには何のスキルが必要かを学び、又既に普及している諸外国の例を知る。	
		デジタル音楽基礎概論	コンピュータの出現は音楽のデジタル化をもたらしたが、最初にその基本である「デジタル化技術」とは何かを学ぶ。そしてMPEGなどデータ圧縮技術の実用化、信号処理に用いられるシグナルプロセッサなどの基本機能について解説。そしてそれらの工業化商品としてのパソコン、ステレオ機器からCD、DVD、携帯電話、携帯音楽再生機器などでどのように使われているかを述べ、電子音楽楽器やその構造を学ぶ。理科などの基本の知識のない学生に向けた講座とする。	
		I T音楽産業概論	コンピュータやインターネットが一般社会や経済にもたらした影響を学びつつ音楽産業社会にも大きく変遷を与えていることについて述べる。技術革新がCD/DVDを生み、iPod、iPadやiPhoneに代表される携帯音楽配信機器を誕生させ、インターネットによる音楽配信、YouTubeなどの動画などを誕生させてきた。ネットワークビジネスとコンテンツビジネスが相乗し成長しているが日本が誇るコンテンツビジネスについても述べる。日本は世界に比べインターネット普及率が鈍化している課題にも触れ世界に誇る高速高品質ブロードバンドの整備や放送との融合など期待されるアプリケーションについて述べる。理科などの基本の知識のない学生に向けた講座とする。	
		音楽企画実習	学内外での施設を使ってコンサートの企画制作の演習を行う。コンサートのテーマを設定し、演奏者を招き学外の施設の使用を求め、チラシや集客活動そして練習日程を組み実演を行う。諸経費の収支計算、税務処理、著作権の算出も学ぶ。履修生徒のグループでの役割と担当を決め体験し成功した点、反省した課題を評価・認識することで現実の問題を理解する。主にアウトリーチによる教育企画を実習として行う。小・中学校を訪問し音楽教育の普及にも貢献する。	
		音楽産業と文化政策	音楽芸術の振興や音楽産業の成長には国の行政による公共政策としての文化政策が大きく寄与する。文化政策とは何か、にはじまりオーケストラなどの演奏家団体、ホールにはじまる文化施設への補助、文化事業そのものの推進や助成についての考え方や組織の仕組みを学ぶ。又日本のあり方について米国やヨーロッパとの比較検討を行う。	
		録音の技術と表現	様々な編成の音楽の録音技術や、デジタル・オーディオ・ワークステーション「Pro-tools」での編集を学ぶ。また、録音スタジオで機材の使い方や様々なミックスの方法などを基礎から学ぶ。国家資格、舞台機構調整技能士（3級）の作業試験の模擬試験なども行う。	
		アートマネジメント研究	アートマネジメントにおけるいくつかのトピックやテーマを選んで研究する講座である。大きなコンサートやオペラ、各国の文化政策と音楽事業の推進助成の比較、日本の各音楽祭の成功と失敗など研究する。又、日米比較としてアウトリーチ教育プログラムの違いについても学ぶ。	
		サウンド・リインフォースメント	音場を作るとき、音のPA（拡声）だけでなく、演奏される空間の響き全体を作るための学習。発音源から聴取の位相まで考慮し、コンサートや演劇などで、音声や楽器の音量を補強したり、音質を補正して音空間を創造することを学ぶ。SRと略されるが、PAはSRの一環として位置づけられる。	
		舞台組織機構概論	コンサートホールでの作業の実際、そして舞台を作るに当たっての様々な分野（録音・照明など）の知識を学ぶ。また、国家資格「舞台機構調整技能士（音響調整技能士）」3級の資格取得をめざし、主に筆記試験対策を行う。在学中に舞台機構調整技能士3級を取得し、その後実社会での経験が資格となる2級、1級へとつながられるようにする。この資格はホールやスタジオなどへの就職に役立つものである。	
		映像と音楽と放送	映像シーンに効果的に使用される音楽や放送番組に必要な音楽について学ぶ。放送局において使用されている機器や番組作成の方法についても学ぶ。	
		音楽ビジネス演習	「音楽ビジネスコース」の学生が指導教員から指導を受け、テーマを決めその分野での研究を繰り返す。また、卒業研究のためのテーマの選定・予備調査として位置づけることもある。	
		音楽ビジネス卒業研究	「音楽ビジネスコース」の学生が指導教員から指導を受け、テーマを決め研究調査報告を行い、卒業論文として纏め上げる。	

専 門 科 目	I T 音 楽 産 業 コ ー ス 専 門 科 目	デジタル音楽基礎特論	コンピュータの出現は音楽のデジタル化をもたらしたが、最初にその基本である「デジタル化技術」とは何かを学ぶ。そしてMPEGなどデータ圧縮技術の実用化、信号処理に用いられるシグナルプロセッサなどの基本機能について解説。そしてそれらの工業化商品としてのパソコン、ステレオ機器からCD、DVD、携帯電話、携帯音楽再生機器などでどのように使われているか述べ、電子音楽楽器やその構造を学ぶ。	
		I T 音楽産業特論	コンピュータやインターネットが一般社会や経済にもたらした影響を学びつつ音楽産業社会にも大きく変遷を与えていることについて述べる。技術革新がCD/DVDを生み、iPod、iPadやiPhoneに代表される携帯音楽配信機器を誕生させ、インターネットによる音楽配信、YouTubeなどの動画などを誕生させてきた。ネットワークビジネスとコンテンツビジネスが相乗し成長しているが日本が誇るコンテンツビジネスについても述べる。日本は世界に比ベインターネット普及率が鈍化している課題にも触れ世界に誇る高速高品質ブロードバンドの整備や放送との融合など期待されるアプリケーションについて述べる。	
		音楽産業ネットワーク論	インターネットのもたらしたネットワークビジネス。どうして日本で使われている携帯端末が何故アメリカやインド、中国、アフリカなどにつながるのだろうか？その技術基盤である通信ネットワーク技術をADSL、光ファイバー、PHSやW-CDMAなどの携帯無線技術について解説し、世界を結ぶネットワークがどうなっているかなどを平易に解説。そして今後の超高速無線ネットワークがどうなるのか？又、求められるアプリケーションの動向などを市場環境含め学ぶ。	
		音楽とライブラリ構築	音楽事業関連の保存・記録すべき資料は実に広範囲である。楽譜、チラシ、プログラムといったハードコピー、SP、LPのレコード、テープやCD/DVDの録音メディア、放送番組の写真や録画などであるがこうした資料はどうファイルされ検索されるべきだろうか？すべての分類カテゴリーを統一的にコンピュータや大きなデータベースに保存し検索することの重要性や方法を学ぶ。	
		コンサート企画実習	学内外での施設を使ってコンサートの企画制作の演習を行う。コンサートのテーマを設定し、演奏者を招き学外の施設の使用を求め、チラシや集客活動そして練習日程を組み実演を行う。諸経費の収支計算、税務処理、著作権の算出も学ぶ。履修生徒のグループでの役割と担当を決め体験し成功した点、反省した課題を評価・認識することで現実の問題を理解する。	
		音楽マーケティング論	どうすれば演奏会やコンサートのチケットは効果的に販売できて集客できるのだろうか？チケットの販売に限らず商品やサービス企画をどのような顧客市場を目標にその市場価値を見極め価格を決めどのような有効な手段・方法でどれだけの費用をかけ販売するのか？そしてその仕組みと方法を講じるのがマーケティングであり、その結果広告・宣伝、セールス活動が実施される。本講では音楽企画活動のためのマーケティングだけでなくマーケティングとは何かを学び、音楽事業などのマーケティングにも言及する。又、いろいろなマーケティングの手法や最近ではインターネットによるマーケティングや販売促進の方法も進んでおりそうした手法についても論じる。	
		Webデザイン	インターネットのアプリケーションとしてのホームページの制作をWebデザインと呼ぶことにするがホームページのデザインは作成する技術的なスキルの習得だけでなくホームページを見るものが視聴覚から受ける感性やアーティスティックな表現が重要かつ大切である。ここではFlashやhtml あるいは Dreamweaverなどのソフトウェアを使った作成を学ぶ。	
		音楽と情報科学	情報のデジタル化は音楽の分野でも電子楽器からデジタル機器、音響学、CD/DVD、さらに携帯電話や再生装置、iPod/iPad/iPhoneの商品などでインターネット配信や通信を生み出したが、近年情報処理科学を利用して音楽そのものの分析、演奏の表現や分析を行う研究分野も発展している。ここでは主に音楽表現が情報科学とどう結びついているのかいくつかを含め学ぶ。	
		CGプログラミング	CG(コンピュータグラフィックス)とは何かから学び、その発展の歴史や代表的な作品の紹介や分析をする。技術的な構成要素など理解した上でCGのプログラミングの基本を学び、高速高性能なパソコンを利用してスキルを習得し簡単な作品を製作する。	
		I T 音楽産業演習	「IT音楽産業コース」の学生が指導教員の指導を受け、テーマを決めその分野での研究を繰り広げる。また、卒業論文のためのテーマの選定・予備調査として位置づけることもある。	
I T 音楽産業卒業研究	「IT音楽産業コース」の学生が指導教員から指導を受け、テーマを決めその研究調査報告を行い、卒業論文として纏め上げる。			

# 相愛大学 音楽学部 音楽マネジメント学科 設置の趣旨等を記載した書類

## ア 設置の趣旨及び必要性

本学では明治39年(1906年)に前身の大阪女子音楽学校を設置してから100年余の間、優れた音楽家を育成してきた。また、昭和33年(1958年)相愛女子大学音楽学部設置以来、その理念として「優れた音楽家とよき音楽文化人を育成する」と謳ってきた。その理念に従い、これまで演奏家や作曲家といった音楽家のみならず、研究者や教育者等も多数輩出してきた。しかし、音楽や芸術を取り巻く社会環境や市場も多様化し大きく変化しており、それぞれの分野ごとに役割を明確にして人材を育成することが必要になってきている。

社会・経済面で日本は戦後、諸外国が驚くほどの奇跡的な回復と経済成長を遂げた。自動車やエレクトロニクス産業などの「ものづくり」による右肩上がりの高度成長を達成し、情報社会、サービス社会へと移りつつあるが、少子・高齢化による環境の変化により、成長より成熟型の社会になってきている。そうした社会で「文化の振興」が果たす役割はますます重要と思われる。

「文化力」は「国家力」に通じるといわれており、音楽に限らず芸術が理解できる教育を深めることは、国の文化の継承・発展そのものを担うものと認識している。

音楽の分野においても「芸術文化の振興」や「音楽産業の発展」の果たす役割は大きい。芸術文化の普及・振興に、音楽に造詣の深い者が参加したり、音楽をビジネスとして普及させるための知識と実践力をもつ専門家などの育成に、教育・研究活動を展開し、社会が求める優れた人材を育成しなければならない。このような社会環境変化への対応として、本学では、音楽学部「音楽マネジメント学科」を設置し、現代社会において要請されている人材を育成していくこととした。

### ○本学科の設置理念と目的

#### 「理念」

日本の将来を担って、「芸術文化の振興」や「音楽産業の発展」に貢献する教育研究を行い、国際的視野をもつ優れた人材を育成する。

#### 「目的」

- ① 音楽や芸術を愛する者が「芸術」に対する豊かな感性を磨き、「音楽」の専門知識と理解を深化させ、「経営管理学」や「IT(情報技術)」を学び、そのスキルを駆使して「アートマネジメント」や「IT音楽産業」などの分野の教育研究と人材育成を行うことで「芸術文化の振興」や、「音楽産業の発展」に貢献する。
- ② 人生設計(キャリアデザイン)ができ、自立の能力を身につけ国際的な視野をもつ人材育成を行う。

本学科にその専門性に応じ「音楽ビジネスコース」と「IT音楽産業コース」の2つの

コースを設ける。「音楽ビジネスコース」の重点分野である「アートマネジメント」は、「芸術文化の振興」と「音楽と社会との関係」といった面を取扱う分野であり、近年欧米において発展し、日本でも学術研究分野としてその必要性を含め重要視されはじめている。また、単なる理論的研究だけでなく、演奏の実演団体、ホールなどの公共施設、行政や企業を含む文化の推進・支援組織など、現場での「実践」を含む大きな学術分野になるものである。音楽をビジネスとして捉え、コンサートや出版・放送など各種音楽メディアの音楽企画を中心に、音楽産業を健全に発展・成長させることも「アートマネジメント」の大切な領域である。

一方、「IT 音楽産業コース」の重点分野である「IT」については、その技術革新のスピードは大変速く、コンピュータやインターネットがあらゆる分野で普及し、社会的にも大きな影響を与えている。音楽分野への応用でも CG プログラミング、アニメ・マンガといった日本が得意とするコンテンツの新産業や、音楽配信ビジネス、共有動画ネット、オーケストラ・コンサートやオペラのインターネットによる実況中継など、新規のビジネス領域の創造も含め「IT 音楽産業」は、今後の重要な発展領域である。

本学科では、「音楽」の基礎や専門知識とともに「経営管理学」の基本や応用と、ソフトウェアなど「IT」の基本と応用を学ぶが、これらは「音楽ビジネス」や「IT 音楽産業」などの専門コースのための基礎であると同時に、コンサート企画での実務やプロジェクト管理、ホール施設の事務処理などの応用実践でも役立つもので、これからの音楽事業を取り巻く環境で大変重要で、効果的な能力となる。

#### ○育成する人材とその能力

本学科で育成する人材の基本的能力は以下の通りである。

##### ①芸術全般に関する造詣を深め、音楽の専門知識を身につける。

歴史や作品などを含め音楽文化に広い知識と理解をもち、器楽演奏、合奏技術、作曲・編曲などを学ぶことで音楽の専門性を追求していく基礎を涵養していく。

##### ②国際性の観点から、ビジネス英語、ビジネス中国語等の実践的語学力を身につけるとともに、異なる文化への理解、コミュニケーション能力を養う。また、リーダーシップ、自己表現に求められるプレゼンテーションの基本、自立のためのキャリアデザインなどを学ぶ。

##### ③「経営管理学」の基本と「IT（情報技術）」の基本を理解し、その応用・実践が効率的に活用できるようにする。「経営管理学」においては、リーダーシップ論、音楽事業のために必要な経営論、音楽事業の事業計画や企画プロジェクトの管理、損益計算から税務処理など、企画から実行までを効果的に行うことができる能力などを涵養し、「IT（情報技術）」においては、音楽に活用できるコンピュータの基礎や、音楽のためのデジタル機器の基礎や応用、ビジネス用やアーティストのためのプログラミングの基礎・応用、音楽コンテンツの配信の基礎と実際などを理解し応用できる能力を涵養する。

### 〈音楽ビジネスコース〉

- ①アートマネジメントを学ぶことで「文化の社会的意義」そのものを認識し「芸術文化の振興」を目指し「文化政策の策定」そのものにかかわる人材や、実務面からアートマネージャーとして「演奏の実演団体」「ホールなどの公共施設」「文化事業の推進・支援組織」などで活躍できる能力をもつ人材を育成する。
- ②「音楽芸術」をビジネス・経営面から捉え、社会における様々な音楽産業で活躍できる人材を輩出することを目的とする。「音楽企画」を理論と実践の両面から学び、コンサートや舞台芸術などの企画制作、またアーティストの育成や活動範囲の拡大等についての企画、アウトリーチなどによる音楽教育の普及活動の企画、録音物の企画制作から出版等に活躍する人材等を育成する。

従事する職業として、履修モデル「A-1」（資料3参照）を基本に履修した学生は、文化政策に携わるアートマネージャー、コンサートの企画、CD/DVD の企画制作、音楽出版、雑誌編集、放送局などでの音楽プロデューサー、ディレクター、コンサートホール・マネージャー、音楽ジャーナリストのほか、スタジオやミュージックスクール、ライブハウスなどの運営スタッフや経営者などをを目指す。

また、履修モデル「A-2」（資料3参照）を基本に履修した学生は、舞台機構調整技能士の資格を取得することが可能で、録音技師、音場ミキシング、サウンド・リインフォースメント担当のほか、スタジオやライブハウス、音楽ホール、音響制作会社、放送局などでの音響スタッフを目指す。

これらの業種の仕事は、現在のところ主として音楽を専門とはしていない学部出身者が占めているが、多様化し成熟した世界や日本の業界では、更に専門化した人材が求められている。音楽学部、人文学部、人間発達学部の3学部を有する本学においては、音楽学部において音楽の専門知識を修得できることは勿論、他の2学部の開放科目等を履修することも可能で、関連する専門知識や幅広い教養を修得した上で、「経営管理学」や「IT（情報技術）」を学ぶことができ、現代社会から要請されている、応用・実践力をも兼ね備えた人材を育成することが可能だと考える。

### 〈IT 音楽産業コース〉

IT や情報通信の技術革新に伴う「コンテンツ産業」や「音楽ソフトの新産業の創出・成長」に貢献する人材を育成する。インターネット通信や携帯電話の「高速ブロードバンド通信」は世界に誇れる日本の技術・ビジネスであり、それらを利用した音楽配信のビジネスや携帯の IT 再生機器もこれからさらに成長する。日本が誇りかつ今後のビジネス拡大が期待される知的財産産業（著作権産業）であるコンテンツ産業の創出・成長にも、これら IT の理解・専門知識が必須となる。音楽ソフトや配信ビジネスなどのコンテンツ産業に音楽の専門性や知識を備えた者が積極的に取り組むことにより、新産業の創出に貢献できる人材を育てる。

従事する職業として、履修モデル「B-1」（資料3参照）を基本に履修した学生は、

携帯電話やパソコンなどのデジタル機器を利用した音楽配信や動画配信などのコンテンツ配信の制作技術スタッフ、ラジオ・テレビ番組の制作技術スタッフ、およびインターネットによるネットマーケティング分野などが考えられる。携帯電話やインターネットによる配信会社、インターネット・プロバイダー、音響機器メーカー、映像制作会社、レコード会社、広告宣伝会社、電子書籍出版会社などのスタッフを目指す。

また、履修モデル「B-2」（資料3参照）を基本に履修した学生は、音楽配信業者、ゲーム、Web、CG アニメなどのプログラムを開発する企業、放送局、レコード会社、出版社、映像配信会社などのスタッフを目指す。

IT 音楽分野の仕事に就く人材を育成してきたのは主に理工学系の学部であり、音楽系大学ではまだ数が少ない。様々なコンテンツの中で音楽が占める割合は少なくなく、音楽系学部大学からもその人材育成を行う必要がある。本学は音楽学部を有する大学としての長い実績を持っている。また、他に人文学部や人間発達学部を有することから、音楽関係科目以外の開講科目も多い。音楽の専門性や知識とともに、幅広い教養を身につける学ぶことができる本学が、今後 IT 音楽産業の水準を高める人材を育成することは、社会の要請と考える。

#### ○学生確保の見通し

平成 21 年 7 月に本学近郊の高校 14 校の生徒 1,291 名に対して市場調査を実施した。(資料 1) それを見ると、昨今の高校生は IT を違和感なく活用しており、また、音楽を学んでかつ就職活動を充実させることに関しても、78%が大きな期待感を伺わせるような回答になっている。さらに、「音楽マネジメント学科は関西で初、日本でも珍しい学科です。この学科に興味がありますか？」との問いに対して、半数以上の 63%が「興味がある。」との回答を示している。また、市場調査(資料 2)においても本学科の目指すもの、カリキュラムの内容、育てる人材像などにほとんどの回答が期待と関心をもっており、また、「音楽マネジメント学科」の設置そのものに対し 88%の回答が「期待する」と答えている。これらの調査結果から、判断して、また、今後、きめ細かな説明会や様々な広報活動を行うことによって、入学定員 50 名の学生の確保は十分可能だと考える。

#### ○卒業後の進路に関する市場での需要調査について

具体的に上述した市場や環境の動向に応じてホール/劇場、プロデューサー事務所、ホテル、音響機器、音楽出版社、音楽事業者、インターネット事業や携帯電話事業関連、携帯電話アプリケーション、コンサルタント事業、人材派遣会社などに訪問あるいはアンケート表を送付して調査した。(資料 2)

調査結果は、上述の通り、ほとんどの回答が期待と関心をもっている。また、音楽関連業界にとって、「音楽的知識や技術が必要とされるならどのような事か」との問いに対して、「楽譜が読めること」、「楽器の知識」、「音楽ジャンルの知識」、「音楽著作権」、「音響に関すること」、「コンサート企画」等が上位を占めており、これら企業のニーズにおいても本

学科の教育が十分応えられると考える。

以上が本学の音楽学部音楽マネジメント学科を設置する趣旨と必要性である。

## イ 学部、学科等の特色

本学科の目的は、音楽や芸術に幅広い教養、高度な専門性、磨かれた感性をもつ学生が「経営管理学」と「IT」を学ぶことで「アートマネジメント」や「IT音楽産業」の分野で活躍する人材を育成し輩出することにある。

- ①本学科は音楽学部属し、歴史と伝統をもつ音楽学科に隣接して作られる。この実績ある音楽学科から異動する専任教員と兼任教員が学部の共通科目として作曲・編曲、ソルフェージュから声楽、器楽演奏や合奏技術を教授していくことになる。
- ②施設・設備においては十分な音楽の練習室が備えられている他、600名の収容人員をもつパイプオルガンを備えたコンサート用ホール（講堂）もあり、音楽の専門知識の修得や芸術への造詣を深め易い環境にある。
- ③芸術や音楽に対する感性を磨き、造詣を深めるためには、語学、文学、心理、歴史、哲学、政治などの教養を身につけることが、大変重要だと考えている。そのために、「基礎科目・共通科目」にこれらの科目をバランスよく配置している。
- ④「教育研究テーマ」の一つは「アートマネジメント」である。この分野は、単に音楽のみならず芸術全般においてその必要性が十分に認識され、諸外国でも近年いろいろな大学で学科やコースが開設されており、学術分野としても成長の過程にある。教科書を用意し講義として教室で教えることと同時に、実務の経験者が実践について教え、かつ学術的な内容にまとめることが重要である。つまり「教育・研究」と「実践」の両輪によって成り立つ価値あるテーマである。

たとえば、「芸術文化の社会環境への意義」といった学術的なテーマのもとに、演奏事業団体、公共施設運営、芸術文化の推進・助成事業体などへ現場訪問を行ない、実際に理解すること。また、教育現場へのアウトリーチ活動に参加して日本の教育文化行政を理解し、諸外国との比較を論じたりすること。コンサート企画・制作、地域との連携のコンサートの企画、雑誌・出版編集や放送番組などの企画、さらにはアーティストが自立するためのモデルなどを含めた広範な音楽企画などが領域となる。

こうした分野を外国でも経験し、実際に日本でも実行してきている専任教員がその任の中心にあたる。

そしてこれらの教育・研究・実践にあつては、既存の音楽学部の歴史・伝統・実績が大きく貢献する。本学が過去に輩出してきた演奏家・作曲家などの音楽家や作品、教育家、コンサート企画の数々、商業ホールとの提携関係などは、この学科の「アートマネジメント」の教育・研究を進める上で大きな基礎財産になる。

実践の履修には、本学が築いてきた音楽関係企業や演奏団体などとの関係を大切に、インターンシップや演習を通じて更に連携を深める。

また、スタジオ録音用機材などをそろえた施設・設備もあり、コンサートのディレ

クターや録音技師などの役割もわかりやすく理解することができ、音楽に関する様々な業務に触れることで、将来の幅広い職業選択の基礎を醸成する環境にある。

- ⑤経営管理学を学び、その応用として、例えば音楽企画を構想・企画、集客、損益計算、プロジェクト管理や事業企画作成などに適用し、より迅速に効率のよい管理手法として学べる科目も備える。
- ⑥コンピュータやインターネットの出現が、社会のあらゆる面に大きな変革をおこしてきているが、音楽の面でも例外ではない。デジタルの基礎から日常生活に欠かせないコンピュータのビジネス面での道具としての活用と、ソフトウェアのプログラミングを平易に基礎から教えることを特色とするが、上記の経営管理学と IT を併せて応用することで更に能率や生産性の向上する企画・制作活動を目指す。
- ⑦音楽アーティスト用のソフトウェアは、汎用ビジネスのソフトウェアとは異なるものが、歴史的にも世界的にも多様・重用されているが、そのソフトウェアのプログラミングも教授し、音楽コンサートの各種配布物、案内から音楽演奏・作曲・表現・分析などコンピュータの音楽から情報処理まで幅広く学ぶことができる。
- ⑧インターネットや携帯電話での音楽配信、流通、Web によるマーケティングなどに始まり、ますますビジネスにおいて成長するコンピュータ・グラフィック、アニメ、マンガなどのコンテンツ産業における基礎を学ぶ。
- ⑨「音楽・文化」を学びたいとの声は、シニア層にも多い。また、音楽大学の演奏系の専攻を卒業し、音楽教室の経営や演奏家として自立している者（本学音楽学部卒業生を含む）にも、「経営管理学」や「IT」への関心が高い。さらに、既に職についている社会人に対して、キャリア・アップの場とし、あるいはキャリア・チェンジのために「経営管理学」や「IT」の各種のスキルを提供することは、大変意義のあることと認識している。

こうした社会人の受け入れについては、「社会人入試」を実施することにより入学者層を広げたり、「科目等履修生」としても受け入れることや、「公開講座」などを実施することで生涯学習の機会を提供しつつ、「地域との接点」を持つ。ただし、科目等履修生の受け入れに関しては、学生の授業に影響しない範囲内で受け入れていくこととする。

以上に述べたように、中教審答申「我が国の高等教育の将来像」の提言にある「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」においては、「音楽分野における教育・研究」、「幅広い職業人養成」と「地域の生涯学習機会の拠点」の機能を特化させることにより、学科の個性・特色の明確化を図る。

## ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

- ① 新学科の目的は音楽家や芸術家などの組織と活動の発展を意図し、各種の企画やインターネットを利用してビジネスの機会などの拡大に努めることであり「音楽マネジメント学科」（英文「Department of Music Management」）は適切な学科名



と考えている。

- ② 日本語での学士号は「学士(音楽マネジメント)」とし、英語名では[Bachelor of Music Management]とする。“Management”という英語は諸外国で学術分野としても確立した語彙であるとの理解からである。

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学科の教育課程の編成の考え方と特色を要約・列記する。

○教育課程の編成について

### (1) 基礎科目・共通科目

本学においては教養教育の重視という観点から、平成 20 年にはその組織的中核となるべき「共通教育センター」を設立したのに続いて、平成 23 年度より教養教育カリキュラムの一新を行うべく、平成 21 年に大学共通の「基礎科目・共通科目」のカリキュラム改訂に着手した。この改定は平成 12 年度制定カリキュラム実施のなかで課題とされていた諸点を改め、中教審答申に示されるような時代の要請を踏まえたものである。その要点は以下の 6 点である。

#### ①建学の精神の一層の具現化

従来『宗教学 A』、『宗教学 B』と称していた科目を『建学の精神』、『仏教思想と現代』とし、内容を具体的に明示するとともに両科目とも必修とした。これによって本学が仏教精神を建学の精神としていることを明示・強調した。

#### ②時代に対応した科目の設置

従来『人類の未来』としていた科目を『科学と人間』、『環境と人間』、『生命と人間』としてより具体的に分割し、現代的課題に取り組む姿勢を明確にした。

#### ③日本語基礎力の涵養

従来、基礎科目として開講していた『基礎演習』(大学での学習方法について学ぶ)の位置づけを各学部・学科の専門科目に移行し、全ての学力の基盤となる日本語能力の涵養を図るために『大学生のための日本語入門』または『日本語表現法』を選択必修とした。

#### ④バランスのとれたコンパクトな科目配置

人文・社会・自然の分野に入門科目を配置し、未修科目のリメディアルと新分野への導入の役割を果たすこととした。また、スポーツ、情報、ボランティア、キャリア関連などの科目も複数配置した。

#### ⑤多様な外国語科目

ドイツ語、イタリア語、フランス語、中国語の第二外国語に加えて、英会話、英語、資格英語などの開講によって外国語運用能力を伸ばせるカリキュラムとした。到達度別の少人数クラスにより学習効果の増大を目指している。

#### ⑥資格支援科目の充実

卒業要件単位外に教職課程、図書館司書課程などを置き、学生の就職のための資格取得が可能となるように計らった。

## (2) 専門科目

本学科の専門科目は、「Ⅰ群（音楽科目群）」、「Ⅱ群（音楽マネジメント科目群）」、「各コースの専門科目」により構成されている。

### (a) Ⅰ群 音楽科目群

本学科は演奏家や音楽家そのものを養成する目的の学科ではないが、「音楽ビジネスコース」や「IT 音楽産業コース」でのアートマネジメント、IT 音楽産業を担う人材は、まず音楽の専門知識と芸術的感性をもつことが基本的に要求される。それらの第一歩として、楽器を手にし、合奏技術を学び、様々な楽器（PC・電子楽器含む）についての知識や、音楽理論を学ぶことにより、簡単な作曲や編曲ができるように、教育課程を編成している。そして、様々な音楽体験を通して、音や響き、音楽作品やアートが、人々にもたらす感動や意味について考えるきっかけにするほか、コンテンツの制作者の側からの見方もできるようにする。

したがって音楽科目群での習得目標と到達目標としては

- ・楽譜を読むことができる。書くことができる。
- ・多くのジャンルの音楽を知っている。
- ・西洋音楽史やポピュラー音楽史の概略を知っている。
- ・音楽理論を学び簡単な作曲法で演習することができる。
- ・様々な楽器についての知識がある。
- ・なにか一つでも楽器を弾くことができる（楽器・声楽）。
- ・コンピュータミュージックの簡単な作曲・編曲・演奏ができる。

などであり、以上を通じて芸術への造詣を深め、歴史や作品などを含め音楽文化に広い知識と理解をもち、器楽演奏、合奏技術、作曲・編曲などを学ぶことで音楽の専門性を追求していく基本的能力を育成していく。

### (b) Ⅱ群 音楽マネジメント科目群

音楽マネジメントにおける全般的な考え方や理論を学び、「音楽ビジネスコース」「IT 音楽産業コース」それぞれの専門的な内容に進む基盤を作る。まず、アートマネジメントの分野の全体像を理解し、様々なジャンルの音楽の専門知識はもとより、社会の動向、音楽ビジネスの現状などについても研究し、幅広い国際性も身につける。

様々な必修科目と選択科目を配置し、多様な人材を養成していくが、それぞれの科目の特徴的な習得目標と到達目標を列挙すると以下ようになる。

- ・ビジネス英語、ビジネス中国語、国際文化関係論、音楽マネジメント・リーダーシップ論、キャリアデザインなど、自立とグローバルな人材に不可欠な基本を身につける。
- ・社会における芸術文化、音楽の位置づけ（役割）を理解し「芸術文化の振興」や「音楽産業の発展」に何が必要なのかを理解する。

- ・音楽会やコンサート等の企画・制作に必要ないろいろな作業や、実行にあたってのプロデューサーやディレクターとしての作業のほか、音響・ミキシング・レコーディングなどの役割や音楽著作権などを基本として学ぶ。
- ・音楽と IT の関係や、IT の基本になるプログラミング、コンピュータやデジタル音楽機器、音楽配信、ネットワーク技術の基礎などを学ぶ
- ・音楽と経営学との関係を学び、簡単な経営者論や、収支計算を含めた事業計画の作成ができるような基本を学ぶ。
- ・マンガ・アニメやゲームなどのコンテンツの中での音楽の役割や、今後の成長など学ぶ。
- ・音楽出版や広告メディアにおいて音楽関係の出版・企画がどのように行われるのか、また、雑誌・新聞などの編集や記事取材のあり方、音楽活動においての広告メディアの実際について学ぶ。
- ・インターンシップなど

在学中の学生が現場をよりよく理解し、将来の職業選択の判断・根拠にも役立てるといふねらいで、音楽関係のプロダクション、ホテル、コンサートホール、音楽教室、音楽出版社などに「インターンシップ実習」として積極的に就業体験をさせる。

以上を通じて、国際性の観点からビジネス英語、ビジネス中国語等の実践的語学力を身につけるとともに、異なる文化への理解、コミュニケーション能力を養う。また、リーダーシップ、自己表現に求められるプレゼンテーションの基本、自立のためのキャリアデザインなどの能力を育成する。

さらに、「経営管理学」の基本では、リーダーシップ論、経営論、事業計画や企画プロジェクトの管理、企画から実行までを効果的に行うことができる能力などを基本的能力として育成し、「IT（情報技術）」では、音楽に活用できるコンピュータの基礎や、音楽のためのデジタル機器の基礎や応用、ビジネス用やアーティストのためのプログラミングの基礎・応用、音楽コンテンツの配信の基礎と実際からマンガ・アニメの文化論からゲームと音楽の関係など基本的な能力を育成する。

そして「インターンシップ実習」において実践現場を知ることによって将来の進路・職業選択の考え方に指針を得させる。

### (c) コース専門科目

#### <音楽ビジネスコース>

アートマネジメントの実践応用分野として、コンサートや DVD 制作、音楽出版物、放送番組など、音楽にかかわる企画・制作の実際を理解し、演習を通じて、企画のスタッフ要員やプロデューサーなど、将来の職業選択としての基礎を学ぶ。また、アートマネジメントの重要な要素である「芸術文化の振興」においては、文化政策がどのようにつくられるか、文化育成のため

の助成や推進事業などの目的や仕組みを理解する。さらには、インターンシップなどを通じて、現場の理解を深める。これらの企画・制作の実際にあたっては、「経営管理学」「IT（情報技術）」の知識や手法を使い、効率のよい運営ができることを学ぶ。これらの科目での習得目標と到達目標は、

- ・コンサートやリサイタルの公演、舞台芸術の企画・制作のあり方を学ぶ。
- ・文化行政、演奏団体運営、文化施設の運営を学ぶ。
- ・文化事業の推進・助成の実際を学び、実践・応用力を身につける。
- ・アーティストの育成や活動、各種音楽祭についての企画や事例を学ぶ。
- ・コンサートなどにおいて必要な音響や、映像、舞台機構などのスペシャリストに必要な技術の基礎を学ぶ。

以上を通じて、「文化の社会的意義」を認識し、「芸術文化の振興」を目指し「文化政策の策定」そのものにかかわる人材や、アートマネージャーとして「演奏の実演団体」「ホールなどの公共施設」「文化事業の推進・支援組織」などで活躍できる能力をもつ人材を育成する。また、「音楽芸術」をビジネス・経営面から捉え、社会における様々な音楽産業で活躍できる基本的能力を理論と実践の両面から学ぶことにより、コンサートや舞台芸術などの企画制作、アーティストの育成や活動範囲の拡大等についての企画、アウトリーチなどによる音楽教育の普及活動の企画、録音物の企画制作から出版等に活躍する人材を育成する。

#### <IT 音楽産業コース>

音楽ソフトや関連産業について理解し、IT 技術による音楽配信の全体を学び、また、コンテンツ産業における様々な分野の音楽に関わる知識・技術を学ぶ。実際に MIDI・WAVE による音楽制作がある程度でき、その関連産業で技術者としても仕事ができるようにする。これらの科目での習得目標と到達目標は、

- ・音楽産業がどのように成り立ち、IT 技術革新がどう変化しているか理解する。
- ・インターネットにおける音楽配信について理解し、簡単なモデルで実践することができる。
- ・携帯端末における音楽についてその技術と今後の発展を学び、簡単なモデルで実践することができる。
- ・ゲーム音楽について理解し、簡易なモデルを制作することができる。
- ・映画や放送番組に使用される音楽について、その特徴を学ぶ。
- ・コンピュータを使って、簡単な楽譜制作ができる。
- ・MIDI について理解し、操作することができる。

以上を通じて、IT や情報通信の技術革新に伴う「コンテンツ産業」や「音

楽ソフトの新産業の創出・成長」に貢献する人材を育成する。特に音楽配信や携帯の IT 再生機器関連のビジネスは、今後拡大が期待される知的財産産業（著作権産業）であり、音楽ソフトや配信ビジネス、ゲーム音楽、映画や放送番組などのコンテンツ産業に必要な能力を備えた人材を育成する。

## オ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員配置の基本的考え方は次の通りである。

- ①専門科目のうち「音楽科目（専門科目／I群）」については音楽の専門分野としての楽器演奏、合奏技術、声楽、作・編曲、指揮、ソルフェージュ、音楽史などに実績のある4名の専任教員（すべて教授）が、「音楽学部音楽学科」から異動し担当する。
- ②『IT 音楽産業概論』『音楽産業ネットワーク論』などを中心に担当する専任教員（教授1名）は、ネットワークやシステムの構築からパソコン、ノートブックパソコン、高機能の携帯端末などに関して、グローバル企業において設計から経営までの実務経験が豊富な教員が、「音楽学部音楽学科」から異動し担当する。
- ③情報処理の基礎とソフトウェア・プログラミング分野は、研究・教育経験が長く、豊富な業績がある専任教員（教授1名）があたる。
- ④『音楽と情報科学』と『アーティストのソフトウェア』を中心とした科目は、専任教員（講師1名）が担当する。
- ⑤経営学および一般応用分野に実務経験のある専任教員（准教授1名）が、『音楽事業経営論』、『音楽事業管理論』をはじめ、『音楽ビジネス起業論』のほか、アートマネジメント分野の科目ならびに『音楽コンテンツ配信の基礎』、『デジタル音楽楽器演奏A』、『デジタル音楽楽器演奏B』なども担当する。
- ⑥『音楽企画概論』、『音楽産業と文化政策』、『アーティスト論』などの科目とともに、『コンサート企画実習』などを中心とするアートマネジメント分野の科目の担当者は、専任教員（准教授1名）をもって望む。
- ⑦その他の科目において、学生が学んでおかなければならない科目、実践・経験が重要視される科目（『音楽著作権』、『マンガ・アニメ音楽文化論』、『ゲーム・ミュージック文化論』、『映像と音楽と放送』、『CG プログラミング』、『音響学』、『舞台組織機構概論』等）については、兼任教員をその任にあてる。

なお、専任教員の年齢構成は、「35歳以下1名、36歳から45歳2名、46歳から55歳3名、56歳から65歳1名、66歳以上2名」とバランスがとれた構成になっている。

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本学科は「音楽芸術と音楽産業の振興」を目的に「アートマネジメント」と「IT音楽産業」を重点分野として人材育成を行う。入学にはじまり、在学中の履修指導、および卒業後の進路ガイドなど、きめ細かいガイダンスとカウンセリングなどを重視している。

履修する科目も「音楽」をベースに「経営管理学」と「IT」に関する科目を学ぶことになるが、それぞれの分野について基礎理論から応用実践を学び、さらにこれらの3つの分野がどのような関係にあるかを学ぶ。そのためには必修科目の重要性と選択科目の選択方法などの科目履修のガイダンスが重要になるが、各専任教員によるクラス別の履修指導を行うこととする。

まず入学時の、「履修ガイダンス」の際に将来の進路選定についても説明を行ない、学生の将来希望進路の分布なども把握する。

一方、学生の授業の履修についても、音楽の知識、楽器演奏経験の有無、合奏技術の経験などを把握し、ITについてもそのスキル・レベルについて把握した上で、履修指導を行う。

1年次の講義科目には『音楽マネジメント入門』が開講され、専任教員が担当するが、その中で、学習の動機付けや学習習慣の形成も図る。

2年次では、学生の適性とコース希望に基づき、それぞれ「音楽ビジネスコース」「IT音楽産業コース」のコース分けを行う。

履修科目の教育については以下の基本方針をもって行う。

- ①教科書・座学中心の講義が必要なものもあるが、多くの「経営管理学」や「アートマネジメント」関連の科目については「ケース・スタディ」や「ハンズ・オン（事例や経験による）」を多用する。
- ②基礎・専門コースの知識の深化のために設定された「実習」、「演習」や「インターンシップ研究」などの有効性を重要視する。

○履修モデル 「音楽マネジメント学科履修モデル A-1、A-2、B-1、B-2」（資料3）参照

本学科では、「音楽」の基礎や専門知識とともに「経営管理学」の基本と応用、ソフトウェアなど「IT」の基本と応用を学ぶが、これらは「音楽ビジネス」や「IT音楽産業」などの専門コースのための基礎であると同時に、コンサート企画での実務やプロジェクト管理、ホール施設の事務処理などの応用実践でも役立つもので、これからの音楽事業を取り巻く環境で極めて重要な能力となる。

「音楽ビジネスコース」の重点分野である「アートマネジメント」は、「芸術文化の振興」と「音楽と社会との関係」といった面を取扱う分野であり、近年欧米において発展し、日本でも学術研究分野としてその必要性を含め重要視されはじめている。また、単なる理論的研究だけでなく、演奏の実演団体、ホールなどの公共施設、行政や企業を含む文化の推進・支援組織など現場での「実践」を含む大きな学術分野になるものである。音楽をビジネスとして捉え、コンサートや出版・放送など各種音楽メディアの音楽企画を中心に、音楽産業を健全に発展・成長させることも「アートマネジメント」の大切な領域である。

一方、「IT音楽産業コース」の重点分野である「IT」については、その技術革新のスピードは大変速く、コンピュータやインターネットがあらゆる分野で普及し、社会的にも大きな影響を与えている。音楽分野への応用でもCGプログラミング、アニメ・マンガといった日本が得意とするコンテンツの新産業や、音楽配信ビジネス、共有動画ネット、オー

ケストラ・コンサートやオペラのインターネットによる実況中継など、新規のビジネス領域の創造も含め「IT 音楽産業」は、今後の重要な発展領域である。

以上の考えに基づき、卒業後の進路に合わせて「音楽ビジネスコース」と「IT 音楽産業コース」それぞれ 2 種類のモデルを学生に呈示することにより履修指導を行う。

「音楽ビジネスコース」では次の 2 つの履修モデルを呈示する。

A-1 コン서트など音楽関連事業の企画・制作とその運営に従事する人材。

具体的には文化政策に携わるアートマネージャー、コンサートの企画、CD/DVD の企画制作、音楽出版、雑誌編集、放送局などでの音楽プロデューサー、ディレクター、コンサートホール・マネージャー、音楽ジャーナリストのほか、スタジオやミュージックスクール、ライブハウスなどの運営スタッフや経営者などを目指す。

A-2 音響制作など舞台でのプロフェッショナル・スタッフ、音響制作関連企業に従事する人材。

具体的には舞台機構調整技能士の資格を取得することが可能で、録音技師、音場ミキシング、サウンド・リインフォースメント担当のほか、スタジオやライブハウス、音楽ホール、音響制作会社、放送局などでの音響スタッフを目指す。

「IT 音楽産業コース」では次の 2 つの履修モデルを呈示する。

B-1 携帯電話やパソコンなどのデジタル機器を利用した音楽配信や動画配信などのコンテンツ配信の制作技術スタッフ、ラジオ・テレビ番組の制作技術スタッフ、およびインターネットによるネットマーケティング分野などに従事するもの。携帯電話やインターネットによる配信会社、インターネット・プロバイダー、音響機器メーカー、映像製作会社、レコード会社、広告宣伝会社、電子書籍出版会社、広告宣伝会社、電子書籍出版会社などのスタッフを目指す。

B-2 音楽配信業者、ゲーム、WEB、CG アニメなどのプログラムを開発する企業、放送局、レコード会社、出版社、映像配信会社などのスタッフを目指す。

## ○卒業要件

卒業するためには、4 年以上在学し、つぎの条件を含めて 124 単位以上を修得しなければならない。内訳は、次の通りである。

<音楽ビジネスコース>

●基礎科目・共通科目 22 単位以上

基礎科目から 8 単位以上（Ⅰ群から必修 4 単位を含み 6 単位以上、Ⅱ群から 2 単位以上）

共通科目①から 8 単位以上（人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から 1 科目 2 単位以上）

共通科目②から 4 単位以上（語学関係Ⅰから 4 単位以上を含む）

- 専門科目 82 単位以上（I T 音楽産業コース専門科目を除く）
    - I 群から必修 32 単位を含み 34 単位以上、
    - II 群から必修 17 単位を含み 36 単位以上、
    - 音楽ビジネスコース専門科目から必修 7 単位を含み 12 単位以上
  - 自由選択科目 20 単位以上
- 合計 124 単位以上修得。

#### < I T 音楽産業コース >

- 基礎科目・共通科目 22 単位以上
    - 基礎科目から 8 単位以上（I 群から必修 4 単位を含み 6 単位以上、II 群から 2 単位以上）
    - 共通科目①から 8 単位以上（人文系・社会科学系・自然科学系の各領域から 1 科目 2 単位以上）
    - 共通科目②から 4 単位以上（語学関係 I から 4 単位以上を含む）
  - 専門科目 82 単位以上（音楽ビジネスコース専門科目を除く）
    - I 群から必修 32 単位を含み 34 単位以上、
    - II 群から必修 17 単位を含み 36 単位以上、
    - I T 音楽産業コース専門科目から必修 8 単位を含み 12 単位以上
  - 自由選択科目 20 単位以上
- 合計 124 単位以上修得。

※自由選択科目とは、基礎科目・共通科目、専門科目、及び他学部・他学科専門科目の中で学則に指定された科目の中から自由に選択する科目をいう。

#### ○履修科目の年間登録上限

履修科目の登録の上限は、年間 44 単位とする。

#### ○他大学における授業科目の履修について

学則第 11 条の 2 に、「他の大学、短期大学において修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある」と規定しており、入学前、入学後を合わせて 60 単位を超えない範囲で認定している。

## キ 施設、設備等の整備計画

大学における施設、設備等の環境については、学生が安全でかつ快適に過ごすことができるよう心がけている。

### (a) 校地、運動場の整備計画

本学の音楽学部がある南港学舎は、大阪市住之江区の南港地区にあり周辺は大阪市が計画的に造成した住宅地と工業団地である。最寄りの大阪市営交通ポートタウン東駅からは徒歩 3 分、大阪の中心である梅田・難波からは 40 分から 50 分でアクセス可能である。本学は発足以来、ビジネス街である船場の中心の本町に高等学校、中学校、短期大学と併設してあったが、当時狭隘な校地を拡張することは至難であり 1983 年に短期大学と大学は



現在地に移転した。しかし今回、本学科を設置するにあたり、開設場所について学内において再検討した結果、学科の目的等を達成するには、ビジネス街である発足時の本町においても展開することが望ましく、この度本町に高等学校、中学校が利用していた校舎を改修、改築し、本学科のみ本町学舎として利用する。なお、高等学校、中学校と同じ校地にはなるが、学生と生徒の導線等については境界を設けるので共用することはない。

既存の校地（南港学舎）は、本学科の1年次および、2年次の一部が学ぶキャンパスであり人間発達学部、人文学部、音楽学部音楽学科と共用する。その面積内訳は、校舎敷地面積 12,144 m<sup>2</sup>、運動場用地 13,028 m<sup>2</sup>、その他 41,491 m<sup>2</sup>となる。3学部の総収容定員 2,220名に対しては十分な面積を確保している。敷地内には、教室棟、図書館、学生厚生館、講堂棟、体育館、運動場等を備えている。「その他」の大部分は芝生や植栽で覆われた空地であり、学生の休息その他の利用のために確保されている。

新たな校地（本町学舎）は、本学科の2年次から4年次が学ぶキャンパスである。本町学舎は、大阪のビジネス街の中心地にあり、大阪市営交通本町駅から徒歩3分でキャンパスに着くことができる。その校舎敷地面積は、1,497 m<sup>2</sup>あり、敷地内には、校舎2棟を整備計画する。運動場は、有さないが、南港学舎への移動時間は、約30分であり、交通の便もよく支障はないと考える。

#### (b) 校舎等の施設の整備計画

南港学舎には、現在12棟ある。講義室、実験・実習室、事務室、研究室等については、1号館から7号館に配している。1号館・2号館の教室については、防音設備が整いピアノを有しており、また個人レッスン室も備えており、音楽学部音楽学科が主に利用している。本学科の音楽関係科目については、この2棟を利用することになる。3号館、6号館、7号館の講義室については、人文学部、人間発達学部が主として利用し、また大学全体の基礎科目・共通科目もこれらの教室で開設されていることから音楽学部音楽学科も利用している。7号館に、PC教室を2室、マルチメディア教室を1室備えるほか、3号館には学生が自由に使用できるPC教室を1室備え、学生は自由に学内LANおよびインターネットを使用することができる。本学科の基礎科目・共通科目と音楽関係科目以外については、この3つの棟を利用することになる。通常の授業は、講義室、演習室、実験実習室で行われるが、これらの教室には有線LANへの接続が可能であり、ノートPC等を持ち込んで授業をすることができる。4号館は、教育研究棟とも呼ばれ、主に研究室等が配され、5号館は、人間発達学部の実験・実習室、研究室等が配されている。なお、本学科の個人研究室、合同研究室については1号館、2号館に配される。図書館棟には、学生自習室が備えられている。学生の憩いの場としては、学生厚生館1階に売店、学生ラウンジ、2階に学生ラウンジ、体育館1階に学生食堂がある。課外活動の場として、学生厚生館3階に学生会室、体育館に各クラブ室、トレーニング室が備えられている。また、音楽学部音楽学科を有していることもあり、600名の収容人員をもつパイプオルガンを備えたコンサート用ホール（講堂）があり、音楽の専攻知識の習得ならびに芸術への造詣を深める環境にある。

本学科は、人文学部の定員を振り替えて設置され、大学全体の収容定員も2,440名から2,220名に減り、さらには新設する「音楽マネジメント学科」については、主に1年次および、2年次の一部が南港学舎を利用することになるので、既設の校舎等施設での収容が十分可能である。教員研究室、合同研究室についても、既設の空き研究室を利用するため特に問題はない。ただし、本学科の目的を達成するにあたり、PCを利用した授業が多数開設されるため、新たに7号館3階の2つの普通教室をPC教室2室（内1室は音楽専用ソフトを整備）に整備し、より高度な技術が修得できるよう計画している。

本町学舎は、高等学校、中学校が利用していた校舎を改修、改築し大学専用として整備する。新館については、改築し大学専用として整備し、旧館については、1階、2階は中学校が利用するが、B1階、3階、4階、5階は大学専用として整備する。新館には、学長室、事務室、保健室、講師室、研究室、学生控室、階段教室等が整備計画される。旧館には、講義室、PC教室、演習室、グループレッスン室、合奏室、楽器練習室、録音スタジオ、実習教室、会議室等が整備計画される。図書室と学生自習室は、旧館に整備計画される。本町学舎は、大学設置基準第36条第1項にいう施設を計画しており、また本学科の2年次から4年次までの定員（150名）と授業開設数から考え、十分であると考え。なお、高等学校以下の学校種と場所を共有するが、施設の共用はない。

#### (c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

既設の南港学舎図書館の蔵書冊数は、212,387冊である。この内、本学科については、音楽関連を中心に、図書を既に11,181冊、学術雑誌は『芸術新潮』、"Current Musicology"など19種類を所蔵しているところから、新学科用として、本町学舎図書室には、音楽マネジメントおよび、アートマネジメント、経営・経済、IT関連図書を中心に、内国書1,200冊、外国書120冊、学術雑誌6種<sup>1</sup>を新たに整備する計画を進めており、南港学舎図書館から移設する2,680冊を併せて、完成年度には約4,000冊の蔵書数を予定している。

南港学舎図書館では、今後、音楽関連の図書、楽譜、視聴覚資料はこれまで通り、計画的に収集するとともに、本町学舎図書室から利用頻度の低くなった資料を移し、保管する役割を果たす。

南港学舎と本町学舎は転送サービスを行い、どちらの図書館（室）に申し込んでも、いずれの蔵書でも利用できるように計画している。

デジタルデータベースについては、南港学舎図書館では国立情報学研究所のGeNiiをはじめ、MagazinePlus、聞蔵Ⅱビジュアル、JapanKnowledge、NAXOS music libraryなどが利用可能になっている。また、電子ジャーナルについても、個別タイトルのほかに、JSTORのArts & Sciences III Collectionを契約し、約200タイトルが利用可能である。そして、平成22(2010)年度には、JapanKnowledge plus NK（日本国語大事典、國史大辞典）への切替のほか、Medical online、食品.LEAD、e-Labelin等の導入を予定している。

本学図書館は、私立大学図書館協会に加盟しており、NACSIS-ILL等を通じて、他大学図書館等との連携・協力体制を構築している。平成20(2008)年度は、他大学等からの申

<sup>1</sup> アートマネジメント研究 <美術出版社>、音楽芸術マネジメント <水曜社>、文化経済学 <文化経済学会「日本」>、文化政策研究 <美学出版>、文化庁月報 <ぎょうせい（1994-2001は既蔵）>、The journal of arts management, law, and society <Heldref Publications>

し出により、閲覧 12 件、貸出 157 件、文献複写 721 件の相互利用協力を実施しており、本学からも、閲覧 4 件、借受 12 件、文献複写 126 件の依頼を行っている。

また、本学主催公開講座の受講者のうち、希望者を対象に、講座で興味を持たれたテーマについて理解をより深めて頂けるように、図書館閲覧証を発行し、閲覧サービスを実施している。

南港学舎図書館は、3 階構造の建物であり、1 階が開架書庫、2・3 階は閲覧室となっている。閲覧座席数は 268 席であり、収容定員に対する座席数の割合は 12.2%を確保している（ほかに学習室 47 席あり）。

レファレンスの対応は、カウンターに併設されたレファレンス・デスクで行っており、平成 20(2008)年度は、約 1,500 件のレファレンス相談があった。

図書館の蔵書データは、LP レコードや貴重図書などを除き、大半がデータベース化され、インターネット上で OPAC として公開されており、学内はもちろん、学外からも検索できる。また、携帯電話からの利用も可能である。

南港学舎図書館内には、約 80 席の視聴覚室や、35 席の視聴覚閲覧席も用意され、約 2 万点の視聴覚資料を利用できる環境も整備されている。

本町学舎図書室には、3 年次分の定員 150 名の 16%にあたる閲覧座席 24 席の他、検索用席 3 席に加え、自習室 16 席を設置する計画である。

## ク 入学者選抜の概要

### (1) アドミッションポリシー（入学者受け入れ/選抜の基本方針）

「音楽学部」のアドミッションポリシーは、既存の「音楽学科」も含め以下のようになっている。

高度な音楽的技術の習得にとどまらず、宗教的情操を備え、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者などの専門家を目指す学生、同時に、音楽を愛好する音楽文化人として文化の諸現象が社会に寄与する意義を感得し、音楽文化と産業の振興に貢献できることを目指す意欲的な学生を受け入れる。

また、音楽マネジメント学科のアドミッションポリシーは、音楽の幅広い基礎知識と教養の履修をベースに楽器演奏、作曲・編曲、合奏、音楽企画の理論と実践、コンピュータやインターネットの知識とプログラミングの IT 能力などを習得し、また、事業計画の作成、プロジェクト管理などの経営管理学の能力を身につけ、自身でキャリアデザインして自立できる能力を養うことのできる人材の養成を目的とする。これらのことから、次のような関心・意欲・目的を持った学生を求める。

- ①音楽企画に実践的に携わりたい人
- ②IT 能力や経営管理学の能力を生かして、音楽の多様な現場で活躍したい人
- ③音楽のプロとしての技量を持つ音楽産業人を目指す人

### (2) 学生募集と選抜方法

以上のような受け入れに対する基本方針の下、以下のような方法で入学者を選抜する。

音楽についての基礎学力の判定は、すでに音楽についての学力が証明されている一部の特別推薦入試の志願者を除き、基本としてどの選抜においても行う。

また、学力検査では評価しがたい受験者の知識や能力と適性・学習に対する意欲などを多面的に判定する方法として、小論文と面接試験および書類審査により判定する。

#### (a) 推薦入試について

指定校制推薦選抜、公募制推薦選抜、特別推薦選抜の3種類を設ける。

##### ①指定校制推薦選抜

本学の教育目標について深い理解を持ち、緊密な信頼関係を維持することのできる高等学校に対して特別に推薦を依頼するもので、本学の教育方針を理解し、志望学科に対する明確な志向とそれに相応しい能力・適性を備えた者を対象に、小論文、面接、調査書等をもとに総合判定により選抜する。

##### ②公募制推薦選抜

基礎学力調査（「音楽」）、小論文、面接、調査書等をもとに総合判定により選抜する。

##### ③特別推薦選抜

相愛高等学校の生徒を、併設校特別推薦として選抜する。また、浄土真宗本願寺派関係高等学校からの志願者については、本学の掲げる条件を満たし、建学の精神や教育内容を理解し、かつ志望学科に対する明確な志向とそれに相応しい能力・適性を備えた者について、特別に選抜する。

#### (b) 一般入試

「英語」、「音楽」、「小論文」を課し、総合判定により選抜する。期日により3回に分け、A,B,Cの日程で実施する。

#### (c) 社会人特別入試

大学入学資格を有する者で入学時において通算して3年以上の定職経験のある者、もしくは、大学入学資格を有する者で入学時に年齢が満23歳以上の者を対象に、入学志望理由書、面接、小論文により選抜する。

## ケ 資格

本学科で、取得可能な資格は、次の通りである。

##### ○図書館司書（国家資格）

卒業要件単位に含まれる共通科目『生涯学習概論』、『図書及び図書館史』のほか、図書館司書課程科目『図書館概論』、『図書館経営論』、『図書館サービス論』、『情報サービス概説』、『レファレンスサービス演習』、『情報検索演習』、『図書館資料論』、『図書館資料特論』、『資料組織概説』、『資料組織演習1』、『資料組織演習2』、『児童サービス論』の履修が必要である。

なお、図書館司書課程科目は卒業要件単位には含まれない。

##### ○舞台機構調整技能士（国家資格）

舞台機構調整技能士の受験資格を得るための関連科目（『楽器学』、『音響学』、『舞

『台組織機構概論』等)が、専門科目に1/3以上開講されていることが条件で、本学科は大阪府職業能力開発協会において3級の受験資格認定校として確認されている。

## サ 企業実習の具体的計画

「音楽マネジメント学科」では、企業実習の科目は、その現場体験による職業観への意識づけ、進路選択の正しい考え方を学ぶ上で大変有効な科目であると位置づけている。ただ、受け入れ先の企業で、学生が効果的に実習するためには、十分な準備が必要である。実習目的、場所、期間、受け入れ先企業の担当者、活動内容、評価方法、本学科での指導教員などの決定の後、企業の機密情報の範囲、個人情報の扱い、ITシステムの使用規定等についても確認し、実施する。

また、学生と受け入れ現場での「安全管理」についても、指導教員が事前に確認する。

### (1) 専門科目におけるインターンシップ

本学科専門科目では、「インターンシップ実習」として、3年次から実施する。その目的は大きく2つある。

①「アートマネジメント」や「IT音楽産業」の教育・研究分野において、大学内の講義や演習等では学べない実践を、企業や事業体現場で経験することで学習内容を充実させること。

②将来の職業選択の意識を高め、選択そのものへの参考にもさせること。

本学科ではホールなどの文化施設の運営団体、文芸事業の推進・助成団体、あるいは音楽企画事務所や音楽配信などのコンテンツ企画制作会社、放送局、新聞社などからの協力を仰ぎ、学生の実習を行う。評価は実習先からの報告書と学生のレポートを総合的に判断し、行う。

実習先は、現在のところ次のようなところを予定している。

文化施設・ホール：いずみホール、シンフォニーホール、栗東サキラ・ホールほか

音楽・エンターテインメント事務所：吉本興業

音楽教室：ヤマハ音楽教室、河合楽器製作所

音響機器メーカー：(株) オンキヨー

電子楽器メーカー：ヤマハ、ローランド

新聞社：朝日新聞社

TV放送局：毎日放送ほか

ラジオ放送局：FM大阪

音楽関係出版社：音楽之友社、全音楽譜出版社

### (2) 基礎科目・共通科目におけるインターンシップ

基礎科目・共通科目においては、1年時に『キャリアデザイン論』、2年時に『キャ

リアデザイン演習』を通して自分のキャリアについて考え、具体的な進路の絞り込みを行い、必要な技能の習得と求職活動準備に取り組む。それを踏まえ3年時に、就労実習・職場体験として『インターンシップ』を実施する。

これらの科目は全学学生に向けてであるが、それぞれの学部・学科でも独自の実習やキャリア関連の科目、インターンシップ等が用意されているので、基礎科目・共通科目におけるインターンシップは、専門性を生かしたものではなく、一般的な就職の支援科目として実施する予定である。本学独自に開拓する企業や大学コンソーシアム大阪の紹介によるインターンシップ先等で夏休みを中心として1~2週間の就労実習を行い、報告書および修了証明を基に単位認定を行う。またインターンシップ前後に事前・事後指導を行う。

## セ 2つ以上の校地において教育を行う場合

専任教員の配置は、主として音楽関係科目を担当する専任教員については、既存の音楽学科科目を兼担することもあり南港学舎へ配置し、マネジメント関係科目を担当する専任教員については、本町学舎へ配置する。教員の時間割は、1日のうちに両キャンパスを移動することがないように担当授業科目の開設時間等においてできる限り配慮する。また、主として南港学舎で行われる会議への参加についても、負担にならないよう配慮する。

本学科の1年次開設科目については、全て南港学舎で開設されるので、学生の本町学舎への移動は発生しない。2年次開設科目については、大学共通の基礎科目・共通科目および一部専門科目が南港学舎で開設されるため、学生の若干の移動は生じると思われるが、授業科目の開設曜日、時間に極力配慮し、原則として週2日を南港学舎で、週3日を本町学舎で受講できるよう調整する。3年次、4年次科目は、本町学舎で開設されるため、学生は基本的には移動は少ないが、南港学舎で、大学全体の各種イベントが開催されることもあるので、参加できるように配慮する。また、両キャンパスの移動時間は、30分程度であり、両キャンパス間を結ぶ大阪市営交通も約5分間隔に電車が運転されており、2~4年次の学生が、南港学舎で開設されている科目を履修することは、十分に可能である。

施設設備についても、両キャンパスに大学設置基準第36条第1項にいう施設を計画しており、特に問題はないと思われる。また、図書については、両キャンパス間で転送サービスを行い、どちらの図書館（室）に申し込んでも、いずれの蔵書でも利用できるように計画している。

## ツ 管理運営

大学学長、副学長（1名）は、理事として相愛大学、相愛高校、相愛中学を設置する学校法人相愛学園理事会に出席し、法人部門と連携している。

大学における教学面の意思決定機関は、平成18年度に人間発達学部設置により、既設の音楽学部、人文学部に併せて3学部になったことに伴い、新たに3学部共通の大学評議会を設け、これまで各学部教授会で審議決定していた全学共通の事項を、大学評議会に委ねることになった。また、学長を中心とする執行機関として執行部会議があり、学部間の

調整や大学評議会の議題の整理などを行う。一方、学部に関わる事項については、学部教授会で審議決定することになる。大学評議会、学部教授会については、原則月1回開催され、その他必要に応じて開催している。

大学評議会は、学則第35条に規定され、学則第36条にその審議事項が規定されている。その審議事項は、次の通りである。

1. 学則および大学全般にわたる諸規程の制定改廃に関する事項
2. 授業および研究に関する基本事項
3. 学生の課外教育、補導に関する事項
4. 学生の賞罰に関する事項
5. 教員の人事に関する基本事項
6. 大学の施設、研究所の新設変更に関する事項
7. その他の大学に関する重要な事項

学部教授会は、学則第32条に規定され、学則第33条にその審議事項が規定されている。その審議事項は、次の通りである。

1. 学部に関する諸規程の制定改廃に関する事項
2. 授業および研究に関する事項
3. 学生の試験、入退学、卒業に関する事項
4. 教員の人事に関する事項
5. その他の学部に関する重要な事項

また、大学評議会設置と同時期に、既存の各学部教授会、全学共通の図書館運営委員会、国際交流部運営委員会に加えて平成18年度から新たに全学入試委員会、全学教務委員会、全学学生委員会、保健管理センター運営委員会、全学就職委員会が設置され、全学的な事項について調整、審議を行っている。その他、全学的な委員会として、人権委員会、宗教委員会、教職課程委員会、ホームページ委員会、情報システム運用委員会、FD委員会、自己点検・評価委員会等があり、それぞれの事項について調整、審議を行っている。

音楽学部では、本学科と音楽学科がそれぞれ相互に綿密な連絡調整をとりながら運営していく。学部共通で行うものとして教授会、主任会がある。主任会は学部長を中心に、学科・専攻主任、教務主任、学生主任、入試主任、演奏主任で構成され、学部運営の円滑な進行にあたっている。学部の意志決定は教授会でなされ、学部構成教員全員の出席のもとで開催され、前述の内容について審議がなされている。学科・専攻に関する意志決定は学科・専攻会議で行われる。学科・専攻会議は、主任を中心に構成教員全員の出席のもとで開催され、様々な事項を審議し運営し、この決定事項をもとに全学各種委員会、学部各種委員会に委員が出席し学科の意志が反映されている。

また、学部には各種委員会が組織されているので、各学科・専攻より委員を選出し、教育研究を円滑に推進し、学科の意向を積極的に反映できるよう連携が取られている。本学科開設後も同様の運営を行っていく。

各委員会等で審議、検討された事項については、大学における教学面の意思決定機関である大学評議会において、様々な案件が審議または報告がなされ、全学の意思統一が図られている。

## テ 自己点検・評価

本学学則第1条の2に、「本学は教育水準の向上を図り、目的及び使命を達成するため教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う」と規定されている。この事を受け、平成7年度には、教育研究上の組織、学生の受け入れ、教育課程、研究活動、学生生活への援助、図書館を含む施設設備、管理運営などについて自己点検評価を行うことを目的とした「相愛大学自己点検・評価の実施に関する規程」が制定され、学長を委員長として自己点検・評価委員会が設置された。

自己点検・評価委員会は、本学の研究・教育水準の向上に資するため、以下の各号に関わる基本的事項を審議決定するとともに、自己点検・評価報告書を作成するための、具体的な要領についても審議する。

- ①自己点検・評価の実施の体制
- ②自己点検・評価の項目
- ③自己点検・評価の結果の取り扱い
- ④その他、自己点検・評価に関する必要な事項

自己点検・評価委員会の下には、教学部門委員会と管理運営部門委員会を置き、自己点検・評価委員会の定めた自己点検・評価項目について、点検・評価を行ない、自己点検・評価委員会に報告することになっている。

本学では、平成8年度に相愛大学自己点検・評価報告書『響流（こうる）』を刊行して学内外に公表し、これを基に平成9年度には大学基準協会への加盟判定を受けた。その後も学生による授業評価を、ほぼ隔年に実施したほか、施設設備などに関する満足度の調査も行い、その後より効果的な活用方法に関して検討をかさねた。平成20年度に大学基準協会での第三者評価を受けるべく、全学自己点検・評価委員会並びに下部組織として音楽学部・人文学部・人間発達学部を設置されたそれぞれ学部単位の自己点検・評価委員会において、教育研究上の組織、学生の受け入れ、教育課程、研究活動、学生生活への援助、図書館を含む施設設備、管理運営などについて報告書を作成し、平成20年4月1日に大学基準協会による大学認証評価を申請した。平成21年3月には、大学基準協会から「大学基準に適合しているか否かの判定を保留する」との評価を受けた。本学は、その事を真摯に受け止め、平成24年3月末までに指摘された点について問題点を逐次改善し、認証評価を「可」にすべく、現在、全力をあげて改革に取り組んでいるところであり、今回届出本学科の設置についても改善・改革案について検討した結果である。一方、大学基準協会に提出した報告書は『響流（こうる）』第3号として平成21年4月に刊行され、専任教職員・兼任講師に配布（その他希望者も送付）するとともに、その本文を大学ホームページ上に平成21年4月より公開している。また、平成22年度には、相愛大学自己点検・評価報告書『響流（こうる）』第4号を刊行し、ホームページ上にも公表する予定にして



おり、自己点検・評価結果で明らかになった問題点を検証し、より一層の改善を怠ることのないよう努めている。

## ト 情報の提供

大学は公的機関であり、社会的責任をはたしていくためにも、教育研究活動等に関する情報を公開することは重要事項として捉え、現在以下の方法で提供している。

### (1) 相愛大学ホームページによる情報提供

大学の理念、学部・学科の紹介、カリキュラム、授業シラバス、教員組織、教員の主な教育・研究業績、入試情報(入学者数)、キャンパス情報、就職情報(卒業者の就職先)、公開講座・コンサート情報、諸行事の情報、トピックス、学則、自己点検・評価報告書、同窓会の情報、図書館、研究所等教学部門に関わる最新の基本情報を公開している。

### (2) 学校法人相愛学園ホームページによる情報提供

学園財務情報として、事業計画書(各学部学科の人材養成の目的)、事業報告書(在籍者数)、予算書・決算書、財産目録、監査報告書を公開、また学園の学生数についても公開している。

### (3) 学校法人相愛学園広報誌「當相敬愛」による情報公開

年4回発行される学校法人相愛学園広報誌に、入学者数、在学者数、卒業生数に関する情報を公表している。

### (4) 相愛大学研究論集による情報提供

教員の教育研究活動等の状況については、ホームページにおいても公開されているが、毎年1回刊行されて主要大学に送付している相愛大学研究論集に個々の教員の活動に関する年次報告を掲載し、学内外に公表している。内容は著書・論文などの発表、学術的・社会的な活動、現在の研究課題などである。さらに音楽学部の実技担当教員については演奏会の開催についても報告を行っている。

### (5) 年2回発行される学園広報誌『ファミリア』による情報提供

学園の情報、教員や学生の種々の活動に関する情報が掲載され、財務状況についても掲載されている。これらは、相愛大学卒業生、相愛高校卒業生、および大阪近郊の本願寺派寺院に配布し、学園情報を公表している。

### (6) 各種催しを通じての情報提供

各研究所主催の公開講座、公開レッスン・コンサート(音楽学部)、講演会、産官学連携による各種イベント(人間発達学部)、オープンキャンパス、教育懇談会、同窓会等を通じて情報を提供する。

### (7) 高校訪問を通じての情報提供

本学は長年にわたって大阪市において、浄土真宗に基づく教育を行ってきた実績があり、かつ大阪府を中心とした高等学校の教諭との信頼関係を築き上げてきた。今後も、今まで以上に、高等学校との連携を密にし、高校訪問時には既入学者の状況、大学の最新情報を提供する。

その他、大学案内、入試案内、パンフレット、ポスター等を通じて情報を公開している。また、平成 22 年度には、学生による授業アンケートの結果報告書についても冊子にして公表する予定にしている。

なお、設置届出書、設置計画履行状況報告書についても、手続き完了後ホームページ上に公開する予定にしている。

## ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

### (1) 実施体制

#### ①委員会の設置状況

授業内容方法の改善を図る体制としては、平成 19 年度までは人文学部、音楽学部、人間発達学部それぞれが主体的に行ってきた。

音楽学部においては、兼任教員をも含めた「教員による相愛コンサート」を年間 5 回程度開催している。このコンサートは、学生にとって、自分たちがレッスンを受けている教員の演奏を聴き刺激を受けるだけでなく、教員相互の技量の研鑽においても良い刺激になっている。また、平成 19 年秋より複数の学部共通科目（音素材情報処理、キーボード・ハーモニー、コード進行法・即興演奏法など）について、教材の共同研究や授業進行に関して議論を行い、授業内容の改善を積極的に図っている。

人文学部においては、教務主任の指名による 2～3 名の教員が講師となって、自主的な研修会を行ってきた。比較的頻繁にとりあげられるテーマは、すべての新入生を対象とする基礎演習の運営、効果的なプレゼンテーション、視聴覚障害をもつ学生への具体的な対策などである。

人間発達学部においては、平成 19 年度までは学部の教務委員会が兼務して、平成 18 年度に 2 度の外部講師を招いての FD 研究会を開催した。それら 2 回の研究会は、本学部に進学してくる学生の資質を探るもので、学生へ効果的な教育法を検討する一助となるものである。

以上のように、「授業内容方法の改善」ということへの取り組みには学部間においての違いはあるものの、各学部ともに積極的に行われてきたが、FD について研究し実践する主体となる全学的機構は平成 19 年まで整備されていなかった。

平成 20 年 9 月に全学組織としての FD 委員会が設置された。構成員は、副学長、自己点検・評価委員会副委員長、各学部と共通教育センターの代表各 1 名、教務部長、教務事務部長、学生事務部長、教務課長である。委員長は、委員の中から学長が任命する。

#### ②委員会の開催状況

平成 20 年 9 月に第 1 回の FD 委員会が持たれて以来、3 月まで数回委員会が持たれた。委員会以外に、委員が入手した他大学の授業評価アンケートなどの資料は、メールで随時回覧して情報の共有化に努めた。

平成 21 年度は、前期に 2 回、後期に 3 回の委員会が開かれた。

### ③委員会の審議事項等

平成 20 年度の委員会では、他大学の「学生による授業評価アンケート」等を参考に、相愛大学における「学生による授業評価アンケート」の内容および実施方法、結果の公表の方法などを検討した。その結果、集計後、教員にはアンケート結果についての意見書の提出を課し、それらを教員相互並びに、学生に公表することを決定した。また、「教員のための研修会」を企画、運営した。

平成 21 年度の前期の委員会では、「学生による授業評価アンケート」を実施するための細部の検討、並びにリフレクションペーパー（教員の意見書）の様式、実施方法等の検討を行った。授業担当者のリフレクションペーパーへの記載項目は、以下の 2 点である。

- ・ 学生の評価に対して納得できること、納得できないこと。
- ・ 学生の評価結果を今後どう活用するのか。

後期の委員会では、アンケート結果の検証、並びに公表の方法が検討された。

また、学生による授業評価アンケート結果報告書には、アンケート結果から読み取ることができる各学部の傾向等を記載することとした。

## (2) 実施状況

### ①実施内容

- 授業評価アンケート
- 授業評価アンケートをうけて、各教員によるリフレクションペーパー作成
- 授業評価アンケート並びにリフレクションペーパーの公表
- 教員のための研修会

### ②実施状況

- a～c 全授業に対しての学生アンケートが前期（6 月初旬）に実施され、その結果について、受講生 5 名以上の授業に関して、各教員が授業の改善策等も含めたりリフレクションペーパーを 9 月中に作成した。アンケート結果とリフレクションペーパーをセットにして、冊子にして公開した。受講生 5 名以下の授業に関しては、アンケート結果を担当教員には戻さず、FD 委員で自由記述項目も含めて内容の確認を行った結果、担当教員との面談を特に必要とするものはなかった。

- d 教員のための研修会を開催

平成 21 年 2 月 19 日（テーマ：大学全入時代の学生の傾向と対策 講師：佛教大学教授・原清治氏）

平成 22 年 2 月 22 日（テーマ：学生の基礎学力をどう育成するか ～読み書き能力を中心として～ 講師：大阪市立大学准教授・西垣順子氏）

平成 22 年度には、講演後にグループ別での討議を行い、講演内容を深めるように務めた。

### ③授業改善への今後の取組

- a～c 授業評価アンケートの実施時期、実施科目、アンケート項目並びにリフレクションペーパーの公開の方法など、さらに検討を重ね授業改善に努める。
- d 時宜にかなう講演には得るものは多く、授業改善への意識を高めるには効果的であり、本学に適した方法を今後も検討実施していく。

## ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学は歴史も、人材養成の目的もかなり異なる3つの学部よりなっている。50有余年の歴史をもつ音楽学部においては演奏家の育成を主たる目標としている。このため一部の学生が教職あるいは一般企業に就職するものの、大半の学生は卒業後も演奏家の道を目指すために、卒業時には就職を選ばない傾向がある。一方、30年近い歴史を有する人文学部の学生の多くは企業就職を目指しているものの、人文学に対する関心から学部を選んでいるために、就職意識が希薄な学生も見受けられる。このため教育課程内に資格取得支援科目を組み込み、学生のキャリア意識の向上に努めている。平成21年度に完成年度を迎えた人間発達学部は管理栄養士と保育士の育成を主目的とする学部であるために、入学生の90パーセント以上がキャリアについての意識が明確である。そのため教育課程の全般が目的達成のための支援科目となっているとさえ言える。

このため本学における職業的自立に関する指導は一律に行えるものではなく、学部学科の特性を踏まえた個別的指導をも必要としている。しかし昨今の経済情勢もあり、どの学部においても就職を目指す学生が増えており、音楽学部においてそのような需要に応えるために新たな実学的傾向の本学科を新設しようとしていることに顕著に見られるように、全学的にキャリア意識高揚と就職率向上のために教育課程内外における取組を強めている。このため従来の学部学科ごとの取組に加えて、全学共通科目として『キャリアデザイン論』、『キャリアデザイン演習』、『インターンシップ』を新設し、単位化することによって本学のキャリア教育体制の充実・発展を図る。

### (1) 教育課程内の取組について

それぞれの学部において教育課程内に就業を意識した科目を既に設置している。音楽学部においては音楽教室講師資格、人文学部においては、各種英語検定、人間発達学部においては保育士、幼稚園・小学校教員免許、栄養士、管理栄養士受験資格等の資格取得が直結するカリキュラムが設定されている。また、中学・高等学校教員免許、図書館司書資格等が取得可能なカリキュラムも設定されている。このように就業に役立つ科目は、学部・学科の人材養成の目標に沿って開講されており、実習なども十分に行われている。

これに加えて、平成23年度から現在の厳しい雇用情勢や、学生の資質能力に対する社会からの要請、学生の多様化に伴う卒業後の進路支援の必要性を踏まえ、社会的および職業的自立を図るために必要な能力を培うための取り組みとして、大学共通の基礎科目・共通科目の中に、初年次からキャリア形成について考える『キャリアデザイン論』を設けることとした。2年次には、主に学生支援センターの教育課程外の取り組みとして実施され

てきたパソコン講座など諸講座を取り込んで『キャリアデザイン演習』を開講する。3年時にはそれらの到達実習として『インターンシップ』を導入する。

さらに新たに設置を計画している本学科に関して述べれば、専門科目に、『キャリアデザイン』、『プレゼンテーション』、『インターンシップ研究』、『インターンシップ実習』等を開講し、卒業後、各種音楽産業界や国の文化推進事業での企画部門・制作部門においてリーダーやスタッフ要員として活躍でき、人生設計ができるよう教育する。

## (2) 教育課程外の取組について

教育課程外においては、学生支援センター（以下「センター」と記載）内にキャリアサポート部門を設置し、各学部教員から選出された就職委員と一体となり、学生支援を行っている。主な活動内容は以下の通り。

- a) センターでは年度当初に就職ガイダンスを実施し、1年間の就職関係行事をまとめたリーフレット「NEW LIFE」（資料4）を全学生へ配布。また就職委員からは各学部学科ガイダンスでも行事に関する説明がなされている。講義設定のないキャンパスタイム（木曜日3限目）、さらには夏期・冬期など、教学部門に支障を来さない時期などを利用し、就職関連講座、資格講座を実施している。学生支援センター課員による指導とともに、専門的分野に関しては外部講師を招くなどし、対応。行事の様子は、可能なかぎり撮影し、後にDVDなどの媒体に落とし、当日参加できなかった学生へのフォローを行っている。
- b) センター室において、就職に必要な業界情報や職務内容に関する情報提供を行うとともに、学生への情報周知をはかるために、各学部共同研究室前などに掲示場所を設置。学生の目に触れやすいような形で掲示を行い、各種講座の案内を行っている。それとともに、ポータルサイトを活用し、一人一人にメール配信の形で就職関連行事の情報を提供している。と同時に、各就職委員等へもメール配信し、講義等で案内いただくように、協力体制を整えている。
- c) センター室では、求人票などの閲覧ができるだけでなく、ポータルサイト上で、学生が求人票を閲覧し、所定書類のダウンロードができるように環境を整備。情報更新はセンター内で行っており、迅速な情報公開を心がけている。
- d) 個別相談は随時行っており、専任課員による履歴書作成指導・面接指導、就職情報提供を実施。
- e) 就職部長（教員）を委員長とする「就職委員会」を通じて、常時、就職情報を把握し、有益な就職支援および指導を実施できるよう情報交換、方針決定を行っている。

キャリア教育のための支援体制として、毎週木曜日3限目を「キャンパスタイム」と称して授業を開設せず、学生の自由な時間として、諸行事を催し、その一環に就職ガイダンス、就職講座、資格講座等を実施している。各学部合同研究室、専任教員とも緊密に連絡を取りながら、就職に関する情報を提供している。一方、個別相談を随時行えるように指導室も設置している。教職関係は、中学・高校の教員を目指す学生のために教職課程合同研究室を、小学校教員を目指す学生のために、小学校実習指導室を設置しており、きめの

細かい指導体制を整えている。教職課程合同研究室では教員採用試験対策講座を設け、試験対策を行っている。幼稚園教諭・保育士は、資格取得できる子ども発達学科が担い、管理栄養士と栄養教諭は発達栄養学科が担当している。特に発達栄養学科では講義のほかに国家試験対策講座を各教員がサポートする形で実施している。全学部で資格取得可能な図書館司書資格は共通教育センターに担当教官が配属され、指導にあたっている。センターでは、冬期に「公務員試験対策講座」などを実施し、学生支援に勤めている。

多様化する産業社会の要請に応えるとともに、学生の職業意識の涵養と知識の習得を促す「就業体験」として、大学コンソーシアム大阪で実施されるインターンシップ・プログラムを学生へ周知し、参加を促すとともに、また、マイナビ・リクナビ等での参加方法についても説明会を行っている。インターンシップへの参加を促すために、センターのプログラムとして「キャリアプランニング講座」を8回に涉って実施するほか、社会人となるマナー・トレーニングなども実施している。インターンシップに参加する者だけでなく、その講座のみの受講も可能で、スキルアップのための支援ともなっている。

前述の通り、現在までも学生支援センターの就職担当部門が中心となって通年体制で就職セミナー（キャリアプランニング講座）や学力養成講座、マナー・トレーニング、キャリア・カウンセリング、秘書検定などの各種検定試験などを、キャンパスタイムなどを活用して実施しているが、今後、これらを一定の要件のもとに単位化することによって、一層の効果をあげることを目指す。インターンシップに関しては大学コンソーシアム大阪と連携して実施しているが、これと併せて本学独自に取り組みを拡大する。

### （3）適切な体制の整備について

本学においては学生の就職指導ということで学生支援センターの就職担当部門と教員で構成する就職委員会が中心となって学生の就職支援活動を行ってきた。一貫したキャリア形成指導のためには就業支援とともにキャリア教育推進が必要であり、本学においてはこの組織が未整備である。平成22年度中に教学部門と連携したキャリア教育推進委員会（会議）を立ち上げて、教員・職員一体となったキャリア支援体制に取り組む予定である。

## 資 料 目 次

- 資料 1. 高校生対象音楽と仕事に関するアンケート <抜粋>
- 資料 2. 新学科設置に伴う市場調査 結果報告 <抜粋>
- 資料 3. 音楽マネジメント学科履修モデル
- 資料 4. NEW LIFE 2010 ーキャリアプランの手引きー

高校生対象  
音楽と仕事に関するアンケート  
〈抜粋〉

2009年6月～7月実施

2009年8月～10月集計

アンケート協力校 14校

アンケート回収枚数(参加者数) 1291名

相愛大学 音楽学部



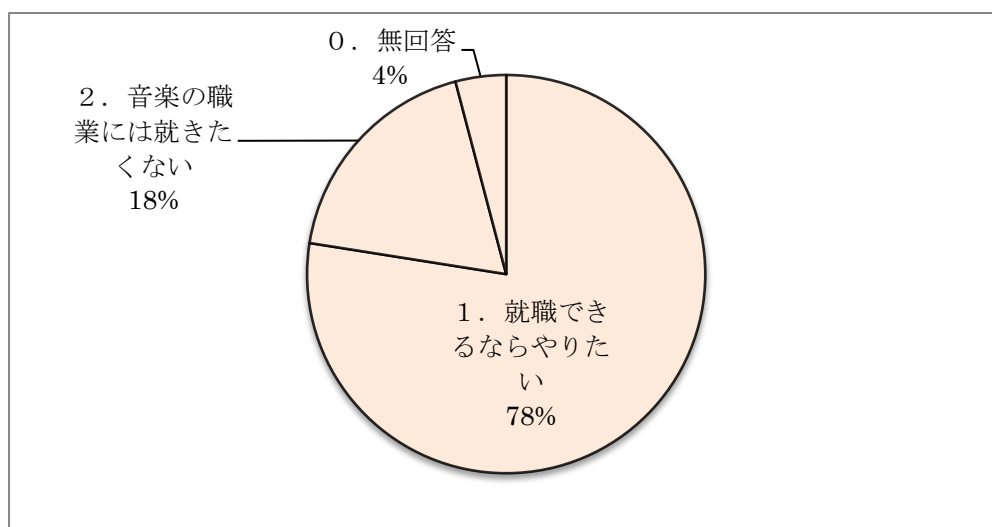
Q. 大学が音楽関連業種に就職を紹介するなら音楽の職業は将来の選択肢に入りますか？

1. 就職できるならやりたい 2. 音楽の職業には就きたくない（理由 )

音楽の職業は将来の選択肢に入りますか？

	回答者数	割合
1. 就職できるならやりたい	1001	77.5%
2. 音楽の職業には就きたくない	237	18.4%
0. 無回答	53	4.1%

音楽関係の職業に就きたい高校生の割合



#### 音楽の職業には就きたくない理由

安定しない・安定した収入があるのか不安・将来性がない・向かなさそう・能力がない・創造出来ない  
自信がない・音楽の道は狭い・就職が難しそう・お金を稼ぐのが難しい・音楽は趣味程度に・聴いている  
ほうがいい・楽器が嫌いになりそう・他にやりたいことがある・現実的に・難しそう・美術の方に進みたい  
・幼稚園の先生になる・うどん屋さんになる・通訳になりたい・バレーがしたい・しんどい  
あまりわからないから・スポーツ派だから・音楽系以外で仕事がしたい・人前で演奏はしたくない  
フリーで演奏活動がしたい・音痴だから

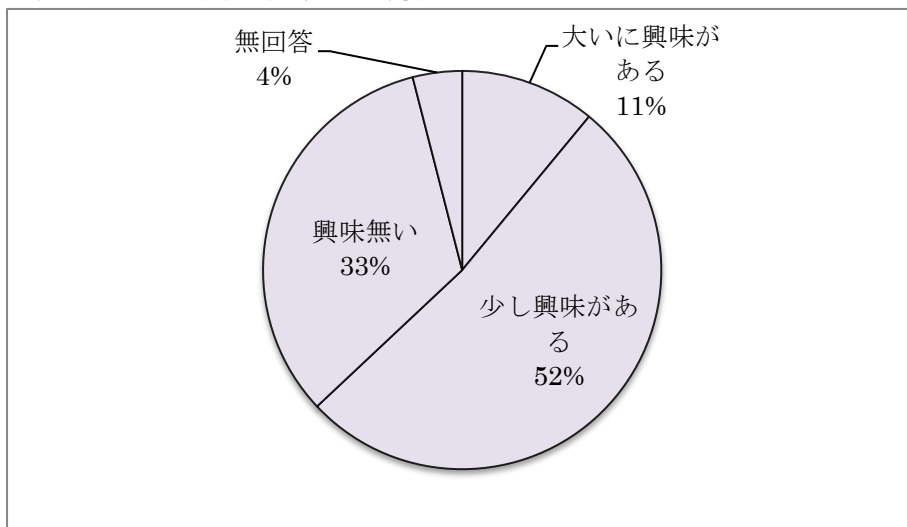
Q. 音楽マネジメント学科は関西では初、日本でも珍しい学科です。この学科に興味はありますか？

1. 大いに興味がある 2. 少し興味がある 3. 興味はない

音楽マネジメント学科に興味はありますか？

	回答者数	割合
1. 大いに興味がある	135	11%
2. 少し興味がある	676	52%
3. 興味無い	431	33%
0. 無回答	49	4%

音楽マネジメント学科に興味がある高校生の割合



# 新学科設置に伴う市場調査

## 結果報告

(抜粋)

市場調査依頼開始 2009年10月初旬

最終報告 2010年2月末

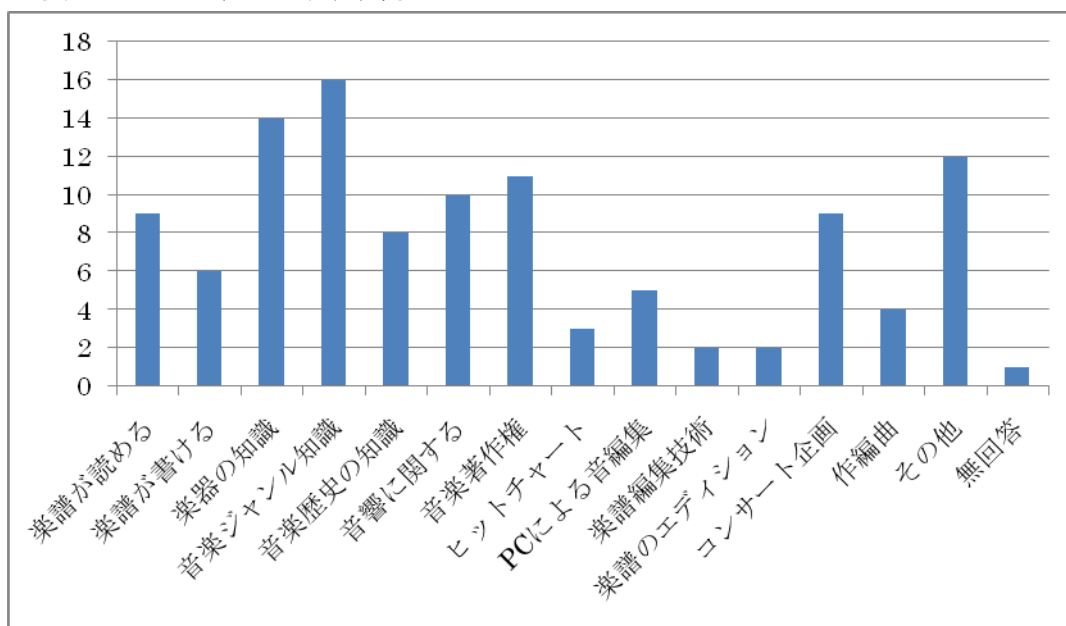
ご協力企業 25社様

相愛大学音楽学部

Q.御社の音楽関連業務に携わる方々が、音楽的知識や技術が必要とされるなら、どのような事柄ですか？（複数回答可）

1. 楽譜が読めること
2. 楽譜が書けること（PCソフトで書くことも含みます）
3. 楽器の知識
4. 音楽のジャンルについての知識
5. 音楽の歴史についての知識
6. 音響に関すること
7. 音楽著作権
8. ヒットチャート
9. PCによる音編集
10. 楽譜編集技術
11. 楽譜のエディション
12. コンサート企画
13. 作編曲
14. その他（ ）

必要とされる音楽的知識や技術



【その他：知識や技術】

- ・楽器演奏
- ・全般的に幅広い音楽知識を持ち、かつ得意とする分野があること
- ・音楽業界の知識
- ・あるに越したことはないですが、あえて専門的な知識が必ずしも必要であるとも限らないです
- ・弊社では必ずしも高度な音楽的知識、技術は必要ではありません
- ・レコード会社、興行会社、プロダクションとの交渉能力
- ・アーティストマネージャー&プロデュース
- ・ピアノ調律、楽器修理
- ・職務によって様々です。全部必要な職務もありますが、全く必要でないものもあります
- ・CD等の知識

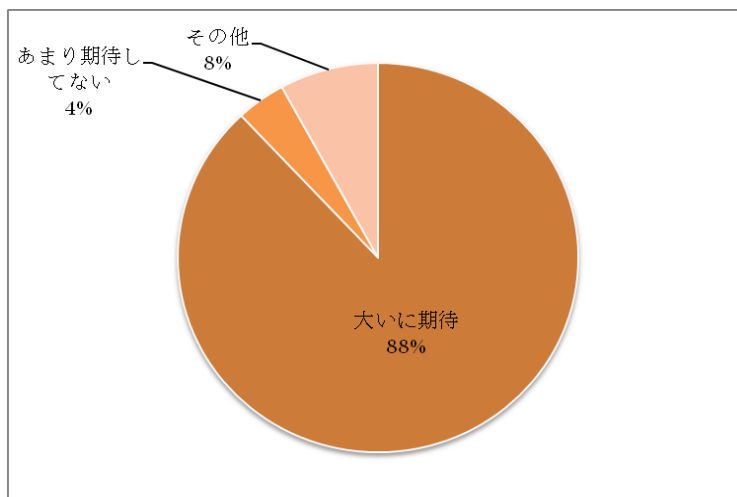
Q.相愛大学の「音楽マネジメント学科」(仮称・構想中)をご覧になって期待度はいかがでしょうか。ご意見をお聞かせください。

1. 大いに期待している    2. あまり期待していない    3. その他 (                      )

「音楽マネジメント学科」(仮称・構想中)への期待度

期待度	回答/社
大いに期待	22
あまり期待していない	1
その他	2

「音楽マネジメント学科」(仮称・構想中)への期待度(割合)



音楽マネジメント学科 音楽ビジネスコース 履修モデル(A-1)

卒業後の進路： コンサートなど音楽関連事業の企画・制作とその運営に従事する人材。

具体的には文化政策に携わるアートマネージャー、コンサートの企画、CD/DVDの企画制作、音楽出版、雑誌編集、放送局などでの音楽プロデューサー、ディレクター、コンサートホール・マネージャー、音楽ジャーナリストのほか、スタジオやミュージックスクール、ライブハウスなどの運営スタッフや経営者などを目指す。

		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位					
基礎科目・共通科目	建学の精神	2		心理学入門	2	仏教思想と現代	2	マーケティング入門	2										22単位	22単位以上		
	社会学概説	2		英会話Ⅱ	2	科学と人間	2	数学入門	2													
	情報と社会	2				日本語表現法	2															
	英会話Ⅰ	2																				
I群	音楽の専門知識・技術を学ぶ	音楽基礎演習A	2	音楽基礎演習B	2	諸民族の音楽	2												42単位	34単位以上		
		ソルフェージュA	2	ソルフェージュB	2																	
		音楽演習ⅠA	2	音楽演習ⅠB	2	ポピュラー音楽概論	2	和声学	2	作・編曲法基礎	2	作・編曲法応用	2	楽曲分析	2							
		音楽の歴史A	2	音楽の歴史B	2	コード・プログレスション	2	キーボード・ハーモニー	2	コンピュータミュージック基礎	2	コンピュータミュージック制作	2									
						音楽演習ⅡA	2	音楽演習ⅡB	2	楽器学	2											
	音楽ビジネスの基本を学ぶ	音楽マネジメント入門	2	キャリアデザイン	2	ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	インターンシップ研究	2	インターンシップ実習	1								47単位	36単位以上
		音楽マネジメント・リーダーシップ論	2				音楽企画演習	2	音楽著作権	2	アーティスト論	2										
								プレゼンテーション	2	音楽ビジネス起業論	2	音楽事業経営論	2									
								音楽企画概論	2													
音楽機器や音響学についての理解																						
音楽とコンピュータの関わりと技術を習得																						
社会と音楽文化について理解																						
音楽ビジネスコース																						
合計		20		22		22		20		17		11		6		6	124単位	124単位以上				

**音楽マネジメント学科 音楽ビジネスコース 履修モデル(A-2)**

卒業後の進路：音響制作など舞台でのプロフェッショナル・スタッフ、音響制作関連企業に従事する人材。  
 具体的には舞台機構調整技能士の資格を取得することが可能で、録音技師、音場ミキシング、サウンド・リインフォースメント担当のほかスタジオやライブハウス、音楽ホール、音響制作会社、放送局などでの音響スタッフを目指す。

		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目・共通科目	建学の精神	2	心理学入門	2	仏教思想と現代	2												24単位	22単位以上
	社会学概説	2	英会話Ⅱ	2	科学と人間	2													
	情報と社会	2	中国語Ⅱ	2	日本語表現法	2													
	英会話Ⅰ	2	化学入門	2															
	中国語Ⅰ	2																	
I群	音楽の専門知識・技術を学ぶ	音楽基礎演習A	2	音楽基礎演習B	2												40単位	34単位以上	
	ソルフェージュA	2	ソルフェージュB	2															
	音楽演習ⅠA	2	音楽演習ⅠB	2	ポピュラー音楽概論	2	和声学	2	作・編曲法基礎	2	作・編曲法応用	2	楽曲分析	2					
	音楽の歴史A	2	音楽の歴史B	2	コード・プログレッション	2	キーボード・ハーモニー	2	コンピュータミュージック基礎	2	コンピュータミュージック制作	2							
					音楽演習ⅡA	2	音楽演習ⅡB	2	楽器学	2									
II群	音楽ビジネスの基本を学ぶ	音楽マネジメント入門	2	コミュニケーションと交渉術	2	ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	インターンシップ研究	2	インターンシップ実習	1				41単位	36単位以上	
	音楽マネジメント・リーダーシップ論	2				音楽企画概論	2	ビジネス中国語A	2	アーティスト論	2								
							音楽企画演習	2	ビジネス中国語B	2									
音楽ビジネス専門科目	音楽機器や音響学についての理解					デジタル音楽機器演習A	2	デジタル音楽機器演習B	2	音響学A	2	音響学B	2				15単位	12単位以上	
	音楽とコンピュータの関わりと技術を習得					プログラミング基礎Ⅰ	2	プログラミング基礎Ⅱ	2										
							プログラミング演習Ⅰ	2	プログラミング演習Ⅱ	2									
	社会と音楽文化について理解													マンガ・アニメ音楽文化論	2				
音楽ビジネスコース	音楽ビジネスコース					デジタル音楽基礎概論	2	芸術経営論	2	舞台組織機構概論	2	アートマネジメント研究	2		映像と音楽と放送	2	4単位		
								録音の技術と表現	2	音楽企画実習	1	サウンド・リインフォースメント	2						
													音楽ビジネス演習	2	音楽ビジネス卒業研究	2			
合計		22		22		22		18		15		15		4		6	124単位	124単位以上	

**音楽マネジメント学科 IT音楽産業コース 履修モデル(B-1)**

卒業後の進路：携帯電話やパソコンなどデジタル機器を利用した音楽配信や動画配信などのコンテンツ配信の制作技術スタッフ、ラジオ・テレビ番組の制作技術スタッフ、およびインターネットによるネットマーケティング分野などに従事するもの。

携帯電話やインターネットによる配信会社、インターネット・プロバイダー、音響機器メーカー、映像制作会社、レコード会社、広告宣伝会社、電子書籍出版会社などのスタッフを目指す。

		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件	
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位			
基礎科目・共通科目	西洋文化史	2		建学の精神	2	科学と人間	2	仏教思想と現代	2										24単位	22単位以上
	物理学入門	2		社会と芸術	2	英会話Ⅲ	2	日本語表現法	2											
	情報処理演習	2		英会話Ⅱ	2			英会話Ⅳ	2											
	英会話Ⅰ	2																		
I群	音楽の専門知識・技術を学ぶ	音楽基礎演習A	2	音楽基礎演習B	2	諸民族の音楽	2											38単位	34単位以上	
		ソルフェージュA	2	ソルフェージュB	2															
		音楽演習ⅠA	2	音楽演習ⅠB	2	ポピュラー音楽概論	2	和声学	2	作・編曲法基礎	2	作・編曲法応用	2	楽曲分析	2					
		音楽の歴史A	2	音楽の歴史B	2	コード・プログレスション	2	音楽演習ⅡB	2	コンピュータミュージック基礎	2	コンピュータミュージック制作	2							
						音楽演習ⅡA	2													
II群	音楽ビジネスの基本を学ぶ	音楽マネジメント入門	2			ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	インターンシップ研究	2	インターンシップ実習	1				43単位	36単位以上		
		音楽マネジメント・リーダーシップ論	2				音楽企画演習	2	音楽著作権	2	音楽事業管理論	2								
									音楽ビジネス起業論	2										
	音楽機器や音響学についての理解					音楽コンテンツ配信の基礎	2	デジタル音楽機器演習B	2	音響学A	2	音響学B	2							
						デジタル音楽機器演習A	2													
	音楽とコンピュータの関わりと技術を習得																			
						プログラミング基礎Ⅰ	2													
						プログラミング演習Ⅰ	2													
	社会と音楽文化について理解					音楽とコンピュータ	2													
						アーティストのソフトウェアA	2													
										国際文化関係論	2			音楽出版と広告メディア論	2	ゲーム・ミュージック文化論			2	
	IT音楽産業専門科目	IT音楽産業コース					デジタル音楽基礎特論	2	音楽産業ネットワーク論	2	音楽とライブラリ構築	2	音楽マーケティング論	2	音楽と情報科学	2				15単位
						IT音楽産業特論	2			コンサート企画実習	1	Webデザイン	2							
														IT音楽産業演習	2	IT音楽産業卒業研究	2			
合計		20		22		22		18		17		13		10		2	124単位	124単位以上		



音楽マネジメント学科 IT音楽産業コース 履修モデル(B-2)

卒業後の進路：音楽配信業者、ゲーム、Web、CGアニメなどのプログラムを開発する企業、放送局、レコード会社、出版社、また映像配信会社などのスタッフを目指す。

		1年次				2年次				3年次				4年次				取得単位	卒業要件
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎科目・共通科目	社会学概説	2	建学の精神	2	科学と人間	2	仏教思想と現代	2										24単位	22単位以上
	物理学入門	2	美学	2	英会話Ⅲ	2	日本語表現法	2											
	英会話Ⅰ	2	情報処理演習	2	英会話Ⅳ	2													
			英会話Ⅱ	2															
I群	音楽基礎演習A	2	音楽基礎演習B	2	諸民族の音楽	2											36単位	34単位以上	
	ソルフェージュA	2	ソルフェージュB	2															
	音楽演習ⅠA	2	音楽演習ⅠB	2	ポピュラー音楽概論	2	和声学	2	作・編曲法基礎	2	作・編曲法応用	2	楽曲分析	2					
					コード・プログレッション	2	音楽演習ⅡB	2	コンピュータミュージック基礎	2	コンピュータミュージック制作	2							
					音楽演習ⅡA	2			楽器学	2									
II群	音楽マネジメント入門	2		ビジネス英語A	2	ビジネス英語B	2	インターンシップ研究	2	インターンシップ実習	1						47単位	36単位以上	
	音楽マネジメント・リーダーシップ論	2				音楽企画演習	2	音楽著作権	2	音楽事業経営論	2								
					音楽コンテンツ配信の基礎	2	デジタル音楽機器演習B	2	音響学A	2	音響学B	2							
					デジタル音楽機器演習A	2													
					プログラミング基礎Ⅰ	2													
					プログラミング演習Ⅰ	2													
					音楽とコンピュータ	2													
					アーティストのソフトウェアA	2													
									国際文化関係論	2			音楽出版と広告メディア論	2	マンガ・アニメ音楽文化論	2			
IT音楽産業専門科目						デジタル音楽基礎特論	2	音楽産業ネットワーク論	2	音楽とライブラリ構築	2	Webデザイン	2	CGプログラミング	2		13単位	12単位以上	
						IT音楽産業特論	2			コンサート企画実習	1								
													IT音楽産業演習	2	IT音楽産業卒業研究	2			
合計		16	22	22	20	19	11	10	4	124単位	124単位以上								

# NEW LIFE 2010

—キャリアプランの手引き—



相愛大学 学生部 学生支援センター事務室

TEL : 06-6612-5900(代)

E-mail : [syusyoku@soai.ac.jp](mailto:syusyoku@soai.ac.jp)

学生支援センター事務室は、学生生活に関わる様々な支援の他、就職するにあたって、各自の志望と個性に応じて適切な職業に就けるように「指導」「斡旋」「援助」などを行っています。


就職支援に関わる行事や講座を下表の通り実施していますので、積極的に参加してください。

### 〈2010年度 学生支援センター事務室 年間行事一覧〉

月	日	曜日	行 事	場 所	I	II	III	IV	参加ページ
4	2	金	就職ガイダンス(音楽・人間発達)	R401			○		
4	3	土	就職ガイダンス(人文)	R401			○		
4	15	木	キャリアプランニング講座ガイダンス・申込(～5/18まで)	S307	○	○	○	○	7
4	20	火	※夏期WORD講習会申込(～5/14まで)	学生支援センター事務室	○	○	○	○	5
4	21	水	※秘書検定申込(～5/7まで)	学生支援センター事務室	○	○	○	○	6
5	6	木	進路登録ガイダンス	ホール			○		3
5	13	木	就職活動基礎講座	ホール			○		3
5	14	金	就職フォローアップ講座①	S307				○	4
5	27	木	就職適性テスト	R401 U460			○		3
5	27	木	留学生のための就職支援講座	S307			○	○	
5	28	金	就職フォローアップ講座②	S307				○	4
5	31	月	夏期WORD講習会クラス発表	学生支援センター事務室	申 込 者 対 象				5
6	2	水	進路登録票提出	学生支援センター事務室			○		
6	3	木	就職サイト活用法	ホール			○		3
6	4	金	就職フォローアップ講座③	S307				○	4
6	7	月	キャリアプランニング講座①	S307	申 込 者 対 象				7
6	14	月	キャリアプランニング講座②	S307	申 込 者 対 象				7
6	17	木	一般教養模擬試験	R401 U460			○		3
6	20	日	秘書検定試験	S307	申 込 者 対 象				6
6	21	月	キャリアプランニング講座③	S307	申 込 者 対 象				7
6	24	木	企業研究説明会①(活動対策)	ホール			○		3
6	28	月	キャリアプランニング講座④	S307	申 込 者 対 象				7
7	5	月	キャリアプランニング講座⑤	S307	申 込 者 対 象				7
7	8	木	※基礎学力養成講座受講説明会・申込(～7/30まで)	R401		○	○	○	6
7	12	月	キャリアプランニング講座⑥	S307	申 込 者 対 象				7
7	15	木	自己分析対策講座	ホール			○		3
7	22	木	一般教養対策講座①	R401			○		3
7	26	月	キャリアプランニング講座⑦	S307	申 込 者 対 象				7
7	29	木	一般教養対策講座②	R401			○		3
8	9	月	夏期WORD2007基礎・応用講習会(～8/13まで)	C236	申 込 者 対 象				5
8	23	月	夏期MCAS-WORD2007試験対策講習会(～9/3まで土・日を除く)	C236	申 込 者 対 象				5
9	22	水	キャリアプランニング講座⑧[インターンシップ体験発表]	S307	申 込 者 対 象				7
9	24	金	※秘書検定申込(～10/1まで)	学生支援センター事務室	○	○	○	○	6
9	27	月	基礎学力養成講座①	S307	申 込 者 対 象				6
9	30	木	エントリーシートの書き方講座	ホール			○		3
10	1	金	キャリアデザイン講座申込(～10/20まで)	学生支援センター事務室		○			8
10	4	月	基礎学力養成講座②	S307	申 込 者 対 象				6
10	11	月	基礎学力養成講座③	S307	申 込 者 対 象				6
10	14	木	SPI対策講座	R401			○		3

月	日	曜日	行 事	場 所	I	II	III	IV	参加ページ
10	18	月	基礎学力養成講座④	S307			申込者対象		6
10	21	木	論文対策講座	R401			○		3
10	28	木	企業研究説明会②(業界研究)	ホール			○		3
11	1	月	基礎学力養成講座⑤	S307			申込者対象		6
11	4	木	企業研究説明会③	ホール			○		3
11	8	月	基礎学力養成講座⑥	S307			申込者対象		6
11	10	水	キャリアデザイン講座①	S307		申込者対象			8
11	14	日	秘書検定試験	S307	申	込	者	対	6
11	15	月	基礎学力養成講座⑦	S307			申込者対象		6
11	17	水	キャリアデザイン講座②	S307		申込者対象			8
11	18	木	就職内定者体験発表会	ホール			○		3
11	19	金	就職内定者相談会・要予約(12/20まで)	資料室			○		3
11	22	月	基礎学力養成講座⑧	S307			申込者対象		6
11	24	水	キャリアデザイン講座③	S307		申込者対象			8
11	25	木	エアラインセミナー	S307	○	○	○	○	3
11	29	月	基礎学力養成講座⑨	S307			申込者対象		6
12	1	水	キャリアデザイン講座④	S307		申込者対象			8
12	6	月	基礎学力養成講座⑩	S307			申込者対象		6
12	8	水	キャリアデザイン講座⑤	S307		申込者対象			8
12	9	木	就職説明会(就職活動のすすめ方①)	ホール			○		4
12	13	月	基礎学力養成講座⑪	S307			申込者対象		6
12	15	水	公務員試験ガイダンス	S307	○	○	○	○	4
12	16	木	面接対策講座①	ホール			○		4
12	20	月	基礎学力養成講座⑫	S307			申込者対象		6
1	11	火	※春期EXCEL講習会申込(~1/24まで)	学生支援センター事務室	○	○	○	○	5
1	13	木	面接対策講座②(公開模擬面接)	ホール			○		4
1	17	月	基礎学力養成講座⑬	S307			申込者対象		6
1	20	木	就職説明会(就職活動のすすめ方②)	R401			○		4
1	24	月	基礎学力養成講座⑭	S307			申込者対象		6
1	27	木	※就職模擬試験	R401			○		4
1	28	金	※公務員試験対策講習会申込締切	学生支援センター事務室	○	○	○	○	6
1	28	金	春期EXCELクラス講習会発表	学生支援センター事務室	申	込	者	対	5
1	31	月	基礎学力養成講座⑮	S307			申込者対象		6
2	2	水	グループディスカッション模擬演習	S307			○		4
2	2	水	先輩との就職セミナー	S307			○		4
2	3	木	グループ面接模擬演習	S307			○		4
2	4	金	グループ面接模擬演習	S307			○		4
2	17	木	公務員試験対策講習会(~2/25まで土、日除く)	S307	申	込	者	対	6
2	28	月	春期EXCEL2007基礎・応用講習会(~3/4まで)	C236	申	込	者	対	5
3	7	月	春期MCAS-EXCEL2007試験対策講習会(~3/17まで日除く)	C236	申	込	者	対	5
3	10	木	ワイ音楽教室講師・グレード試験説明会	S307	○	○	○	○	4
3	11	金	ヤマハシステム講師資格・グレード試験説明会 ヤマハ大人の音楽教室講師試験説明会	S307	○	○	○	○	4

注1. ※印の行事・講座については受講料、受験料が必要となります。(P.4~6参照)

注2.  …… はⅢ回生対象の行事であっても、一部のものを除きⅠ、Ⅱ回生の参加も可能です。  
詳しくは学生支援センター事務室までお問い合わせください。

注3. 行事・講座に関する詳細は、学生支援センター事務室(学生厚生館2F)前と、教務課前の2箇所と、ポータルに掲示されます。

注4. 上記表に記載の日程や教室が、事情により変更となる場合がありますので、掲示・ポータル等にはくれぐれも注意してください。

## Ⅲ回生対象の就職活動に必要な行事です。必ず出席のこと。

(P1.2 から抜粋し、再掲しています)

月	日	曜	行事・講座名	内 容
5	6	木	進路登録ガイダンス	・就職安定法に基づく求職登録について ・今後の行事について ・進路について「進路登録票」の記入の仕方について説明を行います。
	13	木	就職活動基礎講座	就職活動の心構えについての講座です。「就職活動サクセスシート」を配布します。
	27	木	就職適性テスト	自己の適性や能力を客観的に把握し、進路決定の参考となるテストです。 ※無料
6	3	木	就職サイト活用法	就職情報企業が管理運営している、就職サイトへの登録・使用方法を説明します。当サイトにおけるインターンシップについての説明もあります。
	17	木	一般教養模擬試験	一般教養模擬試験を実施します。志望業種、職種に関わらず受験することをお奨めします。7/22、29 にフォローアップの講座を実施します。 ※無料
	24	木	企業研究説明会①(活動対策)	就職情報企業より講師を招き、就職活動のスケジュールおよび活動対策についての説明会です。
7	15	木	自己分析対策講座	就職活動サクセスシートに従い、自己分析の方法を学びます。「就職活動サクセス資料」を配布します。
	22	木	一般教養対策講座①	6/17 実施した一般教養模擬試験を踏まえてフォローアップの講座を行います。
	29	木	一般教養対策講座②	
9	30	木	エントリーシートの書き方講座	大半の企業から提出を求められるエントリーシートについて、書き方のポイントを学びます。
10	14	木	SPI対策講座	職務適性を能力、性格、態度的に分析するSPI(適性)テストの対策講座です。
	21	木	論作文対策講座	就職試験の中で増加傾向にある論作文試験の対策講座です。
	28	木	企業研究説明会②(業界研究)	就職情報企業より講師を招いての、企業研究・業界研究の方法と職種に関する講座です。
11	4	木	企業研究説明会③	日本経済新聞社より講師を招いて、時事問題対策のための「新聞の読み方」を学習します。
	18	木	就職内定者体験発表会	就職活動を終えた4回生に、就職活動のポイント、成功例、失敗例などの経験談を発表して、今後の就職活動の参考にします。
	19	金	就職内定者体験相談会	11/19～12/20 まで就職内定者の先輩が資料室にて個別に相談に乗ってくれます。大いにこの期間を利用して就職活動についての様々な疑問や不安を解消してください。 ※要予約
	25	木	エアラインセミナー(業界研究)	航空関係志望者対象のセミナーですが、一般企業にも適応するマナーやグループ面接指導も行います。 ※申込制

月	日	曜	行事・講座名	内 容
12	9	木	就職説明会(就職活動のすすめ方①)	これからの就職活動のすすめ方を指導します。プレースメントデータ(本学求人データ)、プレースメントガイド(就職の手引き)を配布します。
	15	水	公務員試験ガイダンス	東京アカデミーより講師を招いて、公務員全般に関するガイダンス(教員を除く)を行います。2/17~25 まで公務員試験対策講習会を実施します。(P.6 参照)
	16	木	面接対策講座①	面接におけるマナーと話し方についての講座です。
1	13	木	面接対策講座②(公開模擬面接)	6~8人の方に段上に上がってもらい公開模擬面接を行います。その様子を見て、2/3.4 グループ面接模擬演習へ活かします。
	20	木	就職説明会(就職活動のすすめ方②)	本学学生支援センター事務室に届いている求人票の説明および活動のノウハウについて。採用試験に必要な証明書の申込方法、就職試験のために止むを得ず授業を欠席する場合の公欠の取り方などを説明します。
	27	木	就職模擬試験	一般教養模擬試験を就職試験直前の力試しとして行います。 ※有料
2	2	水	グループディスカッション模擬演習	リクルートスーツを着用し、実際にグループディスカッションを体験します。 ※申込制
			先輩との就職セミナー	OB・OGの方との懇談会です。就職活動や仕事のことなど聞きにくいことでも気軽に話せるチャンスです。是非とも参加してください。 ※申込制
	3・4	木・金	グループ面接模擬演習	リクルートスーツを着用し、実際にグループ面接を体験します。 ※申込制
3	10	木	カワイ音楽教室講師・グレード試験説明会	カワイ音楽教室・講師採用・グレード試験の説明会です。 ※申込制
	11	金	ヤマハシステム講師資格・グレード試験説明会 ヤマハ大人の音楽教室講師試験説明会	ヤマハシステム講師資格採用・グレード試験 ヤマハ大人の音楽教室講師試験の説明会です。 ※申込制

## IV回生対象 就職フォローアップ講座 ※申込(要)

就職活動に出遅れた人、なかなか思うように内定がとれない人、そんな方たちへの3週間連続の集中フォローアップ講座です。

・日時・内容: 全3回 時間については後日掲示・ポータルにてお知らせします。

~「なりたい自分プラン」を実行するために~

月	日	曜	講座内容
5	14	金	①就職活動再点検~なりたい自分になるために
	28	金	②エントリーを確実にステップする~いろいろな求人を見よう、探そう
6	4	金	③就活のポイント~面接で外せないポイントはココ!

・場所: S307

・受講料: 無料

## 〈各講習会について〉

必要な講座を選択して就職活動に活かしてください。

### 【1】 WORD、EXCEL2007 基礎・応用講習会 =全学年対象= ※申込<sup>要</sup>

#### MCAS-WORD、MCAS-EXCEL2007 試験対策講習会

企業では、PCでの文書やデータ作りは不可欠です。少しでも早い段階から、アプリケーションソフトに慣れ、就職活動が始まるまでには、MCAS<sub>\*1</sub>-WORD2007、MCAS<sub>\*1</sub>-EXCEL2007 の資格取得を目指す講座になります。MCAS 試験を受験希望者は必ず基礎・応用講習会からの受講が必須です。

\*1・・・Microsoft Certified Application Specialist (MCAS) マイクロソフト認定 アプリケーション スペシャリスト

	申込期間	クラス発表	開講日	開講時間
夏期集中 WORD 基礎・応用講習会	4月20日(火)	5月31日(月)	8月9日(月)～13日(金)(5日間)	【基礎・応用】(午前・午後どちらか選択) 午前クラス 9:30～12:30 (90分×2) 午後クラス 13:30～16:30 (90分×2)
夏期集中 MCAS -WORD 講習会	～5月14日(金)		8月23日(月)～9月3日(金) 土日除く(10日間)	
春期集中 EXCEL 基礎・応用講習会	1月11日(火)	1月28日(金)	2月28日(月)～3月4日(金) (5日間)	【MCAS】(午前のみ) 午前クラス 9:30～12:30 (90分×2)
春期集中 MCAS -EXCEL 講習会	～26日(水)		3月7日(月)～17日(木) 日除く(10日間)	

- ・希望者は上表の各講習会の時間割、開講日をよく確認し、学生支援センター事務室にて申し込んでください。
- ・申込者が10名以下のクラスは開講できませんので、クラスを変更する場合があります。
- ・申込が多数の場合は申込順、学年を考慮し受講者を絞り込む場合があります。
- ・受講料は基礎・応用講習会は¥13,000-、MCAS 講習会は¥25,000-です。
- 申込については随時掲示・ポータルにてお知らせします。
- ・場所：C236 教室(予定)

#### 他社との受講料を比べると・・・

本学受講の場合		某 PC スクール	
基礎・応用編	13,000 円	入門・応用・MCAS 対策	122,850 円
MCAS 編	25,000 円		
受験料 <sup>*2</sup>	12,390 円	受験料 <sup>*2</sup>	12,390 円
計	50,390 円	計	135,240 円

〈MCAS 試験(団体申込)〉 ※申込の詳細は後日お知らせします。

\*2・・・MCAS 試験を受験の方は別途 受験料¥12,390-が必要となります。

WORD	試験日	平成 22 年 9 月 19 日(日)
EXCEL	試験日	平成 23 年 3 月 20 日(日) (予定)

【2】 秘書検定試験 =全学年対象= ※申込<sup>要</sup>

一般事務職を希望する方であれば誰でも備えていなければならない職能としての基本的な実務知識を問う検定試験です。受験要領等詳細については、別途掲示等にて行います。

	申込期間	検定日	会場
第91回秘書検定試験	4月21日(水)～5月7日(金)	6月20日(日)	本学
第92回秘書検定試験	9月24日(金)～10月1日(金)	11月14日(日)	

- ・受験料(教務課前の証明書発行機にて「申込書」<sup>※3</sup>を購入): 準1級¥4,800— 2級¥3,700— 3級¥2,500—  
<sup>※3</sup>…5月までは券売機にて証紙を購入 ◆1級は本学では実施しません

【3】 公務員試験対策講習会(教員採用試験を除く) =全学年対象= ※申込<sup>要</sup>

公務員試験ガイダンス 12月15日(水) 16:40～18:10 S307にて実施  
 公務員全般に関するガイダンス(教員採用試験を除く)を行います。

公務員志望者対象の試験対策講座ですが、一般企業における一般常識・SPI対策にもなります。

- ・開講日: 2月17日、18日、21日、22日、23日、24日、25日 (全7日間)
- ・時 間: 10:30～12:00、13:00～14:30(2コマ/日)
- ・場 所: S307
- ・受講料: ¥20,000— (7回すべての出席が望ましい)
- ・申込期間: 12月15日(水)～1月28日(金)

【4】 基礎学力養成講座 =2回生以上対象= ※申込<sup>要</sup>

2回生以上を対象とした就職準備のための講座で、就職活動に必要とされる基礎的知識を確実なものにしていくことを目的としています。卒業後、社会人として必要な知識ですので、是非受講してください。なお、受講希望者は7月8日(木)のキャンパスタイム時の「基礎学力養成講座説明会」(R401教室)に必ず出席してください。◇申込多数の場合は抽選となる場合があります

- ・日程: 9月27日、10月4日、11日、18日、11月1日、8日、15日、22日、29日、  
 12月6日、13日、20日、1月17日、24日、31日(全15回 毎月曜日)
- ・カリキュラム: 言語能力分野・数学的能力分野・政治・経済・社会・国際関係
- ・定 員: 100名
- ・時 間: 16:40～18:10
- ・場 所: S307
- ・受講料: 無料 (テキスト代 ¥1,000—のみ必要)  
 テキスト代を教務課前の証明書発行機にて「申込書」を購入後、学生支援センター事務室にて申込こと。
- ・申込期間: 7月8日(木)～30日(金)



## 【5】 キャリアプランニング講座 =全学年対象= ※申込(要) (随時受付)

インターンシップを希望している方は必須講座です。まず、説明会に参加して内容を確認してください。

インターンシップ(夏休みを利用)を体験して就職活動に挑みたい人、ビジネスマナーを学びたい人の為の講座です。  
最終講座では就職活動に直結した内容となっているので必ず出席してください。

[説明会]日 時:4月15日(木) (13:20~14:50)

場 所:S307

申込期間:4月15日(木)~5月18日(火)まで

[講 座]日時・内容:全8回 (16:40~18:10)

~インターンシップをイメージして自分のキャリアをプランニングする~

月 日	講座内容
6月7日	①会社とは?組織って何?一足早くビジネスワールドを覗こう
6月14日	②自分のキャリアをデザインし、ビジネスマナーをスキルアップ
6月21日	③イメージした会社での今後の行動を策定~私が入りたい会社はこんな会社
6月28日	④インターンシップの計画の立て方、企画の仕方~働く姿をイメージしよう
7月5日	⑤どんな会社があるんだろう、合うだろう~探索して見よう
7月12日	⑥コミュニケーションアップ~会社で必要な会話術、ビジネスマナー、ビジネス知識
7月26日	⑦プレゼンテーション力を身に付ける~構成の仕方、発表の仕方
9月22日	⑧自分の体験をカタチにする~就職活動に向けて (インターンシップ体験発表)

場 所:S307

受講料:無料

### ◎学校から登録できるインターンシップ

・大学コンソーシアム大阪 <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>参照ください

〈インターンシップの流れ〉 ※日程等については予定です。変更がある場合は掲示・ポータルにてお知らせします。

出願締切	5月25日(火)(学内締切)
↓	
コンソーシアム面接	6月19日(土)、20日(日) 内1日
↓	
発 表	
↓	
事前研修	7月4日(日)、11日(日)両日参加 (必須)
↓	
インターンシップ	
↓	
事後研修	10月2日(土)

### =インターンシップとは=

1. インターンシップとは、一般的には学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う(企業が提供する)ことを指し、一定の職業体験をすることにより、より適性にあった職業選択を可能にし、学校から職場への円滑な移動を図ることを目的としたものです。
2. インターンシップに関しては、特段の取り決めがない限り、企業にはインターンシップ参加者を採用する義務はありませんし、参加学生についても、同様に当該企業への入社義務はありません。  
(厚生労働省>労働政策研究支援情報>労働問題 Q&A より)

**=インターンシップを通して学生にとってのメリット=**

実際の職場に触れることで自らの学問、研究の一層の理解に役立ちます。また、将来の就職活動に おいて志望業種・職種のスムーズな決定、さらには、就職後の職業への適応力を高めることにも繋がります。

- ・自分が仕事に就くということを考えるキッカケを得られます。  
普通に大学生活をしていると、アルバイトの場くらいしかビジネスマンの方と会う機会はありません。同じ職場で考え方の根底が異なるビジネスマンとのコミュニケーションを通じて、働くということ、仕事について考えるキッカケを掴むことができるでしょう。
- ・自分の適性の再認識、将来ビジョン構築のヒントを得ることができます。  
インターンシップを通じて出会うインターンシップ生や、職場の人たちとの交流や、仕事を通じて自分を見つめなおし、適性を再認識するキッカケを得られます。また人生の先輩たちと会うことで自分の将来ビジョン構築のヒントを得ることができるでしょう。
- ・社員の方やお客様から実務で認められるという経験ができます。  
熱心に取り組むこと、成果を出すことによって、社員の方やお客様に認められるという経験が得られます。自己満足や自分の価値観、判断でなく、客観的で高い評価を得られれば、自分の市場価値、特性を知り、自信を持つことができます。
- ・結果として就職活動に優位になります。  
インターンシップ経験は就職活動のためになるでしょうが、それ以上にビジネスの現場に対してリアリティを持っていること、自分の仕事について就職活動以前から考えていることによるアドバンテージを得ることができます。

**【6】 キャリアデザイン講座(プレ就職活動講座) = 2 回生対象 = ※申込(要)**

3 回生の就職活動に備えての準備講座です。企業への電話のかけ方、挨拶の仕方などを実践的に学びます。

・日時・内容： 全 5 回 毎水曜日 (16:40～18:10)

～自己分析をしながらなりたい自分を目指す！～

月 日	講 座 内 容
11 月 10 日	①計画の立て方、企画の仕方～自分の将来をイメージしよう
11 月 17 日	②あなたはどのタイプ？～自分を分析して見よう
11 月 24 日	③情報収集の仕方～新聞、雑誌、インターネットを使いこなそう
12 月 1 日	④コミュニケーションアップ～覚えておくとお得な会話術、ビジネスマナー
12 月 8 日	⑤グループディスカッションをやってみよう～どんな風にポジションするのか考えよう

・場 所: S307

・受講料: 無料

・申込期間: 10 月 1 日(金)～20 日(水)

★学生支援センター事務室では就職に関する個人相談(申込制)、個人面接模擬練習(申込制)、履歴書の添削等も行いますので積極的に利用してください。

★資料室について

資料室(学生支援センター事務室隣)は、就職活動をする為の準備や企業の情報などの収集、調査研究する場合などに利用するスペースです。

・パソコンによる企業検索…ポータルサイトから本学に届いた求人票の検索、就職サイトでの検索などのためにPCが6台設置されています。必要な情報の印刷も可能です。

・業種別企業ファイル…求人先から送られてきた入社案内、企業パンフレットなどがファイルされています。

・試験内容報告書…先輩達が受験した会社の試験内容や感想が書かれています。

・参考図書…就職活動問題集、業界紹介誌、会社四季報、会社名鑑、各就職ガイド、秘書検定試験参考本など就職活動に必要な図書が閲覧できます。

★行事によってはDVDの貸出を行っているものもありますので、「DVD貸出情報」(学生支援センター事務室前)で確認して利用してください。

〈事務取扱時間について〉

平日 9:00~17:00 ・ 土曜日 9:00~14:00

※11:40~12:40は昼休みにつき、事務の取扱はできません。

夏期・冬期休業時間については別途掲示されます。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	カネコ サトル 金 児 暁 嗣 <平成23年4月>		博士 (文学)		相 愛 大 学 学 長 (平成22.4)

教 員 の 氏 名 等												
(音楽学部音楽マネジメント学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する週当 たり平均日数
1	専	教授 (学科長)	ヤスイ トシオ 安井 敏雄 <平成23年4月>		Ph. D. Computer Science (米国)		音楽マネジメント入門 音楽産業ネットワーク論 IT音楽産業概論 インターンシップ実習 IT音楽産業持論 アートマネジメント研究 音楽ビジネス演習 音楽ビジネス卒業研究	1前 2後 2前 3後集中 2前 3後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平22. 4)	5日
2	専	教授	アカイシ トシオ 赤石 敏夫 <平成23年4月>		芸術学士		ソルフェージュA ソルフェージュB 作・編曲法基礎 和声学 作・編曲法応用	1前 1後 3前 2後 3後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19. 4)	5日
3	専	教授	ヤマモト エイジ 山本 英二 <平成23年4月>		修士 (音楽)		音楽演習IA 音楽演習IB 音楽演習IIA 音楽演習IIB	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19. 4)	5日
4	専	教授	カシワギ レイコ 柏木 玲子 <平成24年4月>		芸術学士		ポピュラー音楽概論 コード・プログレッション	2前 2前	2 6	1 3	相愛大学音楽学部 教授 (平21. 4)	5日
5	専	教授	イツカ イチロウ 飯塚 一朗 <平成23年4月>		芸術学士		合奏IA 合奏IB 合奏IIA 合奏IIB	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19. 4)	5日
6	専	教授	オオイワ ハジメ 大岩 元 <平成23年4月>		理学博士		音楽マネジメント入門 音楽とコンピュータ プログラミング基礎I プログラミング基礎II インターンシップ研究 プログラミング演習I プログラミング演習II IT音楽産業演習 インターンシップ実習 IT音楽産業卒業研究	1前 1後 1後 2前 3前 1後 2前 4前 3後集中 4後	2 4 4 2 2 4 4 2 1 2	1 2 1 1 2 2 1 1 1	慶応義塾大学 名誉教授 (平20. 4)	5日
7	専	准教授	マツタニ ヨウコ 松谷 葉子 (フジオカ ヨウコ) (藤岡 葉子) <平成23年4月>		経営学 修士 (専門職)		音楽マネジメント入門 音楽企画演習 デジタル音楽機器演習A デジタル音楽機器演習B 音楽コンテンツ配信 の基礎 インターンシップ研究 インターンシップ実習 音楽事業管理論 音楽ビジネス起業論 音楽事業経営論 音楽企画実習 音楽ビジネス卒業研究 音楽ビジネス演習	1前 2後 2前 2後 2前 3前 3後集中 3後 3前 3後 3前 4後 4前	2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社カシノR. D. S代表取締役 (平15. 1)	5日

8	専	准教授	スナダ カズミチ 砂田 和道 <平成23年4月>	Master of Music (米国)	音楽マネジメント入門 音楽企画概論 インターンシップ研究 音楽企画演習 音楽企画実習 芸術経営論 音楽産業と文化政策 インターンシップ実習 コンサート企画実習 アーティスト論 音楽ビジネス演習 音楽ビジネス卒業研究	1前 2後 3前 2後 3前 2後 3前 3後集中 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 1 2 2 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	くらしに音楽プロジェクト事務局長 (平20. 4)	5日
9	専	講師	ハシダ ミツヨ 橋田 光代 <平成23年4月>	工学博士	音楽マネジメント入門 アーティストのソフトウェアA アーティストのソフトウェアB 音楽企画演習 インターンシップ研究 インターンシップ実習 音楽企画実習 I T音楽産業卒業研究 コンサート企画実習 音楽と情報科学 I T音楽産業演習	1前 1後 2前 2後 3前 3後集中 3前 4後 3前 4前 4前	2 4 4 2 2 1 1 2 1 2 2	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	関西学院大学 理工学研究科 博士研究員 (平18. 4)	5日
10	兼任	教授	チバ シンヤ 千葉 真也 <平成23年4月>	修士※ (文学)	大学生のための日本語入門 日本語表現法	1前・後 2前・後	8 12	4 6	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20. 4)	
11	兼任	教授	ヤマシタ ノボル 山下 昇 <平成23年4月>	修士 (文学)	大学生のための日本語入門 インターンシップ 英語 I 英語 II 英語 III 英語 IV	1前・後 3前・後集中 1前 1後 2前 2後	4 2 2 2 2	2 2 1 1 1	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20. 4)	
12	兼任	教授	シヤク テツシユウ 釈 徹宗 <平成23年4月>	博士 (学術)	建学の精神 仏教思想と現代	1前 2前	2 2	1 1	相愛大学人文学部 教授 (平22. 4)	
13	兼任	教授	トリイ マサハル 鳥井 正晴 <平成23年4月>	修士※ (文学)	文学と人生	1前	2	1	相愛大学人文学部 教授 (平14. 4)	
14	兼任	教授	クロサカ トシアキ 黒坂 俊昭 <平成24年4月>	文学修士	音楽の楽しみ	2前	2	1	相愛大学音楽学部 教授 (平8. 4)	
15	兼任	教授	クレタニ ミツトシ 呉谷 充利 <平成23年4月>	博士 (工学)	西洋美術史 社会と芸術	2後 1後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 教授 (平18. 4)	
16	兼任	教授	エグサ ヒロユキ 江草 浩幸 <平成23年4月>	学術博士	心理学入門	1後	2	1	相愛大学人文学部 教授 (平22. 4)	
17	兼任	教授	ハシモト ジュンイチロウ 橋元 淳一郎 <平成23年4月>	修士 (理学)	物理学入門	1前	2	1	相愛大学人文学部 教授 (平9. 4)	
18	兼任	教授	ハセガワ セイイチ 長谷川 精一 <平成23年4月>	博士 (教育学)	教育原論 学校と教師	1前・後 2前・後	8 8	4 4	相愛大学人間発達学部 教授 (平18. 4)	
19	兼任	教授	マエダ マサヒロ 前田 昌宏 <平成23年4月>	芸術学士	音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B 合奏 I A 合奏 I B 合奏 II A 合奏 II B	3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平22. 4)	

20	兼担	教授	サイトウ タツオ 斎藤 達男 <平成25年4月>	芸術学士		音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB 合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平4. 4)	
21	兼担	教授	ナカタニ ミツル 中谷 満 <平成23年4月>	芸術学士		音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB 合奏ⅠA 合奏ⅠB 合奏ⅡA 合奏ⅡB 合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平20. 4)	
22	兼担	准教授	ミヨシ ユキハル 三好 幸治 <平成23年4月>	法学修士		法学入門 日本国憲法	1前 1前	2 2	1 1	相愛大学 共通教育センター 准教授 (平20. 4)	
23	兼担	准教授	ニシサコ セイイチロウ 西迫 成一郎 <平成24年4月>	修士※ (社会学)		健康科学	2後	4	2	相愛大学人文学部 准教授 (平15. 4)	
24	兼担	准教授	マスダ ケイ 益田 圭 <平成24年4月>	修士 (人間・環 境学)		人権教育	2前・後	4	2	相愛大学人文学部 准教授 (平18. 4)	
25	兼担	准教授	イシカワ レイコ 石川 玲子 <平成24年4月>	文学修士		資格英語ⅢA 資格英語ⅢB	2前 2後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平14. 4)	
26	兼担	准教授	ハヤシ ユタカ 林 裕 <平成23年4月>	Aufbau- studienganges KÜNSTLERISCHE AUSBILDUNG im Fach VIOLON CELLO bestanden (ドイツ)		音楽演習ⅠA 音楽演習ⅠB 音楽演習ⅡA 音楽演習ⅡB 合奏ⅠA 合奏ⅠB 合奏ⅡA 合奏ⅡB	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 准教授 (平22. 4)	
27	兼担	講師	タカキ マナブ 高木 学 <平成23年4月>	修士※ (社会学)		社会学概説 情報処理演習	1前 1前・後	2 4	1 2	相愛大学人文学部 専任講師 (平15. 4)	
28	兼担	講師	イノウエ マキ 井上 麻紀 <平成23年4月>	学士 (音楽)		音楽演習ⅠA 音楽演習ⅠB 音楽演習ⅡA 音楽演習ⅡB	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 専任講師 (平22. 4)	
29	兼担	講師	イズミ タカコ 泉 貴子 <平成25年4月>	博士 (音楽)		音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 専任講師 (平18. 4)	
30	兼任	講師	イシイ タカコ 石井 尚子 <平成23年4月>	音楽学士		音楽基礎演習A 音楽基礎演習B	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平9. 4)	
31	兼任	講師	カスヤ イクコ 粕谷 育子 <平成23年4月>	芸術学士		ソルフエージュA ソルフエージュB	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 10)	

32	兼任	講師	ヨシザワ ユカリ 吉澤 ゆかり <平成23年4月>	学士 (芸術)		ソルフェージュA ソルフェージュB 和声学 作・編曲法基礎 作・編曲法応用	1前 1後 2後 3前 3後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	相愛高等学校音楽科 兼任講師 (平12. 4)	
33	兼任	講師	タスエ カツシ 田末 勝志 <平成23年4月>	修士 (音楽)		合唱	1後	2	1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平10. 4)	
34	兼任	講師	ユビ タニコ 由比 邦子 <平成24年4月>	修士 (芸術学)		諸民族の音楽	2前	2	1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平9. 4)	
35	兼任	講師	キタガワ ジュンコ 北川 純子 <平成23年4月>	修士 (文学)		音楽の歴史A 音楽の歴史B	1前 1後	2 2	1 1	大阪教育大学 准教授 (平16. 4)	
36	兼任	講師	ニワ アユミ 丹羽 あゆみ <平成24年4月>	芸術学士		キーボード・ハーモニー	2後	2	1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭57. 4)	
37	兼任	講師	ウチオ エミ 内尾 恵美 <平成24年4月>	修士 (教育学)		キーボード・ハーモニー	2後	4	2	大阪教育大学 兼任講師 (平3. 4)	
38	兼任	講師	ヤギ リョウスケ 八木 良介 <平成25年4月>	Master of Arts in Music (米国)		楽器学 楽曲分析	3前 4前	2 2	1 1	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 助手 (平21. 9)	
39	兼任	講師	ミヤモト セイコ 宮本 聖子 <平成23年4月>	学士 (音楽)		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平20. 4)	
40	兼任	講師	ニシモト ジュン 西本 淳 <平成23年4月>	修士 (音楽)		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平15. 4)	
41	兼任	講師	シマダ アキラ 嶋田 明 <平成23年4月>	芸術学士		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B 合奏 III A 合奏 III B 合奏 IV A 合奏 IV B	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	宝塚歌劇 オーケストラ楽員 トランペット奏者 (昭51. 9)	
42	兼任	講師	ノダ コウイチ 野田 篁一 <平成23年4月>	音楽学士		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭60. 4)	
43	兼任	講師	ヤマキ マサテル 矢巻 正輝 <平成23年4月>	芸術学士		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 4)	
44	兼任	講師	オガタ フミノリ 緒方 文則 <平成23年4月>	芸術学士 (音楽)		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭56. 5)	



45	兼任	講師	ナカガワ トオル 中川 亨 <平成23年4月>	パリエコー ルノルマル 音楽院 アンサンブ ル科 修了 (フランス)		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平13. 4)	
46	兼任	講師	ソガベ テエコ 曾我部 千恵子 <平成23年4月>	芸術学士		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭60. 4)	
47	兼任	講師	ハヤシ トシタケ 林 俊武 <平成23年4月>	芸術学士		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平2. 4)	
48	兼任	講師	ワタナベ ユキコ 渡辺 友希子 <平成23年4月>	芸術学士		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 合奏 III A 合奏 III B 合奏 IV A 合奏 IV B	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平16. 4)	
49	兼任	講師	フカイ アキラ 福井 聡 <平成23年4月>	ベルギー王立 アントワープ 音楽院 卒業 (ベルギー)		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B 合奏 III A 合奏 III B 合奏 IV A 合奏 IV B	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 4)	
50	兼任	講師	ヒラオ タミノ 平尾 多美納 (ニシオカ タミノ) (西岡 多美納) <平成23年4月>	修士 (学校教育 学)		音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B 合奏 I A 合奏 I B 合奏 II A 合奏 II B	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭58. 5)	
51	兼任	講師	シヤカゴオリ ヨウスケ 釈迦郡 洋介 <平成25年4月>	学士 (音楽)		音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平20. 4)	
52	兼任	講師	ヒラヤマ ヨシエ 平山 善恵 <平成25年4月>	音楽学士		音楽演習 III A 音楽演習 III B 音楽演習 IV A 音楽演習 IV B	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	大阪音楽大学 兼任講師 (平15. 4)	

53	兼任	講師	シオミ タスク 塩見 亮 <平成25年4月>	Meisterklassene xamen im kün stlerischen Hauptfach Klavier (ドイツ)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平20. 4)
54	兼任	講師	ムカイ カズヒサ 向井 和久 <平成25年4月>	芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平11. 4)
55	兼任	講師	オカモト テツ 岡本 哲 <平成25年4月>	芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平10. 4)
56	兼任	講師	ヨシノ タツキ 吉野 竜城 <平成25年4月>	音楽学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平16. 4)
57	兼任	講師	ソダ レイコ 曾田 玲子 <平成25年4月>	音楽学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭58. 4)
58	兼任	講師	マンガ カズキ 萬田 一樹 <平成23年4月>	修士 (音楽)	歌唱法 音楽演習ⅠA 音楽演習ⅠB 音楽演習ⅡA 音楽演習ⅡB	2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	おんぶつち保育園 理事長 (平19. 5)
59	兼任	講師	ヤマダ ナツ 山田 夏 <平成25年4月>	修士 (音楽)	コンピュータミュージック基礎 コンピュータミュージック制作	3前 3後	4 4	2 2	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平12. 4)
60	兼任	講師	タニモト ユタカ 谷本 裕 <平成23年4月>	修士 (音楽学)	音楽マネジメント・リー ダーシップ論	1前	2	1	NDIビルマネジメント 株式会社 チーフマネジャー (平成12. 5)
61	兼任	講師	ワカモト カツヨシ 若本 勝義 <平成23年4月>	文学士	キャリアデザイン	1後	2	1	株式会社バイオダイナ ミックス研究所 代表取締役 (昭62. 4)
62	兼任	講師	コドノ オリエ 神殿 織江 <平成23年4月>	経営管理修 士(専門 職)	コミュニケーションと交渉術	1後	2	1	JOLインターナショナル 株式会社 取締役 (平成17. 5)
63	兼任	講師	マツダ ユウジ 松田 雄治 <平成24年4月>	修士※ (教育学)	ビジネス英語A ビジネス英語B	2前 2後	4 4	2 2	有限会社 トランステック 代表取締役 (平成18. 8)
64	兼任	講師	カイ タカヒロ 甲斐 隆浩 <平成24年4月>	専門学校 卒業	プレゼンテーション Webデザイン CGプログラミング	2後 3後 4前	2 2 2	1 1 1	株式会社 ワークアカデミー 講師 (平成16. 3)
65	兼任	講師	ムラカミ シンイチロウ 村上 心一郎 <平成25年4月>	文学士	ビジネス中国語A ビジネス中国語B	3前 3後	2 2	1 1	株式会社和旅行 代表取締役 (昭62. 12)
66	兼任	講師	タチオカ ヒロシ 立岡 浩 <平成25年4月>	博士 (政策科 学)	音楽著作権 ※	3前	1.6	1	四天王寺大学経営学部 教授 (平21. 4)
67	兼任	講師	ナカイ ヒデノリ 中井 秀範 <平成25年4月>	法学士	音楽著作権 ※	3前	0.4	1	吉本興業株式会社 執行役員 (昭56. 4)
68	兼任	講師	フジオカ タクミ 藤岡 巧 <平成25年4月>	修士 (国際公共 政策)	国際文化関係論	3前	2	1	株式会社 モナド&シード 代表取締役 (平成7. 4)
69	兼任	講師	カキサキ ケイジ 柿崎 景二 <平成25年4月>	学士 (工学)	音響学A 音響学B	3前 3後	2 2	1 1	株式会社ソニー・ ミュージックコミュニ ケーションズ 係長 (平成22. 2まで)
70	兼任	講師	テラニシ ハジメ 寺西 肇 <平成26年4月>	文学士	音楽出版と広告メディア論	4前	2	1	フリー ジャーナリスト (平成21. 3)

71	兼任	講師	クドウ ヤスノリ 工藤 保則 <平成26年4月>		博士 (社会学)		マンガ・アニメ音楽文化論	4後	2	1	龍谷大学社会学部 准教授 (平成19. 4)
72	兼任	講師	ハヤシ トオル 林 徹 <平成26年4月>		An School of Contemporary Music Jazz (米国)		ゲーム・ミュージック文化論	4前	2	1	株式会社 ネットディメンション 代表取締役 (平成12. 5)
73	兼任	講師	カタヨセ ハルヒロ 片寄 晴弘 <平成24年4月>		工学博士		デジタル音楽基礎概論 デジタル音楽基礎特論	2前 2前	2 2	1 1	関西学院大学 理工学部 教授 (平成14. 4)
74	兼任	講師	クノ カツヤ 久野 勝也 <平成24年4月>		芸術学士		録音の技術と表現 サウンド・リインフォースメント 舞台組織機構概論	2後 3後 3前	2 2 2	1 1 1	音響家 (昭58. 4)
75	兼任	講師	タカオキ ヒデアキ 高沖 秀明 <平成26年4月>		法学士		映像と音楽と放送	4後	2	1	毎日放送制作局 副部長 (昭和61. 4)
76	兼任	講師	オクノ タタジ 奥野 卓司 <平成25年4月>		博士 (学術)		音楽とライブラリ構築	3前	2	1	関西学院大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 指導教授 (平成13. 4)
77	兼任	講師	ヒオキ コウイチロウ 日置 弘一郎 <平成25年4月>		博士 (経済学)		音楽マーケティング論	3後	2	1	京都大学大学院 経済学研究科 教授 (平成4. 4)
78	兼任	講師	デグチ タンリュウ 出口 湛龍 <平成23年4月>		修士 (文学)		建学の精神	1前	2	1	(学) 相愛学園 理事長 (平17. 6)
79	兼任	講師	タムラ シオン 多村 至恩 <平成23年4月>		社会学修士		建学の精神 仏教思想と現代	1前 2後	2 2	1 1	浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター 研究員 (平17. 4)
80	兼任	講師	ホンダ アヤ 本多 彩 <平成23年4月>		文学修士※		建学の精神 仏教思想と現代	1後 2前	2 2	1 1	兵庫大学生涯福祉学部 講師 (平22. 4)
81	兼任	講師	ナガオカ カクチョウ 長岡 岳澄 <平成23年4月>		修士 (文学)		建学の精神	1後	2	1	中央仏教学院 講師 (平22. 4)
82	兼任	講師	ノリヤマ サトル 乗山 悟 <平成24年4月>		修士 (文学)		仏教思想と現代	2後	2	1	龍谷大学国際文化学部 講師 (平22. 4)
83	兼任	講師	チタニ キミカズ 智谷 公和 <平成24年4月>		修士※ (文学)		仏教思想と現代	2前	2	1	相愛大学 兼任講師 (平8. 4)
84	兼任	講師	イケヤマ セツロウ 池山 説郎 <平成23年4月>		Ph. D. (History of Mathematics) (米国)		科学と人間 科学史入門	2前 1前	2 2	1 1	京都産業大学文化学部 講師 (平16. 9)
85	兼任	講師	ホンダ マコト 本多 真 <平成24年4月>		国際文化学 博士		環境と人間	2前	2	1	本願寺教学伝道 研究センター 研究生 (平22. 4)
86	兼任	講師	クラバラ ヒデアキ 桑原 英之 <平成24年4月>		修士※ (文学)		生命と人間	2後	2	1	近畿大学 兼任講師 (平21. 4)
87	兼任	講師	タナカ フジオ 田中 不二夫 <平成23年4月>		修士 (文学)		西洋文化史 美学	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平11. 4)
88	兼任	講師	ニシオ ヤスヒロ 西尾 泰広 <平成23年4月>		修士※ (文学)		日本歴史入門	1後	2	1	大阪教育大学教育学部 兼任講師 (平20. 4)
89	兼任	講師	オオニシ リクコ 大西 陸子 <平成24年4月>		修士※ (文学)		世界歴史入門	2前	2	1	相愛大学 兼任講師 (平12. 4)
90	兼任	講師	セキグチ ヤスユキ 関口 靖之 <平成23年4月>		教育学修士		地理学入門(地誌を含む)	1前	2	1	大阪教育大学 兼任講師 (平10. 4)

91	兼任	講師	タナカ ヨシコ 田中 美子 ＜平成23年4月＞	修士 (文学)		倫理学入門	1前	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平16. 4)
92	兼任	講師	スギモト ヨシオ 杉本 良雄 ＜平成23年4月＞	修士 (経済学)		経済学入門	1前	2	1	立命館大学経済学部 兼任講師 (昭62. 4)
93	兼任	講師	スガ ルミコ 菅 るみこ ＜平成24年4月＞	修士 (経営)		経営学入門 マーケティング入門	2前 2後	2 2	1 1	株式会社DDJ 代表取締役 (平19. 8)
94	兼任	講師	オオタニ シンタロウ 大谷 新太郎 ＜平成24年4月＞	修士※ (観光学)		観光学入門	2前	2	1	阪南大学国際観光学部 准教授 (平22. 4)
95	兼任	講師	ヤマザキ ミツヒコ 山崎 充彦 ＜平成23年4月＞	博士 (人間・環 境学)		政治学入門	1後	2	1	龍谷大学社会学部 講師 (平11. 4)
96	兼任	講師	ムカイ タダシ 向井 正 ＜平成23年4月＞	理学博士		数学入門 地球と宇宙	2後 1前	2 2	1 1	神戸大学 名誉教授 (平21. 4)
97	兼任	講師	ハラダ ナルヒコ 原田 匠彦 ＜平成23年4月＞	学士 (教養)		化学入門	1後	2	1	相愛高等学校 兼任講師 (平18. 4)
98	兼任	講師	ヨシナリ サトシ 吉成 哲史 ＜平成23年4月＞	理学博士		生物学入門 情報処理演習	1後 1前・後	2 8	1 4	京都大学大学院 理学研究科研究員 (平20. 4)
99	兼任	講師	ナカガワ マナブ 中川 学 ＜平成24年4月＞	博士 (医学)		現代と医学	2前	2	1	関西医科大学 助教 (平19. 4)
100	兼任	講師	ヤノ トモコ 矢野 朋子 ＜平成23年4月＞	社会福祉 学士		看護介護入門	1後	2	1	大阪府看護協会 訪問看護ステーション (平20.11)
101	兼任	講師	オカモト カヨコ 岡本 香代子 ＜平成24年4月＞	医学博士		健康科学	2後	2	1	京都大学 兼任講師 (平5. 4)
102	兼任	講師	オクノ マサミチ 奥野 暢通 ＜平成23年4月＞	教育学 修士		健康科学 健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	2後 1前 2前	4 1 1	2 1 1	四天王寺大学 准教授 (平18. 4)
103	兼任	講師	ミナトノ エミ 港野 恵美 ＜平成23年4月＞	修士 (教育学)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2後	4 1	4 1	大阪電気通信大学 兼任講師 (平18. 4)
104	兼任	講師	アリタ ヒロシ 有田 浩史 ＜平成23年4月＞	修士 (教育)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2前・後	3 3	3 3	トライデントスポーツ 医療看護専門学校 講師 (平15. 4)
105	兼任	講師	オチ エウコウ 越智 祐光 ＜平成23年4月＞	修士 (学校教育 学)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2前・後	4 2	4 2	相愛大学 兼任講師 (平19. 4)
106	兼任	講師	アズマ タカシ 東 隆史 ＜平成23年4月＞	学術博士		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2後	3 1	3 1	四天王寺大学短期大学部 准教授 (平21. 4)
107	兼任	講師	サトウ ミツコ 佐藤 光子 ＜平成23年4月＞	修士 (教育学)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2前	5 1	5 1	大阪教育大学 兼任講師 (平2. 4)
108	兼任	講師	シモジ シンヤ 下地 信也 ＜平成23年4月＞	修士 (社会学)		キャリアデザイン論 キャリアデザイン演習	1後 2後	2 2	1 1	関西外国語大学 外国語学部兼任講師 (平21. 4)
109	兼任	講師	オカモト クニコ 岡本 久仁子 ＜平成23年4月＞	文学士		情報処理演習	1前・後	8	4	大阪国際大学 講師 (平10. 4)
110	兼任	講師	オカダ ユタカ 岡田 裕 ＜平成23年4月＞	修士 (教育学)		情報処理演習 情報と社会	1前・後 1前	8 2	4 1	大阪芸術大学短期大学部 講師 (平5. 4)

111	兼任	講師	ナカジマ キンヤ 中島 欣哉 <平成23年4月>		修士※ (文学)		情報処理演習	1前・後	8	4	相愛大学 兼任講師 (平18. 4)
112	兼任	講師	ハヤシ ミエコ 林 美恵子 <平成23年4月>		修士 (文学)		情報処理演習	1前・後	8	4	相愛大学人文学部 兼任講師 (平17. 4)
113	兼任	講師	ハギワラ マサヤ 萩原 雅也 <平成23年4月>		修士 (都市政策)		生涯学習概論	1後	2	1	大阪樟蔭女子大学 学芸学部 准教授 (平18. 4)
114	兼任	講師	ヒラマツ カツイチ 平松 克一 <平成23年4月>		経済学士		図書及び図書館史	1前	2	1	梅花女子大学 文化表現学部 教授 (平18. 4)
115	兼任	講師	ナワ ツキノスケ 名和 月之介 <平成24年4月>		人間福祉学 博士		ボランティア論 ボランティア体験	2前 2後	2 1	1 1	相愛大学 兼任講師 (平16. 4)
116	兼任	講師	トミオカ ミチコ 富岡 美知子 <平成24年4月>		M. A. (Speech Communication) (米国)		異文化間教育論	2後	2	1	近畿大学 兼任講師 (平9. 4)
117	兼任	講師	ナカオ シホウ 中尾 史峰 <平成24年4月>		文学士		宗門法規	2前	2	1	浄土真宗本願寺派 総局公室長 (平22. 4)
118	兼任	講師	カドノ ヒロアキ 葛野 洋明 <平成24年4月>		修士※ (文学)		布教法	2後	2	1	龍谷大学 実践真宗学研究科 特任教授 (平21. 4)
119	兼任	講師	タカハシ アキト 高橋 昭人 <平成24年4月>		学士 (文学)		勤式作法	2後	2	1	相愛大学 兼任講師 (平19. 4)
120	兼任	講師	ヨハン E アルドルフ J. E. Alsdorf <平成23年4月>		Master of Education Curriculum, Instruction and Technology (米国)		英会話 I 英会話 II	1前 1後	2 2	1 1	京都外国語大学 講師 (平15. 9)
121	兼任	講師	モリカワ ヤスコ 森川 康子 <平成23年4月>		Masters in Education (米国)		英会話 I 英会話 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平9. 4)
122	兼任	講師	マイケル C ルイス Michael. C. Lewis <平成23年4月>		Mechanical Engineering Degree (英国)		英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平12. 4)
123	兼任	講師	クボ キミヒト 久保 公人 <平成23年4月>		修士※ (言語文化)		英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平21. 4)
124	兼任	講師	ナカジマ ヒロコ 中島 寛子 <平成23年4月>		Master of Arts Teaching English As A Second Language (米国)		英語 I 英語 II 資格英語 II A 資格英語 II B	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平15. 9)
125	兼任	講師	ニシガキ ユカ 西垣 有夏 <平成23年4月>		修士※ (文学)		英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	京都学園大学 人間文化学部 講師 (平16. 4)
126	兼任	講師	ノグチ マサコ 野口 昌子 <平成23年4月>		修士 (文学)		英語 I 英語 II 資格英語 I A 資格英語 I B	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平2. 4)
127	兼任	講師	マツモト サオリ 松本 沙織 <平成23年4月>		Master of Arts Linguistics (米国)		英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平18. 9)
128	兼任	講師	シマモト ケイタ 嶋本 慶太 <平成23年4月>		修士 (人間環境学)		ドイツ語 I ドイツ語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平18. 4)

129	兼任	講師	タジマ アキヒロ 田島 昭洋 <平成23年4月>		修士 (言語文化 学)		ドイツ語 I ドイツ語 II	1前 1後	2 2	1 1	大阪市立大学 兼任講師 (平15. 4)	
130	兼任	講師	コマツ マサミチ 小松 正道 <平成23年4月>		修士 (文学)		フランス語 I フランス語 II	1前 1後	2 2	1 1	関西学院大学文学部 兼任講師 (平21. 9)	
131	兼任	講師	コマツ ヒロアキ 小松 寛明 <平成23年4月>		修士 (文学)		イタリア語 I イタリア語 II	1前 1後	2 2	1 1	大阪音楽大学 兼任講師 (平元. 10)	
132	兼任	講師	ケヤキダニ ユキコ 榎谷 由紀子 <平成23年4月>		修士 (文学)		イタリア語 I イタリア語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平元. 4)	
133	兼任	講師	タナカ ローコ 田中 洋子 <平成23年4月>		修士 (言語文化 学)		中国語 I 中国語 II	1前 1後	2 2	1 1	近畿大学経済学部 兼任講師 (平22. 4)	

教 員 の 氏 名 等												
(音楽学部音楽マネジメント学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する週当 たり平均日数
1	専	教授 (学科長)	ヤスイ トシオ 安井 敏雄 <平成23年4月>		Ph. D. Computer Science (米国)		音楽マネジメント入門	1前	2	1	相愛大学音楽学部 教授 (平22.4)	5日
2	専	教授	アカシ トシオ 赤石 敏夫 <平成23年4月>		芸術学士		ソルフェージュA ソルフェージュB	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19.4)	5日
3	専	教授	ヤマモト エイジ 山本 英二 <平成23年4月>		修士 (音楽)		音楽演習ⅠA 音楽演習ⅠB 音楽演習ⅡA 音楽演習ⅡB	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19.4)	5日
4	専	教授	カシワギ レイコ 柏木 玲子 <平成24年4月>		芸術学士		コードプロGRESSION	2前	2	1	相愛大学音楽学部 教授 (平21.4)	5日
5	専	教授	イヅカ イチロウ 飯塚 一朗 <平成23年4月>		芸術学士		合奏ⅠA 合奏ⅠB 合奏ⅡA 合奏ⅡB	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19.4)	5日
6	専	教授	オオイワ ハジメ 大岩 元 <平成23年4月>		理学博士		音楽マネジメント入門 音楽とコンピュータ プログラミング基礎Ⅰ プログラミング演習Ⅰ	1前 1後 1後 1後	2 4 4 4	1 2 2 2	慶応義塾大学 名誉教授 (平20.4)	5日
7	専	准教授	マツタニ ヨウコ 松谷 葉子 (フジオカ ヨウコ) (藤岡 葉子) <平成23年4月>		経営学 修士 (専門職)		音楽マネジメント入門	1前	2	1	株式会社カシノR. D. S代表取締役 (平15.1)	5日
8	専	准教授	スナダ カズミチ 砂田 和道 <平成23年4月>		Master of Music (米国)		音楽マネジメント入門	1前	2	1	くらしに音楽 プロジェクト 事務局長 (平20.4)	5日
9	専	講師	ハンダ ミツヨ 橋田 光代 <平成23年4月>		工学博士		音楽マネジメント入門 アーティストのソフトウェアA	1前 1後	2 4	1 2	関西学院大学 理工学研究科 博士研究員 (平18.4)	5日
10	兼担	教授	チバ シンヤ 千葉 真也 <平成23年4月>		修士※ (文学)		大学生のための日本語入門 日本語表現法	1前・後 2前・後	8 12	4 6	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20.4)	
11	兼担	教授	ヤマシタ ノボル 山下 昇 <平成23年4月>		修士 (文学)		大学生のための日本語入門 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前・後 1前 1後 2前 2後	4 2 2 2 2	2 1 1 1 1	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20.4)	
12	兼担	教授	シャク テッシュウ 釈 徹宗 <平成23年4月>		博士 (学術)		建学の精神 仏教思想と現代	1前 2前	2 2	1 1	相愛大学人文学部 教授 (平22.4)	
13	兼担	教授	トリイ マサハル 鳥井 正晴 <平成23年4月>		修士※ (文学)		文学と人生	1前	2	1	相愛大学人文学部 教授 (平14.4)	
14	兼担	教授	クロサカ トシアキ 黒坂 俊昭 <平成24年4月>		文学修士		音楽の楽しみ	2前	2	1	相愛大学音楽学部 教授 (平8.4)	

15	兼担	教授	クレタコ ミツシ 呉谷 充利 <平成23年4月>	博士 (工学)	西洋美術史 社会と芸術	2後 1後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 教授 (平18. 4)
16	兼担	教授	エグサ ヒロユキ 江草 浩幸 <平成23年4月>	学術博士	心理学入門	1後	2	1	相愛大学人文学部 教授 (平22. 4)
17	兼担	教授	ハシモト ジュンイチロウ 橋元 淳一郎 <平成23年4月>	修士 (理学)	物理学入門	1前	2	1	相愛大学人文学部 教授 (平9. 4)
18	兼担	教授	ハセガワ セイイチ 長谷川 精一 <平成23年4月>	博士 (教育学)	教育原論 学校と教師	1前・後 2前・後	8 8	4 4	相愛大学人間発達学部 教授 (平18. 4)
19	兼担	教授	マエダ マサヒロ 前田 昌宏 <平成23年4月>	芸術学士	合奏 I A 合奏 I B 合奏 II A 合奏 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平22. 4)
20	兼担	教授	ナカタニ ミツル 中谷 満 <平成23年4月>	芸術学士	合奏 I A 合奏 I B 合奏 II A 合奏 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平20. 4)
21	兼担	准教授	ミヨシ ユキハル 三好 幸治 <平成23年4月>	法学修士	法学入門 日本国憲法	1前 1前	2 2	1 1	相愛大学 共通教育センター 准教授 (平20. 4)
22	兼担	准教授	ニシサコ セイイチロウ 西迫 成一郎 <平成24年4月>	修士※ (社会学)	健康科学	2後	4	2	相愛大学人文学部 准教授 (平15. 4)
23	兼担	准教授	マスタ ケイ 益田 圭 <平成24年4月>	修士 (人間・環 境学)	人権教育	2前・後	4	2	相愛大学人文学部 准教授 (平18. 4)
24	兼担	准教授	イシカワ レイコ 石川 玲子 <平成24年4月>	文学修士	資格英語ⅢA 資格英語ⅢB	2前 2後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 准教授 (平14. 4)
25	兼担	准教授	ハヤシ ヌタカ 林 裕 <平成23年4月>	Aufbau- studienganges KUNSTLERISCHE AUSBILDUNG im Fach VIOLON CELLO bestanden (ドイツ)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 合奏 I A 合奏 I B 合奏 II A 合奏 II B	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 准教授 (平22. 4)
26	兼担	講師	タカキ マナブ 高木 学 <平成23年4月>	修士※ (社会学)	社会学概説 情報処理演習	1前 1前・後	2 4	1 2	相愛大学人文学部 専任講師 (平15. 4)
27	兼担	講師	イノウエ マキ 井上 麻紀 <平成23年4月>	学士 (音楽)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 専任講師 (平22. 4)
28	兼任	講師	イシイ タカコ 石井 尚子 <平成23年4月>	音楽学士	音楽基礎演習A 音楽基礎演習B	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平9. 4)
29	兼任	講師	カサヤ イクコ 粕谷 育子 <平成23年4月>	芸術学士	ソルフエージュA ソルフエージュB	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 10)
30	兼任	講師	ヨシザワ ユカリ 吉澤 ゆかり <平成23年4月>	学士 (芸術)	ソルフエージュA ソルフエージュB	1前 1後	2 2	1 1	相愛高等学校音楽科 兼任講師 (平12. 4)
31	兼任	講師	タスエ カツシ 田末 勝志 <平成23年4月>	修士 (音楽)	合唱	1後	2	1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平10. 4)



32	兼任	講師	ユビ クニコ 由比 邦子 <平成24年4月>		修士 (芸術学)	諸民族の音楽	2前	2	1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平9. 4)
33	兼任	講師	キタガワ ジュンコ 北川 純子 <平成23年4月>		修士 (文学)	音楽の歴史A 音楽の歴史B	1前 1後	2 2	1 1	大阪教育大学 准教授 (平16. 4)
34	兼任	講師	ニワ アユミ 丹羽 あゆみ <平成24年4月>		芸術学士	キーボード・ハーモニー	2後	2	1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭57. 4)
35	兼任	講師	ミヤモト セイコ 宮本 聖子 <平成23年4月>		学士 (音楽)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平20. 4)
36	兼任	講師	ニシモト ジュン 西本 淳 <平成23年4月>		修士 (音楽)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平15. 4)
37	兼任	講師	シマダ アキラ 嶋田 明 <平成23年4月>		芸術学士	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	宝塚歌劇 オーケストラ楽員 トランペット奏者 (昭51. 9)
38	兼任	講師	ノダ コウイチ 野田 篁一 <平成23年4月>		音楽学士	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭60. 4)
39	兼任	講師	ヤマキ マサテル 矢巻 正輝 <平成23年4月>		芸術学士	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 4)
40	兼任	講師	オガタ フミノリ 緒方 文則 <平成23年4月>		芸術学士 (音楽)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭56. 5)
41	兼任	講師	ナカガワ トオル 中川 亨 <平成23年4月>		バリエコール ノルマル 音楽院 アンサンブル 科 修了 (フランス)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平13. 4)
42	兼任	講師	ソガベ チエコ 曽我部 千恵子 <平成23年4月>		芸術学士	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭60. 4)
43	兼任	講師	ハヤシ トシタケ 林 俊武 <平成23年4月>		芸術学士	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平2. 4)
44	兼任	講師	ワタナベ ユキコ 渡辺 友希子 <平成23年4月>		芸術学士	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平16. 4)
45	兼任	講師	フクイ アキラ 福井 聡 <平成23年4月>		ベルギー王 立アント ワープ音楽 院 卒業 (ベル ギー)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 4)
46	兼任	講師	ヒラオ タミノ 平尾 多美納 (ニシオカ タミノ) (西岡 多美納) <平成23年4月>		修士 (学校教育 学)	音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B 合奏 I A 合奏 I B 合奏 II A 合奏 II B	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭58. 4)

47	兼任	講師	マンダ カズキ 萬田 一樹 <平成23年4月>	修士 (音楽)	歌唱法 音楽演習 I A 音楽演習 I B 音楽演習 II A 音楽演習 II B	2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	おんぶつち保育園 理事長 (平19. 5)	
48	兼任	講師	タニモト ヌタカ 谷本 裕 <平成23年4月>	修士 (音楽学)	音楽マネジメント・リー ダーシップ論	1前	2	1	NDIビルマネジメント 株式会社 チーフマネジャー (平成12. 5)	
49	兼任	講師	ワカモト カツヨシ 若本 勝義 <平成23年4月>	文学士	キャリアデザイン	1後	2	1	株式会社バイオダイナ ミックス研究所 代表取締役 (昭和62. 4)	
50	兼任	講師	コドノ オリエ 神殿 織江 <平成23年4月>	経営管理修 士(専門 職)	コミュニケーションと交渉術	1後	2	1	JOLインターナショナル 株式会社 取締役 (平成17. 5)	
51	兼任	講師	マツダ ニウジ 松田 雄治 <平成24年4月>	修士※ (教育学)	ビジネス英語 A ビジネス英語 B	2前 2後	4 4	2 2	有限会社 トランステック 代表取締役 (平成18. 8)	
52	兼任	講師	デグチ タンリュウ 出口 湛龍 <平成23年4月>	修士 (文学)	建学の精神	1前	2	1	(学) 相愛学園 理事長 (平17. 6)	
53	兼任	講師	タムラ シオン 多村 至恩 <平成23年4月>	社会学修士	建学の精神 仏教思想と現代	1前 2後	2 2	1 1	浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター 研究員 (平17. 4)	
54	兼任	講師	ホンダ アヤ 本多 彩 <平成23年4月>	文学修士※	建学の精神 仏教思想と現代	1後 2前	2 2	1 1	兵庫大学生涯福祉学部 講師 (平22. 4)	
55	兼任	講師	ナガオカ ガクチョウ 長岡 岳澄 <平成23年4月>	修士 (文学)	建学の精神	1後	2	1	中央仏教学院 講師 (平22. 4)	
56	兼任	講師	ノリヤマ サトル 乗山 悟 <平成24年4月>	修士 (文学)	仏教思想と現代	2後	2	1	龍谷大学国際文化学部 講師 (平22. 4)	
57	兼任	講師	チタニ キミカズ 智谷 公和 <平成24年4月>	修士※ (文学)	仏教思想と現代	2前	2	1	相愛大学 兼任講師 (平8. 4)	
58	兼任	講師	イケヤマ セツロウ 池山 説郎 <平成23年4月>	Ph. D. (History of Mathematics ) (米国)	科学と人間 科学史入門	2前 1前	2 2	1 1	京都産業大学文化学部 講師 (平16. 9)	
59	兼任	講師	ホンダ マコト 本多 真 <平成24年4月>	国際文化学 博士	環境と人間	2前	2	1	本願寺教学伝道 研究センター 研究生 (平22. 4)	
60	兼任	講師	クワバラ ヒデユキ 桑原 英之 <平成24年4月>	修士※ (文学)	生命と人間	2後	2	1	近畿大学 兼任講師 (平21. 4)	
61	兼任	講師	タナカ フジオ 田中 不二夫 <平成23年4月>	修士 (文学)	西洋文化史 美学	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平11. 4)	
62	兼任	講師	ニシオ ヤスヒロ 西尾 泰広 <平成23年4月>	修士※ (文学)	日本歴史入門	1後	2	1	大阪教育大学教育学部 兼任講師 (平20. 4)	
63	兼任	講師	オオニシ リクコ 大西 陸子 <平成24年4月>	修士※ (文学)	世界歴史入門	2前	2	1	相愛大学 兼任講師 (平12. 4)	
64	兼任	講師	セキグチ ヤスユキ 関口 靖之 <平成23年4月>	教育学修士	地理学入門(地誌を含む)	1前	2	1	大阪教育大学 兼任講師 (平10. 4)	
65	兼任	講師	タナカ ヨシコ 田中 美子 <平成23年4月>	修士 (文学)	倫理学入門	1前	2	1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平16. 4)	
66	兼任	講師	スギモト ヨシオ 杉本 良雄 <平成23年4月>	修士 (経済学)	経済学入門	1前	2	1	立命館大学経済学部 兼任講師 (昭62. 4)	

67	兼任	講師	スガ ルミコ 菅 るみこ ＜平成24年4月＞	修士 (経営)		経営学入門 マーケティング入門	2前 2後	2 2	1 1	株式会社DDJ 代表取締役 (平19. 8)	
68	兼任	講師	オオタニ シンタロウ 大谷 新太郎 ＜平成24年4月＞	修士※ (観光学)		観光学入門	2前	2	1	阪南大学国際観光学部 准教授 (平22. 4)	
69	兼任	講師	ヤマザキ ミツヒコ 山崎 充彦 ＜平成23年4月＞	博士 (人間・環 境学)		政治学入門	1後	2	1	龍谷大学社会学部 講師 (平11. 4)	
70	兼任	講師	ムカイ タダシ 向井 正 ＜平成23年4月＞	理学博士		数学入門 地球と宇宙	2後 1前	2 2	1 1	神戸大学 名誉教授 (平21. 4)	
71	兼任	講師	ハラダ ナルヒコ 原田 匠彦 ＜平成23年4月＞	学士 (教養)		化学入門	1後	2	1	相愛高等学校 兼任講師 (平18. 4)	
72	兼任	講師	ヨシナリ サトシ 吉成 哲史 ＜平成23年4月＞	理学博士		生物学入門 情報処理演習	1後 1前・後	2 8	1 4	京都大学大学院 理学研究科研究員 (平20. 4)	
73	兼任	講師	ナカガワ マナブ 中川 学 ＜平成24年4月＞	博士 (医学)		現代と医学	2前	2	1	関西医科大学 助教 (平19. 4)	
74	兼任	講師	ヤノ トモコ 矢野 朋子 ＜平成23年4月＞	社会福祉 学士		看護介護入門	1後	2	1	大阪府看護協会 訪問看護ステーション (平20.11)	
75	兼任	講師	オカモト カコ 岡本 香代子 ＜平成24年4月＞	医学博士		健康科学	2後	2	1	京都大学 兼任講師 (平5. 4)	
76	兼任	講師	オクノ マサミチ 奥野 暢通 ＜平成23年4月＞	教育学 修士		健康科学 健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	2後 1前 2前	4 1 1	2 1 1	四天王寺大学 准教授 (平18. 4)	
77	兼任	講師	ミナトノ エミ 港野 恵美 ＜平成23年4月＞	修士 (教育学)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2後	4 1	4 1	大阪電気通信大学 兼任講師 (平18. 4)	
78	兼任	講師	アリタ ヒロシ 有田 浩史 ＜平成23年4月＞	修士 (教育)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2前・後	3 3	3 3	トライデントスポーツ 医療看護専門学校 講師 (平15. 4)	
79	兼任	講師	オチ ニウコウ 越智 祐光 ＜平成23年4月＞	修士 (学校教育 学)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2前・後	4 2	4 2	相愛大学 兼任講師 (平19. 4)	
80	兼任	講師	アスマ タカシ 東 隆史 ＜平成23年4月＞	学術博士		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2後	3 1	3 1	四天王寺大学短期大学部 准教授 (平21. 4)	
81	兼任	講師	サトウ ミツコ 佐藤 光子 ＜平成23年4月＞	修士 (教育学)		健康とスポーツ実習 生涯健康とスポーツ実習	1前・後 2前	5 1	5 1	大阪教育大学 兼任講師 (平2. 4)	
82	兼任	講師	シモジ シンヤ 下地 信也 ＜平成23年4月＞	修士 (社会学)		キャリアデザイン論 キャリアデザイン演習	1後 2後	2 2	1 1	関西外国語大学 外国語学部兼任講師 (平21. 4)	
83	兼任	講師	オカモト クニコ 岡本 久仁子 ＜平成23年4月＞	文学士		情報処理演習	1前・後	8	4	大阪国際大学 講師 (平10. 4)	
84	兼任	講師	オカダ ニタカ 岡田 裕 ＜平成23年4月＞	修士 (教育学)		情報処理演習 情報と社会	1前・後 1前	8 2	4 1	大阪芸術大学短期大学 部 講師 (平5. 4)	
85	兼任	講師	ナカジマ キンヤ 中島 欣哉 ＜平成23年4月＞	修士※ (文学)		情報処理演習	1前・後	8	4	相愛大学 兼任講師 (平18. 4)	
86	兼任	講師	ハヤシ ミエコ 林 美恵子 ＜平成23年4月＞	修士 (文学)		情報処理演習	1前・後	8	4	相愛大学人文学部 兼任講師 (平17. 4)	
87	兼任	講師	ハギワラ マサヤ 萩原 雅也 ＜平成23年4月＞	修士 (都市政 策)		生涯学習概論	1後	2	1	大阪樟蔭女子大学 学芸学部 准教授 (平18. 4)	

88	兼任	講師	ヒラマツ カツイチ 平松 克一 <平成23年4月>	経済学士	図書及び図書館史	1前	2	1	梅花女子大学 文化表現学部 教授 (平18. 4)
89	兼任	講師	ナワ ツキノスケ 名和 月之介 <平成24年4月>	人間福祉学 博士	ボランティア論 ボランティア体験	2前 2後	2 1	1 1	相愛大学 兼任講師 (平16. 4)
90	兼任	講師	トミオカ ミチコ 富岡 美知子 <平成24年4月>	M. A. (Speech Communication) (米国)	異文化間教育論	2後	2	1	近畿大学 兼任講師 (平9. 4)
91	兼任	講師	ナカオ シホウ 中尾 史峰 <平成24年4月>	文学士	宗門法規	2前	2	1	浄土真宗本願寺派 総局公室長 (平22. 4)
92	兼任	講師	カドノ ヒロアキ 葛野 洋明 <平成24年4月>	修士※ (文学)	布教法	2後	2	1	龍谷大学 実践真宗学研究所 特任教授 (平21. 4)
93	兼任	講師	タカハシ アキト 高橋 昭人 <平成24年4月>	学士 (文学)	勤式作法	2後	2	1	相愛大学 兼任講師 (平19. 4)
94	兼任	講師	ヨハン E アルスドルフ J. E. Alsdorf <平成23年4月>	Master of Education Curriculum , Instruction and Technology (米国)	英会話 I 英会話 II	1前 1後	2 2	1 1	京都外国語大学 講師 (平15. 9)
95	兼任	講師	モリカワ ヤスコ 森川 康子 <平成23年4月>	Masters in Education (米国)	英会話 I 英会話 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平9. 4)
96	兼任	講師	マイケル C ルイス Michael. C. Lewis <平成23年4月>	Mechanical Engineering Degree (英国)	英会話 I 英会話 II 英会話 III 英会話 IV	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平12. 4)
97	兼任	講師	クボ キミヒト 久保 公人 <平成23年4月>	修士※ (言語文化)	英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平21. 4)
98	兼任	講師	ナカジマ ヒロコ 中島 寛子 <平成23年4月>	Master of Arts Teaching English As A Second Language (米国)	英語 I 英語 II 資格英語 II A 資格英語 II B	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平15. 9)
99	兼任	講師	ニシガキ ユカ 西垣 有夏 <平成23年4月>	修士※ (文学)	英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	京都学園大学 人間文化学部 講師 (平16. 4)
100	兼任	講師	ノグチ マサコ 野口 昌子 <平成23年4月>	修士 (文学)	英語 I 英語 II 資格英語 I A 資格英語 I B	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学人文学部 兼任講師 (平2. 4)
101	兼任	講師	マツモト サオリ 松本 沙織 <平成23年4月>	Master of Arts Linguistics (米国)	英語 I 英語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平18. 9)
102	兼任	講師	シマモト ケイタ 嶋本 慶太 <平成23年4月>	修士 (人間環境学)	ドイツ語 I ドイツ語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平18. 4)
103	兼任	講師	タジマ アキヒロ 田島 昭洋 <平成23年4月>	修士 (言語文化学)	ドイツ語 I ドイツ語 II	1前 1後	2 2	1 1	大阪市立大学 兼任講師 (平15. 4)
104	兼任	講師	コマツ マサミチ 小松 正道 <平成23年4月>	修士 (文学)	フランス語 I フランス語 II	1前 1後	2 2	1 1	関西学院大学文学部 兼任講師 (平21. 9)
105	兼任	講師	コマツ ヒロアキ 小松 寛明 <平成23年4月>	修士 (文学)	イタリア語 I イタリア語 II	1前 1後	2 2	1 1	大阪音楽大学 兼任講師 (平元. 10)
106	兼任	講師	ケヤキダニ ユキコ 樺谷 由紀子 <平成23年4月>	修士 (文学)	イタリア語 I イタリア語 II	1前 1後	2 2	1 1	相愛大学 兼任講師 (平元. 4)

107	兼任	講師	タナカ ヨウコ 田中 洋子 <平成23年4月>		修士 (言語文化 学)	中国語 I 中国語 II	1 前 1 後	2 2	1 1	近畿大学経済学部 兼任講師 (平22. 4)	
-----	----	----	-------------------------------	--	-------------------	-----------------	------------	--------	--------	------------------------------	--

教 員 の 氏 名 等												
(音楽学部音楽マネジメント学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する週当 たり平均日数
1	専	教授	ヤスイ トシオ 安井 敏雄 ＜平成24年4月＞		Ph. D. Computer Science (米国)		音楽産業ネットワーク論 I T音楽産業概論 インターンシップ実習 I T音楽産業持論 アートマネジメント研究 音楽ビジネス演習 音楽ビジネス卒業研究	2後 2前 3後集中 2前 3後 4前 4後	2 2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平22. 4)	5日
2	専	教授	アカシ トシオ 赤石 敏夫 ＜平成24年4月＞		芸術学士		作・編曲法基礎 和声学 作・編曲法応用	3前 2後 3後	2 2 2	1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平19. 4)	5日
3	専	教授	カシワギ レイコ 柏木 玲子 ＜平成24年4月＞		芸術学士		ポピュラー音楽概論 コードプロGRESSION	2前 2前	2 6	1 3	相愛大学音楽学部 教授 (平21. 4)	5日
4	専	教授	オノイワ ハジメ 大岩 元 ＜平成24年4月＞		理学博士		プログラミング基礎II インターンシップ研究 プログラミング演習II I T音楽産業演習 インターンシップ実習 I T音楽産業卒業研究	2前 3前 2前 4前 3後集中 4後	2 2 4 2 1 2	1 1 2 1 1 1	慶応義塾大学 名誉教授 (平20. 4)	5日
5	専	准教授	マツタニ ヨウコ 松谷 葉子 (フジオカ ヨウコ) (藤岡 葉子) ＜平成24年4月＞		経営学 修士 (専門職)		音楽企画演習 デジタル音楽機器演習A デジタル音楽機器演習B 音楽コンテンツ配信 の基礎 インターンシップ研究 インターンシップ実習 音楽事業管理論 音楽ビジネス起業論 音楽事業経営論 音楽企画実習 音楽ビジネス卒業研究 音楽ビジネス演習	2後 2前 2後 2前 3前 3後集中 3後 3前 3後 3前 4後 4前	2 2 2 2 1 1 2 2 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社カシノ R. D. S代表取締役 (平15. 1)	5日
6	専	准教授	スナダ カズミチ 砂田 和道 ＜平成24年4月＞		Master of Music (米国)		音楽企画概論 インターンシップ研究 音楽企画演習 音楽企画実習 芸術経営論 音楽産業と文化政策 インターンシップ実習 コンサート企画実習 アーティスト論 音楽ビジネス演習 音楽ビジネス卒業研究	2後 3前 2後 3前 2後 3前 3後集中 3前 3後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	くらしに音楽 プロジェクト 事務局長 (平20. 4)	5日
7	専	講師	ハシダ ミツヨ 橋田 光代 ＜平成24年4月＞		工学博士		アーティストのソフトウェアB 音楽企画演習 インターンシップ研究 インターンシップ実習 音楽企画実習 I T音楽産業卒業研究 コンサート企画実習 音楽と情報科学 I T音楽産業演習	2前 2後 3前 3後集中 3前 4後 3前 4前 4前	4 2 2 1 1 2 1 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1	関西学院大学 理工学研究科 博士研究員 (平18. 4)	5日

8	兼任	教授	ヤマシタ ノボル 山下 昇 ＜平成25年4月＞		修士 (文学)	インターンシップ	3前・後集中	2	2	相愛大学 共通教育センター 教授 (平20. 4)
9	兼任	教授	マユダ マサヒロ 前田 昌宏 ＜平成25年4月＞		芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平22. 4)
10	兼任	教授	サイトウ タツオ 斎藤 達男 ＜平成25年4月＞		芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB 合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平4. 4)
11	兼任	教授	ナカタニ ミツル 中谷 満 ＜平成25年4月＞		芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB 合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 教授 (平20. 4)
12	兼任	講師	イズミ タカコ 泉 貴子 ＜平成25年4月＞		博士 (音楽)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 専任講師 (平18. 4)
13	兼任	講師	ヨシザワ ニカリ 吉澤 ゆかり ＜平成24年4月＞		学士 (芸術)	和声学 作・編曲法基礎 作・編曲法応用	2後 3前 3後	2 2 2	1 1 1	相愛高等学校音楽科 兼任講師 (平12. 4)
14	兼任	講師	ウチオ エミ 内尾 恵美 ＜平成24年4月＞		修士 (教育学)	キーボード・ハーモニー	2後	4	2	大阪教育大学 兼任講師 (平3. 4)
15	兼任	講師	ヤギ リョウスケ 八木 良介 ＜平成25年4月＞		Master of Arts in Music (米国)	楽器学 楽曲分析	3前 4前	2 2	1 1	カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 助手 (平21. 9)
16	兼任	講師	シマダ アキラ 嶋田 明 ＜平成25年4月＞		芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB 合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	宝塚歌劇 オーケストラ楽員 トランペット奏者 (昭51. 9)
17	兼任	講師	ナカガワ トオル 中川 亨 ＜平成25年4月＞		パリエコール ノルマル 音楽院 アンサンブル 科 修了 (フランス)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平13. 4)
18	兼任	講師	ハヤシ トシタケ 林 俊武 ＜平成25年4月＞		芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平2. 4)
19	兼任	講師	ワタナベ ユキコ 渡辺 友希子 ＜平成25年4月＞		芸術学士	合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平16. 4)

20	兼任	講師	フクイ アキラ 福井 聡 ＜平成25年4月＞	ベルギー王立 アントワープ 音楽院 卒業 (ベルギー)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB 合奏ⅢA 合奏ⅢB 合奏ⅣA 合奏ⅣB	3前 3後 4前 4後 3前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平17. 4)
21	兼任	講師	ヒラオ タミノ 平尾 多美納 (ニシオカ タミノ) (西岡 多美納) ＜平成25年4月＞	修士 (学校教育 学)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭58. 4)
22	兼任	講師	シヤカゴオリ ヨウスケ 釈迦郡 洋介 ＜平成25年4月＞	学士 (音楽)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平20. 4)
23	兼任	講師	ヒラヤマ ヨシエ 平山 善恵 ＜平成25年4月＞	音楽学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	大阪音楽大学 兼任講師 (平15. 4)
24	兼任	講師	シオミ タスク 塩見 亮 ＜平成25年4月＞	Meisterklassen examen im ku nstlerischen Hauptfach Klavier (ドイツ)	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平20. 4)
25	兼任	講師	ムカイ カズヒサ 向井 和久 ＜平成25年4月＞	芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平11. 4)
26	兼任	講師	オカモト テツ 岡本 哲 ＜平成25年4月＞	芸術学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平10. 4)
27	兼任	講師	ヨシノ タツキ 吉野 竜城 ＜平成25年4月＞	音楽学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平16. 4)
28	兼任	講師	ソダ レイコ 曾田 玲子 ＜平成25年4月＞	音楽学士	音楽演習ⅢA 音楽演習ⅢB 音楽演習ⅣA 音楽演習ⅣB	3前 3後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 1 1	相愛大学音楽学部 兼任講師 (昭58. 4)
29	兼任	講師	ヤマダ ナツ 山田 夏 ＜平成25年4月＞	修士 (音楽)	コンピュータミュージック基礎 コンピュータミュージック制作	3前 3後	4 4	2 2	相愛大学音楽学部 兼任講師 (平12. 4)
30	兼任	講師	カイ タカヒロ 甲斐 隆浩 ＜平成24年4月＞	専門学校 卒業	プレゼンテーション WEBデザイン CGプログラミング	2後 3後 4前	2 2 2	1 1 1	株式会社 ワークアカデミー 講師 (平成16. 3)
31	兼任	講師	ムラカミ シンイチロウ 村上 心一郎 ＜平成25年4月＞	文学士	ビジネス中国語A ビジネス中国語B	3前 3後	2 2	1 1	株式会社和平旅行 代表取締役 (昭62. 12)
32	兼任	講師	タチオカ ヒロン 立岡 浩 ＜平成25年4月＞	博士 (政策科 学)	音楽著作権 ※	3前	1.6	1	四天王寺大学経営学部 教授 (平21. 4)
33	兼任	講師	ナカイ ヒデノリ 中井 秀範 ＜平成25年4月＞	法学士	音楽著作権 ※	3前	0.4	1	吉本興業株式会社 執行役員 (昭56. 4)
34	兼任	講師	フジオカ タクミ 藤岡 巧 ＜平成25年4月＞	修士 (国際公共 政策)	国際文化関係論	3前	2	1	株式会社 モナッド&シード 代表取締役 (平成7. 4)
35	兼任	講師	カキサキ ケイジ 柿崎 景二 ＜平成25年4月＞	学士 (工学)	音響学A 音響学B	3前 3後	2 2	1 1	株式会社ソニー・ ミュージックコミュニ ケーションズ 係長 (平成22. 2まで)



36	兼任	講師	テラニシ ハジメ 寺西 肇 <平成26年4月>		文学士		音楽出版と広告メディア論	4前	2	1	フリー ジャーナリスト (平成21. 3)	
37	兼任	講師	クドウ ヤスノリ 工藤 保則 <平成26年4月>		博士 (社会学)		マンガ・アニメ音楽文化論	4後	2	1	龍谷大学社会学部 准教授 (平成19. 4)	
38	兼任	講師	ハヤシ トオル 林 徹 <平成26年4月>		An School of Contempora ry Music Jazz (米国)		ゲーム・ミュージック文 化論	4前	2	1	株式会社 ネットディメンション 代表取締役 (平成12. 5)	
39	兼任	講師	カタヨセ ハルヒロ 片寄 晴弘 <平成24年4月>		工学博士		デジタル音楽基礎概論 デジタル音楽基礎特論	2前 2前	2 2	1 1	関西学院大学 理工学部 教授 (平成14. 4)	
40	兼任	講師	クノ カツヤ 久野 勝也 <平成24年4月>		芸術学士		録音の技術と表現 サウンド・リインフォースメント 舞台組織機構概論	2後 3後 3前	2 2 2	1 1 1	音響家 (昭58. 4)	
41	兼任	講師	タカオキ ヒデアキ 高沖 秀明 <平成26年4月>		法学士		映像と音楽と放送	4後	2	1	毎日放送制作局 副部長 (昭和61. 4)	
42	兼任	講師	オクノ タクジ 奥野 卓司 <平成25年4月>		博士 (学術)		音楽とライブラリ構築	3前	2	1	関西学院大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 指導教授 (平成13. 4)	
43	兼任	講師	ヒオキ コウイチロウ 日置 弘一郎 <平成25年4月>		博士 (経済学)		音楽マーケティング論	3後	2	1	京都大学大学院 経済学研究科 教授 (平成4. 4)	